ELECOM

Laneed
Easy Network Solution Provider

取扱説明書 基本編

11Mbps ISDN Wireless Router

11Mbps ISDN無線ルータ

■ LD-WL11/RT

ご使用になる前に	1
本製品と回線をつなぐ	2
パソコンを設定する	3
本製品とパソコンをつなぐ	4
簡単設定ソフトで設定する	5
WWWブラウザで設定する	6
インターネットにつなぐ	7
無線LANを構築する	8
アナログ機能を設定する	9
保守について	10
ご参考に	11

本書は、最初にお読みください。
本製品を使うための基本的な内容について説明しています。
付属のCD-ROMには、取扱説明書[応用編]と「USBを使うかたへ」を収録していますので、必要に応じてご覧ください。

エレコム株式会社

このたびは、本製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

本製品は、無線LAN機能を備えたISDN ROUTERです。

ご使用の前に、この取扱説明書をよくお読みいただき、本製品の性能を十分発揮していただくとともに、末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

登録商標について

Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
本文中の画面の使用に際して、米国Microsoft Corporationの許諾を得ています。
Macintosh、Mac-OSは、米国アップルコンピューター社の登録商標です。
Netscape Navigatorは、Netscape Communications Corporationの商標です。

意図しない自動接続による通信料課金に注意!!

本製品をダイヤルアップルータとしてご使用になる場合は、自動接続の機能をよくご理解の上、ご使用ください。
ダイヤルアップルータを自動接続する設定にして、パソコンやLANに接続した場合、ダイヤルアップルータはパソコンのアプリケーション(メールソフト、ブラウザなど)が送信するデータやLAN上を流れるデータの宛先を監視し、WAN側への宛先があると本体に設定された内容にしたがって自動的に回線への接続を行います。そのため設定まちがい、回線切断忘れ、ソフトウェアや機器が定期送信パケットを発信していた場合には、予想外の電話料金やプロバイダー接続料金がかかる場合があります。ときどき本製品の[B1]ランプまたは[B2]ランプが点灯や点滅を繰り返していないか、または通信記録や累積料金を調べて、意図しない接続がないか、累積料金が適当であるかどうかをご確認ください。

情報処理装置等電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)のクラスA情報技術に準拠した装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるように要求されることがあります。

ユーザー登録について

本製品のユーザーサポート用愛用者カードに必要事項をご記入いただき、必ずご返送ください。
ご返送いただけない場合、サポートサービスをご提供できませんのでご注意ください。

本製品でできること

◎本製品の設定は、すべてWWWブラウザから行えます。

◎最大11Mbpsの無線LAN機能を備えていますので、弊社製の11Mbps対応無線LANカードを装着するパソコン(PC/AT互換機)から本製品にワイヤレス接続できます。また、無線LANは、現在発売されている弊社製の11Mbps対応無線LANカードで使えます。

◎アドレス自動割り当て(DHCPサーバ)機能を備えていますので、簡単に有線および無線LANの構築が行えます。

◎無線LAN機能として、有線LAN上のパソコンが本製品を介して、無線LAN上のパソコンとワイヤレス接続できるアクセスポイント(ローミングを含む)機能を搭載しています。

◎お手持ちのDSU(デジタルサービスユニット)やDSU内蔵型TA(ターミナルアダプター)、G4ファクシミリ、デジタル電話機の接続に必要な[ISDN S/T]ポートを備えています。

◎ISDNや専用回線(OCNなど)に直接接続できます。また、本製品に内蔵のDSUを切り離して、市販のDSUやDSU内蔵型TAと接続できます。

◎ISDN回線の課金情報をはじめとする各種情報を、WWWブラウザの画面で確認できます。通信エラーの原因や、回線使用料などの管理も簡単です。

◎プロバイダーが提供するメール着信通知サービスを利用できます。本製品の表示ランプが点滅して、メールが着信したことを知らせます。
WWWブラウザでメールの送信者と題名を確認することもできます。

◎本製品のファームウェアは、インターネット経由で更新できます。
専用ソフトウェアを使うので、操作が簡単です。

◎ISDN回線で使うとき、電話機、FAX 、モデムなどのアナログ機器を利用できます。また、アナログ機器どうしで内線通話や内線転送もできます。

◎不慮の停電に備えて、停電対策用電池ボックスを備えていますので、停電のときはその電池を使って電話などのアナログ機器をバックアップします。また、デジタル電話での通話もできます。 (約1時間の連続通話が可能)

◎NTTのINSネット64の便利なサービスを利用できます。
「フレックスホン」、「INS ボイスワープ」や「INS ナンバーディスプレイ」、「フレッツISDN」をはじめ、NTTが提供している各種サービスを利用できます。

◎[Ethernet]ポートが装備されていない場合でも、パソコン(Windows)に[USB]ポートが装備されていれば、本製品は、TA(ターミナルアダプタ)として動作しますので、本製品を介してインターネットと接続できます。
※[USB]ポートに接続されたパソコンは、Ethernetや無線で接続されたパソコンのネットワークグループの一員として使うことはできません。

取り扱い上のご注意

◎動作中に接続ケーブルなどが外れたり、接続が不安定になると、誤動作の原因になります。コネクターをしっかり接続して、動作中は、コネクターの接続部に触れないでください。
◎静電気などの影響により、誤動作や動作停止がまれに起こることがあります。
そのようなときは、本製品に接続するDCプラブを約5秒間外した状態にして、もう一度接続しなおしてください。
◎パソコンおよびその他の周辺機器の取り扱いは、それぞれに付属する取扱説明書に記載する内容にしたがってください。
◎本製品を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。このようなときは、本製品を、妨害を受けている機器からできるだけ離して設置してください。
◎本製品のCD-ROM(Acrobat Readerを除く)は、本機専用ですので、本機以外の製品で使用しないでください。
◎本製品の設定ファイルや弊社ホームページより提供されるファームウェアアップデート用データファイルを、本製品以外の機器に組み込んだり、改変や分解したことによる障害、および本製品の故障、誤動作、不具合、破損、データの消失あるいは停電などの外部要因により通信、通話などの機会を失ったために生じる損害や逸失利益または第三者からのいかなる請求についても弊社は一切その責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
◎本書の著作権およびハードウェア、ソフトウェアに関する知的財産権は、すべてエレコム株式会社に帰属します。
◎本書の内容の一部または全部を無断で転用することは、禁止されています。
◎本書およびハードウェア、ソフトウェア、外観の内容については、将来予告なしに変更することがあります。

無線LANの電波法についてのご注意

●本製品に使用している無線装置は、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線設備として、特定無線設備の認証を受けています。したがって、本製品を使用するときに無線局の免許は必要ありません。

●本製品を使用できるのは、日本国内に限られています。
本製品は、日本国内での使用を目的に設計・製造しています。したがって、日本国外で使用された場合、本製品およびその他の機器を壊すおそれがあります。また、その国の法令に抵触する場合があるので、使用できません。

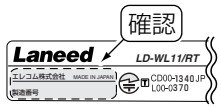
●心臓ペースメーカーを使用している人の近くで、本製品をご使用にならないでください。
心臓ペースメーカーに電磁妨害をおよぼして、生命の危険があります。

●医療機器の近くで本製品を使用しないでください。医療機器に電磁妨害をおよぼして、生命の危険があります。

●電子レンジの近くで本製品を使用しないでください。電子レンジによって本製品の無線通信への電磁妨害が発生します。

●本製品の無線装置は、電波法に基づく認証を受けていますので、以下の事項を行なうと法律で罰せられることがあります。
○本製品を分解／改造すること
○本製品の裏面に貼ってある証明ラベルをはがすこと。

●無線通信LAN製品は、電気通信端末機器の適合認定を受けた弊社製品を、ご使用ください。
上記以外の無線通信LAN製品を使用して、公衆電話回線に接続することは、法律で禁じられています。
機器本体には、右図のような技適証明マークと技適証明番号および認定番号が印刷されたシールが貼られていることを確認してからご使用ください。
無線LANをご使用になるときは、次ページの「無線LANの電波干渉についてのご注意」も併せてお読みください。



無線LANの電波干渉についてのご注意

この機器の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局(免許を必要とする無線局)および特定小電力無線局(免許を必要としない無線局)が運用されています。

○この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局が運用されていないことを確認してください。

○万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用周波数を変更するか、または電波の発射を停止した上、下記連絡先にご連絡いただき、混信回避のための対処等(例えば、パーティションの設置など)についてご相談してください。

○その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合など、何かお困りのことが起きたときは、次の連絡先へお問い合わせください。

連絡先：エレコム株式会社　ラニード　サポートセンター
TEL　03-3444-5571

表記について

本書は、次の表記規則にしたがって記述しています。

「　」表記 ……オペレーションシステム(OS)、ユーティリティー、メニュー、ウィンドウ(画面)の名称を(「」)で囲んで表記します。

[　] 表記 ……タブ名、アイコン名、テキストボックス名、チェックボックス名などを([ ])で囲んで表記します。

〈　〉表記 ……ダイアログボックスのコマンドボタンなどの名称を(〈 〉)で囲んで表記します。

※Windows98 Second Editionは、Windows98 SEと表記します。
Windows Millennium Editionは、Windows Meと表記します。

※本書中の画面は、OSのバージョンや設定よって、お使いになるパソコンと多少異なる場合があります。

取扱説明書の構成について

本書では、本製品をご使用になる前に知っておいていただきたい内容と、インターネットやLANへ接続するための基本的な方法や設定について説明しています。
本製品を使って複雑な運用をする場合は、取扱説明書の応用編を参照してください。

■基本編(本書)

本製品をISDN回線に接続して基本的な運用形態の設定を行ったあと、ダイヤルアップ接続してインターネットができるようになるまでを説明しています。また、本書を順番に読みながら作業を進められるようになっています。
詳細な運用機能についての情報は、応用編で説明していますので、必要に応じて参照してください。

■応用編

本製品のCD-ROMにPDF形式で収められています。
本製品の多様な機能を設定する画面についての説明と、回線種別ごとに、具体的な運用形態に対する設定例を説明しています。

■USBを使うかたへ

本製品のCD-ROMにPDF形式で収められています。
本製品の[USB]ポートからTA機能をご使用になるとき必要なドライバーのインストールと、TA機能の設定に使うATコマンドについて説明しています。

■Telnetコマンドガイド

本製品のCD-ROMにPDF形式で収められています。
本製品をWindows98などに付属するTelnetから設定を行うためのコマンドリファレンスについて説明しています。

基本編の構成について

基本編について、作業の流れをつかみやすいように、各章のタイトルと内容をなるべくわかりやすく記載しています。

第1章　使う前に準備をしましょう

本製品の梱包内容、および各部の名称について説明しています。

第2章　本製品と回線でつなぎましょう

本製品とISDN回線、および専用線の接続についての説明です。

第3章　パソコンを設定しましょう

本製品でご使用になるパソコンの設定についての説明です。

第4章　パソコンを本製品につなぎましょう

設定したパソコンを本製品につなぐ方法についての説明です。

第5章　簡単接続設定ソフトで設定しましょう

「簡単接続設定ウィザード」で設定を行うときの説明です。

第6章　WWWブラウザで設定しましょう

WWWブラウザを使って接続先の設定を行うときの説明です。

第7章　インターネットにつなぎましょう

ダイヤルアップで回線接続する方法についての説明です。

第8章　無線LANを構築しましょう

ネットワークに無線LANを含める方法についての説明です。

第9章　アナログ機能を設定しましょう

電話機で使える基本的な設定項目についての説明です。

第10章　本製品の保守を行いましょう

本製品を常に正常な状態でご使用いただくための説明です。

第11章　参考にしましょう

出荷時の設定値や用語解説の説明です。

取扱説明書[基本編]の使いかたについて

目的に応じて次の箇所をお読みください。

電話を使いたい ↓ 1章 2章 9章	ダイヤルアップで接続したい ↓ 1章 2章 3章 4章 5・6章 7章	専用線で接続したい ↓ 1章 2章 3章 4章 CD-ROM	無線LANで接続したい ↓ 1章 2章 3章 4章 8章	既存のLANで使いたい ↓ 1章 3章 4章	USBを使いたい ↓ 1章 CD-ROM
CD-ROMを使いたい ↓ 10章	設定内容を初期化したい ↓ 10章	設定内容を保存したい ↓ 10章	搭載機能を調べたい ↓ 11章	詳しく設定したい ↓ 6章 8章 11章 CD-ROM	用語を調べたい ↓ 11章

はじめに——i
もくじ——x
安全上のご注意(必ずお読みください)——xiv
1. ご使用になる前に——1
1-1.梱包内容の確認……2
1-2.前面パネル……3
1-3.後面パネル……4
1-4.側面パネル……5
1-5.スイッチの設定……6
1-6.フェライトコアのつけかた……7
1-7.スタンドのつけかた……7
1-8.バックアップ用電池の入れかた……8
■電池を用意する……8
■電池を入れる……8
■停電中の動作について……9
1-9.設置場所について……10
1-10.NTTとの回線契約について……11
■ISDN回線……11
■専用線……11
1-11.プロバイダーとの契約について……12
■「端末型ダイヤルアップ接続」で契約……12
■「LAN型ダイヤルアップ接続」で契約……12
■「フレッツISDN接続」で契約……12
■「OCNエコノミーサービス」で契約……13
■「専用線接続」で契約……13
1-12.[Ethernet]ポートについて……14
■デスクトップ型パソコンの場合……14
■ノートブック型パソコンの場合……14
1-13.無線LANカードについて……15
■デスクトップ型パソコンの場合……15
■ノートブック型パソコンの場合……15
■[USB]ポートがあるパソコンの場合……16
1-14.[USB]ポートについて……16
2. 本製品と回線をつなぐ——17
2-1.ISDN回線をつなぐ……18
■本製品のDSUを使う場合……18
■ほかのISDN機器のDSUを使う場合……19
2-2.電話機やファクシミリをつなぐ……20
2-3.アース線と電源をつなぐ……21
2-4.電話機やファクシミリの動作を確認する……22

2-5.ほかのISDN機器をつなぐ……24
■ほかのISDN機器の動作を確認する……25
2-6.専用線をつなぐ……27
■本製品のDSUを使う場合……27
■ほかのISDN機器のDSUを使う場合……28
3. パソコンを設定する——29
3-1.パソコンをEthernetでつなぐには……30
■Ethernetカードを用意する……30
■TCP/IPプロトコルを使えるようにする
【Windows Meの場合】……30
【Windows 2000の場合】……33
【Mac OSの場合】……35
3-2.パソコンを無線LANでつなぐには……36
■無線LANカードを用意する……36
■TCP/IPプロトコルを使えるようにする
【Windows Meの場合】……36
【Windows 2000の場合】……39
■無線LANカードを設定する……41
3-3.WWWブラウザを用意する……42
4. 本製品とパソコンをつなぐ——43
4-1.新規にLANを構築する……44
■Ethernetを使ってつなぐ……44
■HUBを使ってつなぐ……45
■無線LANを使ってつなぐ……46
4-2.既存のLANに組み入れる……47
■ネットワーク状況の確認……47
■IPアドレスを設定する……47
■既存のLANにつなぐ……47
4-3.割り当てられたIPアドレスを確認する
【Windows Meの場合】……48
【Windows 2000の場合】……49
【Mac OSの場合】……50
5. 簡単設定ソフトで設定する——53
5-1.本製品とパソコンの電源を入れる……54
5-2.簡単設定ソフトを起動する……54
5-3.設定をはじめる……55
6. WWWブラウザで設定する——61
6-1.本製品とパソコンの電源を入れる……62
6-2.設定画面を呼び出す……62
■「回線設定」画面……62

■「接続状況」画面……63
■各〈メニュー〉ボタンについて……64
■回線種別を変更するときは……64
6-3.本製品の時計を設定する……65
6-4.無線LANを設定する……66
6-5.ISDN回線でインターネットに端末型接続する……68
6-6.フレッツISDNでプロバイダーと接続する……71
6-7.ISDN回線でネットワークにLAN間接続する……74
6-8.本体IPアドレスを変更するには……78
6-9.自動割り当て開始IPアドレスを変更するには……79
6-10.接続先を複数登録するには……80
7. インターネットにつなぐ——81
7-1.インターネット接続を開始する……82
■手動で接続する……82
■自動で接続する……83
7-2.インターネット接続を終了する……84
■自動で切断する……84
■手動で切断する……85
7-3.ISDN課金情報を見るには……86
■意図しない課金が発生する原因について……86
8. 無線LANを構築する——87
8-1.アクセスポイント機能を使う……88
8-2.ローミング機能を使う……89
9. アナログ機能を設定する——91
9-1.発信を始めるまでの待ち時間を変更するには……92
9-2.INSナンバーディスプレイ対応電話機を使うには…93
9-3.発信者番号通知の設定を変更するには……94
9-4.外線着信時の呼び出し音を変更するには……95
9-5.内線通話をするには……96
9-6.内線転送をするには……97
■もう一方の相手と内線通話してから転送する……98
■もう一方の相手と内線通話しないで転送する……98
9-7.電話機の音量を調節するには……99
■自分の受話器の音量を調節する……99
■相手の受話器の音量を調節する……99
9-8.短縮ダイヤルを登録するには……100
■短縮ダイヤルで電話する……100
9-9.アナログ機器の課金情報を見るには……101
10. 保守について——103
10-1.付属のCD-ROMについて……104

■Auto Run機能について ……104
■対応OSについて……104
■内容について ……104
10-2.ソフトウェアのインストール……105
10-3.ソフトウェアのアンインストール……107
10-4.設定画面へのアクセスを制限するには……108
10-5.設定内容の確認または保存……109
10-6.保存された設定の書き込み……110
10-7.設定を出荷時のの状態に戻す……111
A ディップスイッチを使う ……111
B 設定画面を使う ……113
C Utilityを使う ……114
10-8.本製品をバージョンアップする……115
■ファームウェアについて ……115
10-9.故障のときは……118
11. ご参考に ——119
11-1.設定画面の構成について……120
11-2.設定項目の初期値一覧……121
11-3.機能一覧……123
11-4.定格……124
11-5.各種ポート仕様……126
11-6.用語解説……127

安全にご使用いただくために、必ずお読みください。

- **ここに示した注意事項は、使用者および周囲の人への危害や財産への損害を未然に防ぎ、製品を安全に正しくご使用いただくために、守っていただきたい事項を示しています。**
- **次の『⚠警告』『⚠注意』の内容をよく理解してから本文をお読みください。**
- **お読みになったあとは、いつでも読める場所へ大切に保管してください。**

■Air@Hawkについて

⚠警告 **下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。**

◎本製品に付属のACアダプター以外は、使用しないでください。
火災、感電、故障の原因になります。

◎DCジャック以外の端子に電源を接続しないでください。
火災、感電、故障の原因になります。

◎設置するときは、必ずアース線を接続してください。また、アース線は、ガス管や水道管に接続しないでください。
火災、感電の原因になります。

◎本製品を使用中は、ぬれた手で本製品に触れないでください。
感電の原因になります。

◎接続ケーブルの上に重いものを載せたり、挟んだりしないでください。
傷ついて破損し、火災、感電、故障の原因になります。

◎ACコードや接続ケーブルに、赤ちゃんや小さなお子さまの手が届かない場所で使用、設置してください。
感電、けがの原因になります。

◎本製品を使用中、装置内部が高温になるため、通気口をふさいだり、布でおおったり、包んだりしないでください。
熱がこもって、火災、故障の原因になります。

◎接続ケーブルを抜き差しするときは、必ずプラグの部分を持って行ってください。
火災、感電、故障の原因になります。

◎水などでぬれやすい場所(加湿器のそばなど)に設置しないでください。
火災、感電、故障の原因になります。

◎接続ケーブルを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。
傷ついて破損し、火災、感電、故障の原因になります。

◎本製品の通気口や接続端子に線材のような金属物を入れたり、差し込んだりしないでください。
火災、感電、故障の原因になります。

◎万一、煙が出ている、変なにおいがする、変な音がする、水などが入った場合は、使用を中止してください。
そのまま使用すると、火災、感電、故障の原因になります。
すぐに本製品に接続されたACアダプターのプラグとその他のケーブル類を取り外してください。
煙が出なくなるのを確認してからお買い上げの販売店、または弊社営業所サービス係に連絡してください。

⚠注意 下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害だけの発生が想定される内容」を示しています。

◎**屋外に設置しないでください。**
故障の原因になることがあります。

◎**ぐらついた台の上や、傾いたところなど、不安定な場所に置かないでください。**
落ちたり、倒れたりして火災、けが、故障の原因となることがあります。

◎**上に乗ったり、重い物を載せたり、挟んだりしないでください。**
けが、故障の原因になることがあります。

◎**落としたり、強い衝撃を与えたりしないでください。**
けが、故障の原因になることがあります。

◎**湿気やホコリの多い場所、風通しの悪い場所には設置しないでください。**
故障の原因になることがあります。

◎**直射日光のあたる場所やヒーター、クーラーの吹き出し口など、温度変化の激しい場所では使用しないでください。**
変形、変色、火災、故障の原因になることがあります。

◎**説明とは異なる接続をしないでください。また、本製品への接続をまちがえないように十分注意してください。**
故障の原因になることがあります。

◎**テレビやラジオの近くで使用しないでください。**
電波障害を与えたり、受けたりする原因になることがあります。

◎**結露するような場所で使用しないでください。温度差の激しい環境を急に移動した場合、結露するおそれがありますのでご注意ください。**
火災、故障の原因になることがあります。
結露した場合、乾燥させるか、長い間同じ環境に置いたあと、ご使用ください。

◎**電子レンジなど、強い磁界や静電気の発生する場所、温度、湿度が、取扱説明書に定めた使用環境を超えるところでは使用しないでください。**
故障の原因になることがあります。

◎**長時間、使用しないときは、安全のため本製品に接続するACアダプターを取り外してください。**
発熱、発火、故障の原因になることがあります。

◎**近くに雷が発生したときは、ACコードや接続ケーブルに触れないでください。**
火災、感電の原因になることがあります。

◎**清掃するときは、シンナーやベンジンを絶対使用しないでください。**
ケースが変質したり、塗料がはげる原因になることがあります。普段はやわらかい布で、汚れのひどいときは水で薄めた中性洗剤を少し含ませてふいてください。

■ACアダプターについて

⚠警告 下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

◎**その他の機器で使用しないでください。**
火災、感電、故障の原因になります。

◎**AC100V以外の電源電圧で使用しないでください。**
火災、感電、故障の原因になります。

◎**ACコードを抜き差しするときは、必ずプラグの部分を持って行ってください。**
火災、感電、故障の原因になります。

◎**ACコードは、タコ足配線しないでください。**
火災、感電、故障の原因になります。

◎**ACコードを束ねて使わないでください。**
発熱して、火災の原因になります。

◎**ぬれた手でACプラグや機器に絶対触れないでください。**
感電の原因になります。

◎**ACプラグは、電源コンセントの奥まで確実に差し込んでください。**
差し込みが不十分な場合、火災、感電の原因になります。

◎**ACコードを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。**
傷ついて破損し、火災、感電、故障の原因になります。

◎**ACコードの上に重いものを載せたり、挟んだりしないでください。**
傷ついて破損し、火災、感電、故障の原因になります。

◎**ACプラグの金属部分、およびその周辺にホコリが付着している場合は、乾いた布でよくふき取ってください。**
そのまま使うと、火災の原因になります。

◎**ACコードが傷ついたり、ACコンセントの差し込みがゆるいときは使用しないでください。**
火災、感電、故障、データの消失または破損の原因になりますので、お買い上げの販売店、または弊社各営業所サービス係に連絡してください。

■電池ボックスについて(本製品の側面部)

⚠警 告 下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

◎電池の⊕と⊖の極性に、ご注意ください。
極性を間違えると、電池の破損、破裂、液漏れの原因になります。

◎電池に直接ハンダ付けをしないでください。
電池の破損、破裂、液漏れの原因になります。

◎電池は、赤ちゃんや小さなお子さまの手の届かないところに置いてください。
万一、なめたり、飲み込んだりした場合は、ただちに医師に相談してください。

◎電池の⊕と⊖を線材で接続したり、分解、加熱、火の中に入れたりしないでください。
電池から有毒な液体が出て目に入ったり、発熱、破裂の原因になります。

◎電池ボックスの端子間をショートさせないでください。
火災、感電、故障の原因になります。

◎電池の液体が衣服に付着した場合は、きれいな水で洗い流してください。
万一、目に入ったり、皮膚に付着したときは、きれいな水で洗い流したあと、医師に相談してください。

⚠注 意 下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害だけの発生が想定される内容」を示しています。

◎ご使用の電池は、必ず単3のアルカリ乾電池(LR6)をご使用ください。
マンガン乾電池でのご使用は、動作電圧の不足で誤動作して、故障の原因になることがあります。

◎同じ種類の新しいアルカリ乾電池をご使用ください。
新しい乾電池と使用済みの乾電池を混用すると発熱の原因になることがあります。

◎落下などによって変形した電池を使用しないでください。
液漏れの原因になることがあります。

◎使い切った電池は、すぐに装置から取り外してください。
そのまま放置すると、液漏れして故障の原因になることがあります。

◎電池の保管は、直射日光のあたる場所や湿気の多い場所を避けてください。
液漏れ、発熱の原因になることがあります。

第1章 ご使用になる前に

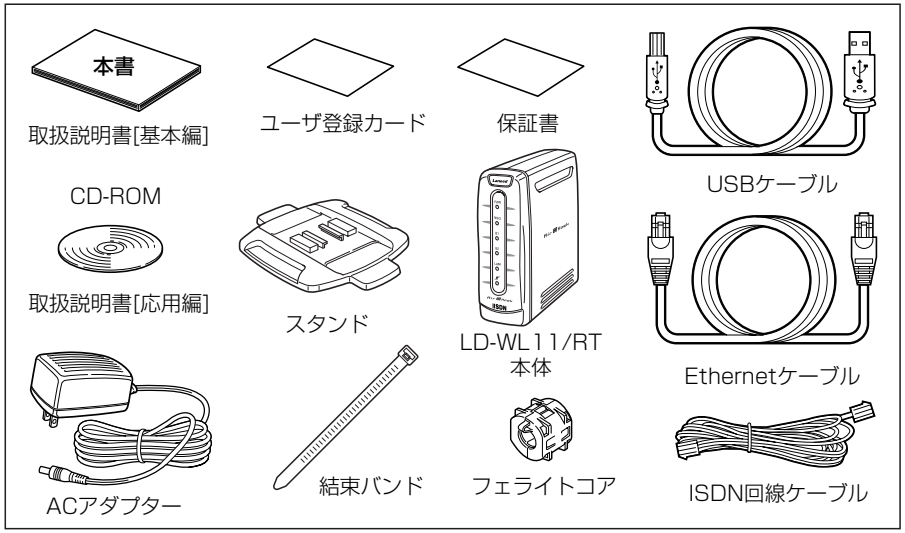
この章では、
本製品を使う前に必要な準備などを説明します。

1-1.梱包内容の確認 ……2
1-2.前面パネル ……3
1-3.後面パネル ……4
1-4.側面パネル ……5
1-5.スイッチの設定 ……6
1-6.フェライトコアのつけかた ……7
1-7.スタンドのつけかた ……7
1-8.バックアップ用電池の入れかた ……8
■電池を用意する ……8
■電池を入れる ……8
■停電中の動作について ……9
1-9.設置場所について ……10
1-10.NTTとの回線契約について ……11
■ISDN回線 ……11
■専用線 ……11
1-11.プロバイダーとの契約について ……12
■「端末型ダイヤルアップ接続」で契約 ……12
■「LAN型ダイヤルアップ接続」で契約 ……12
■「フレッツISDN接続」で契約 ……12
■「OCNエコノミーサービス」で契約 ……13
■「専用線接続」で契約 ……13
1-12.[Ethernet]ポートについて ……14
■デスクトップ型パソコンの場合 ……14
■ノートブック型パソコンの場合 ……14
1-13.無線LANカードについて ……15
■デスクトップ型パソコンの場合 ……15
■ノートブック型パソコンの場合 ……15
■[USB]ポートがあるパソコンの場合 ……16
1-14.[USB]ポートについて ……16

1-1　梱包内容の確認

本製品のパッケージには、次のものが同梱されています。本製品をご使用になる前に、すべて揃っていることを確認してください。

不足しているものがありましたら、お手数ですがお買い上げの販売店または弊社営業所サービス係りまでお問い合わせください。



ISDN回線ケーブル …… 本製品をISDN回線またはデジタル専用回線に接続するケーブルです。ケーブルの両端には、6Pinのモジュラープラグがついています。

Ethernetケーブル …… 本製品をパソコンまたはHUBに接続するケーブルです。両端に8Pinのモジュラープラグがついています。
※全pinストレート結線を使用していますので、[ETHERNET]および[ISDN S/T]ポート接続用として、ご使用になれます。

USBケーブル …… 本製品とパソコン(PC/AT互換機)の[USB]ポートを接続するケーブルです。

スタンド …… 本製品を立てる台です。

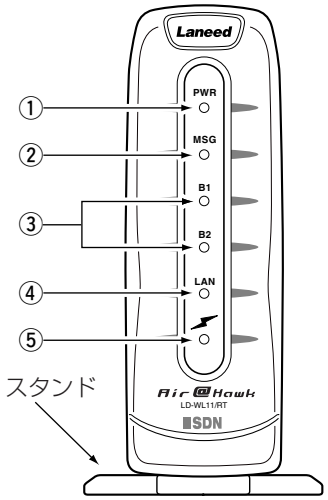
CD-ROM …… 本製品の取扱説明書[応用編]がPDF形式で収められています。また、USBケーブルでパソコン(PC/AT互換機)と接続する場合に必要なUSBドライバーなどが収められています。(付属のCD-ROMについて☞10-1章)

フェライトコア …… 付属のEthernetケーブルに取り付けます。

結束バンド …… フェライトコアの固定用バンドです。

ACアダプター …… 本製品専用の電源です。

1-2　前面パネル



① [PWR]ランプ
電源の状態を表示します。
点灯：本製品の電源が入っているとき
点滅：バックアップ電池(停電モード)で動作しているとき

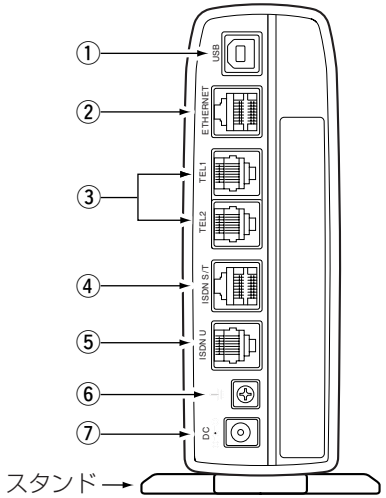
② [MSG]ランプ
点灯：回線の未接続や異常があるときで、点灯中は、[B1]/[B2]ランプが同時に点滅を繰り返します。
点滅：メール着信通知機能が設定されていて、プロバイダーのメールサーバに電子メールが到着したとき

③ [B1]/[B2]ランプ
ISDN回線の状態を表示します。
[アナログ通話を行う場合]
点灯：ダイヤルして発信が行われたとき
[データ通信を行う場合]
点灯：相手側との接続が完了して、通信可能な状態になったとき
点滅：通信が行われているとき
※64kbps(Bチャネル×1)で接続されると、[B1]ランプまたは[B2]ランプが点灯します。
128kbps(Bチャネル×2)で接続されると、両方のランプが点灯します。
※回線の契約内容によっては、[B1]/[B2]ランプが点灯または点滅している場合、通信料金が加算されることがあります。

④ [LAN]ランプ
有線LANの状態を表示します。
点灯：Ethernetケーブルの接続が正常なとき
点滅：通信が行われるとき
消灯：Ethernetケーブルの接続を認識していないとき

⑤ [ ]ランプ
無線LANの状態を表示します。
点灯：無線での接続が正常なとき
消灯：以下の3通りがあります。
- 無線での接続に異常があるとき
- 端末が無線伝送エリア外に移動したとき
- 1～2分間、無線通信しない状態がつづいたとき

1-3 後面パネル



① [USB]ポート
付属品のUSBケーブルを使って、パソコンの[USB]ポートと接続します。
※TA機能を使ってインターネットするとき使います。
※Macintoshには対応していません。

② [Ethernet]ポート(RJ-45型)
付属品のEthernetケーブルを使って、パソコンやHUBと接続します。

③ [TEL 1]/[TEL 2]ポート(RJ-11型)
電話機やG3ファクシミリまたはモデムなどのアナログ機器を接続します。
※電話機のダイヤル設定は、PB(トーン)にしてください。
※バックアップ用電池で動作しているときは、[TEL2]ポートに接続するアナログ機器は機能しません。

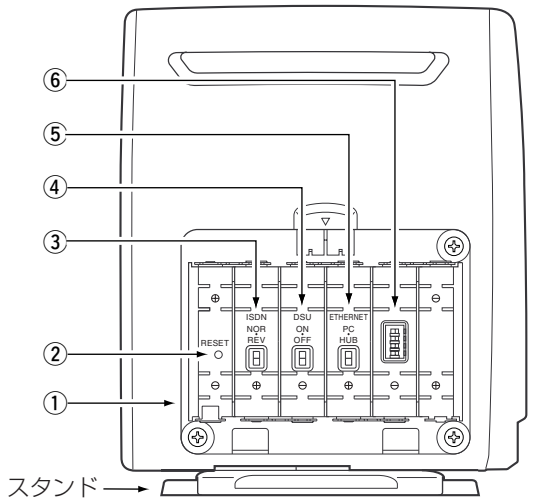
④ [ISDN S/T]ポート(RJ-45型)
デジタル電話機やG4ファクシミリ、ターミナルアダプター(TA)、デジタルサービスユニット(DSU)などのISDN機器を接続します。
本製品を含め最大8台まで接続できます。

⑤ [ISDN U]ポート(RJ-11型)
ISDN回線またはデジタル専用回線と接続します。
本製品に内蔵のDSUを使う場合は、付属品のISDN回線ケーブルを使います。
内蔵のDSUを「OFF」で使うときは、市販のDSU内蔵TAなどと接続します。

⑥ アース端子
アース線を接続します。
アース線は、市販のものをご用意ください。

⑦ DCジャック
付属品のACアダプターを接続します。

1-4 側面パネル



① 電池ボックス
停電したとき、本製品の[TEL1]ポートに接続した電話機が使えるように、バックアップ用の電池(単3型アルカリ乾電池)を入れておきます。

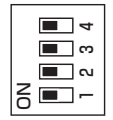
② [RESET]ボタン
本製品を電源を入れた直後(再起動)の状態にします。

③ [ISDN]スイッチ
[ISDN U]ポートの極性を反転させるスイッチです。

④ [DSU]スイッチ
内蔵のDSUを本製品から切りはなすスイッチです。

⑤ [ETHERNET]スイッチ
[ETHERNET]ポートの極性を反転させるスイッチで、本製品に接続する機器によって、「PC」または「HUB」に切り替えます。

⑥ ディップスイッチ
[1]～[4]のスイッチがあります。
[1]：[受信信号終端]スイッチ
[2]：[送信信号終端]スイッチ
[3]：[Utility使用]スイッチ
[4]：[設定初期化]スイッチ

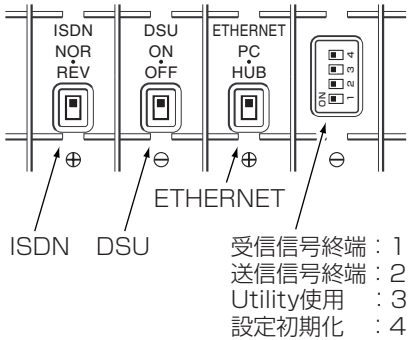


詳しくは、「スイッチの設定」(☞1-5章)をご覧ください。

【ISDN回線の極性】
NTTの局線には、極性があります。通常は、ストレート結線のISDN回線ケーブルを接続すると通信できますが、たまに極性が反転している場合があり、付属品のISDN回線ケーブルでは正しく回線に接続できないことがあります。このようなときは、本製品の[ISDN]スイッチを切り替えて、極性を反転させることで通信ができるようになります。

1-5　スイッチの設定

電池ボックス内にある各種スイッチの設定について説明します。



※各スイッチの位置は、出荷時の状態を示しています。

[ISDN]スイッチ
出荷時は、「NOR」に設定されています。
回線を[ISDN U]ポートに接続したとき、[MSG]ランプの点灯と同時に、[B1]と[B2]ランプが同時に点滅を繰り返しているときは、[ISDN]スイッチを「REV」側に切り替えます。

[DSU]スイッチ
出荷時は、「ON」に設定されています。
本製品に内蔵されたDSUは、出荷時の設定で使えます。
市販のDSUやDSU内蔵型TAを接続するときは、「OFF」にします。

[ETHERNET]スイッチ
出荷時は、「PC」に設定されています。
出荷時の状態では、付属品のEthernetケーブル(ストレート結線)を使ってパソコンを本製品の[ETHERNET]ポートに接続するように設定されています。
HUBのクロスポート(記号:×)を本製品の[ETHERNET]ポートに接続するときは、「HUB」に切り替えます。

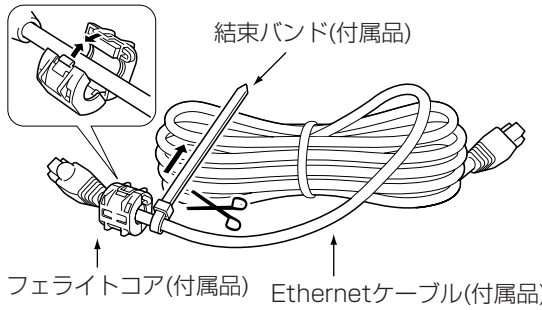
[受信信号終端]/[送信信号終端]スイッチ
出荷時は、「ON」に設定されています。
出荷時の状態では、[ISDN S/T]ポート内蔵の終端抵抗を使う設定になっています。
本製品に内蔵するDSUをご使用になる場合で、本製品の[ISDN S/T]ポートにISDN機器を追加するときは、本製品の[受信信号終端]/[送信信号終端]スイッチを「OFF」に切り替えます。このとき、追加したISDN機器の[受信信号終端]スイッチおよび[送信信号終端]スイッチを「ON」にしてください。

[Utility使用]スイッチ
出荷時は、「ON」に設定されています。
付属のCD-ROMに収められたUtilityを使って設定内容の初期化やファームウェアの更新を行うときは、「OFF」に設定してから、本製品の電源を入れなおすと、「Utility通信」モードで起動します。

[設定初期化]スイッチ
出荷時は、「ON」に設定されています。
本製品のIPアドレスを忘れたときなど、本製品の設定画面を表示できないときは、「OFF」にして、本製品の電源を入れなおしてから、WWWブラウザで出荷時の本製品IPアドレスを指定すると、「設定初期化」モードで起動します。
詳しくは、「設定を出荷時の状態に戻す」(☞10-7)をご覧ください。

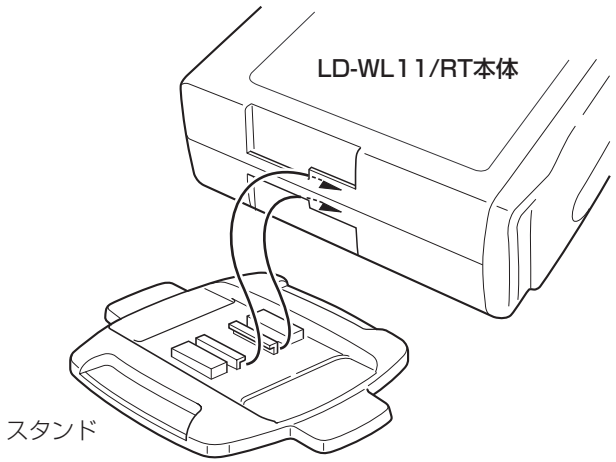
1-6　フェライトコアのつけかた

本製品に付属のフェライトコアを、付属のEthernetケーブルに取り付けてからご使用ください。
結束バンドで、本体側に接続する方のプラグの端にしっかりと固定してください。
プラグの端に固定しないと電波障害を引き起こすことがあります。



1-7　スタンドのつけかた

本体底面に付属のスタンドを押し当てて、ガイドに沿ってスライドさせて取り付けます。



1-8　バックアップ用電池の入れかた

ISDN回線では、停電時に回線が使えなくなってしまいますが、バックアップ用電池を入れることで、本製品の[TEL 1]ポートに接続したアナログ電話機で通話ができます。停電後、約1時間の連続運用が行えます。

【ご参考に】
停電以外のときは、乾電池を入れなくても本製品を使えます。
本製品を専用線で使う場合やISDN回線につながずに使う場合は、乾電池は不要です。

■電池を用意する

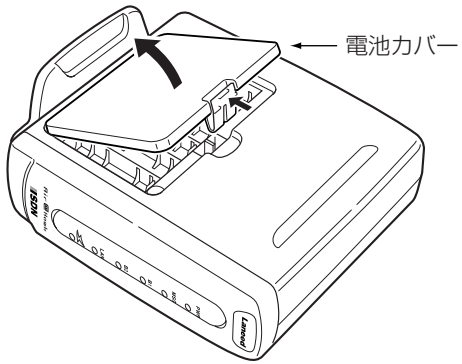
同じ種類の新しい単3型アルカリ乾電池を6本、ご用意ください。

【使用時のご注意】

- 単3アルカリ乾電池専用の電池ボックスです。
  マンガン乾電池、充電用ニカド電池を使用しないでください。
- 同じ種類の新しいアルカリ乾電池をご使用ください。
  新しい電池と古い電池を混用しないでください。発熱の原因になることがあります。
- アルカリ乾電池の種類により、連続使用可能時間が異なることがあります。
- アルカリ乾電池の特性により、低温では使用時間が短くなります。

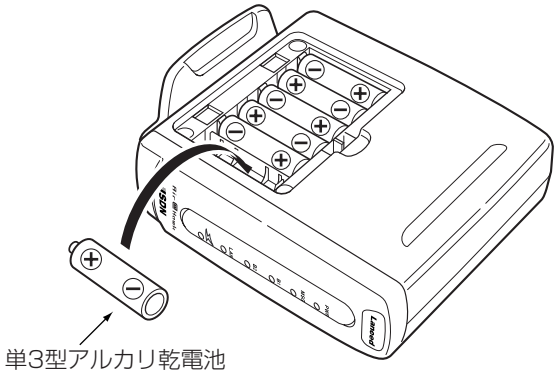
■電池を入れる

1.ACアダプターを本製品につないでいるときは、取り外します。
2.本製品につながれたケーブルもすべて取り外します。
3.本製品の側面パネルを上にして、電池カバーを開けます。

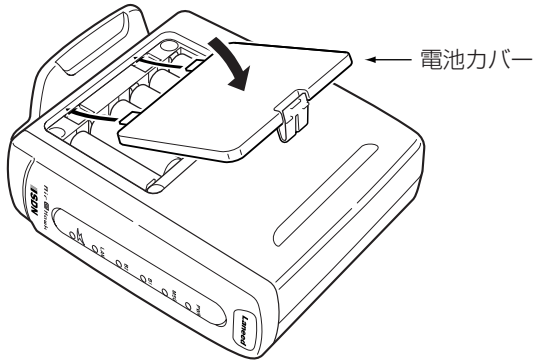


■電池を入れる(つづき)

4.単3型アルカリ乾電池を図の方向に入れます。



5.電池カバーを閉じます。



■停電中の動作について

停電などで本製品への電源供給が停止すると、自動的にバックアップ用電池を使って動作を始めます。このとき、[PWR]ランプは、低速で点滅を繰り返します。
それ以外のランプは、消灯します。
停電動作中は、[TEL 1]ポートに接続するアナログ電話機以外の機器が使えません。

1-9　設置場所について

無線LANとしてご使用になる場合、設置場所に注意しないと通信範囲や速度に影響します。
このときの設置条件は、次のとおりです。

◎室内で、なるべく見通しの良い(高い)場所
◎振動や傾きが無く、落下の危険がない安定した場所
◎その他、以下のことを考慮して、設置してください。

- 本製品の上に物を置いたり、本製品どうしやほかの製品と重ねて置かない。
- 電波は壁やガラスを通過しますが、金属は通過しません。コンクリートの壁でも、金属補強材が中に埋め込まれていて、電波信号を遮断するものがあります。
- 通信範囲はオープンスペースだと最も広くなりますが、倉庫の中のように大きな金属製の壁があると、電波を反射することがあります。
- 床にはふつう、鋼製の梁がはいっており、金属製防火材が埋め込まれていることもあります。そのため多くの場合、違う階どうしでは通信できません。

【無線通信距離について】
無線での通信距離は、設置場所によって多少異なりますが、以下の見通し距離を参考に設置してください。

- 通信速度の設定が「自動切替」のとき
  屋内：約　50m
  屋外：約 150m
- 通信速度の設定が「１１Mbps固定」のとき
  屋内：約30m
  屋外：約70m

1-10　NTTとの回線契約について

本製品をご使用になるには、ISDN回線または専用線の契約が必要です。

■ISDN回線

電話機だけで使う場合やインターネットへダイヤルアップして接続する、またはフレッツISDN(IP接続サービス)で接続するには、ISDN回線が必要です。これからISDN回線を引く場合は、NTTへお申し込みください。
NTT各店に備え付けの「INSネット64/INSネット64･ライトお申込票」の太枠で囲まれた項目に必要事項をご記入ください。
太枠以外の項目については、お申し込みのとき、NTT担当者がお尋ねして記入します。
次を参考にお答えください。

＝取付工事＝

- 通信機器の名称　LD-WL11/RT
- メーカ名　他社
- 認定番号　本製品後面パネルのシリアルナンバーシールに記載の「認定番号」
  (例：CD00-1340JP　L00-0370)
- DSU　DSU内蔵型TA
  お客様工事、またはNTT工事

＝コンサルティング項目＝

- インターフェース形態およびレイヤ起動機種　「P-MP呼毎」、または「P-MP常時」
- 発信者番号通知サービス　「通常通知」
- ユーザー間情報通知サービス　「着信許可」
- 通信中着信通知サービス　「許可」
- グローバル着信　「有」

■専用線

専用線を利用する場合は、専用線サービスを行っているプロバイダーにお申し込みください。
OCNエコノミーやデジタルアクセス64などの申し込みも、そのとき行われます。ただし、一般電話やファクシミリと発着信することはできません。
詳しくは、プロバイダーへお尋ねください。
次を参考にご契約ください。

- 通信機器の名称　LD-WL11/RT
- メーカ名　他社
- 認定番号　本製品後面パネルのシリアルナンバーシールに記載の「認定番号」
  (例：CD00-1340JP　L00-0370)

1-11　プロバイダーとの契約について

インターネットに接続するためには、プロバイダーとの契約が必要です。

■「端末型ダイヤルアップ接続」で契約

1台のパソコンで必要なときだけ電話をかけてインターネットへ接続する場合は、プロバイダーに「端末型ダイヤルアップ接続」で契約してください。
設定を行うためには、次の情報が必要です。契約時に送られてきた書類で確認してください。

- ユーザー認証ID
- ユーザー認証パスワード
- アクセスポイント電話番号

※本製品では、端末型ダイヤルアップの契約で、無線またはETHERNET上に接続された複数台のパソコンから、インターネットに接続できます。

■「LAN型ダイヤルアップ接続」で契約

ネットワーク上の複数台のパソコンからインターネットに接続するときは、「LAN型ダイヤルアップ接続」で契約します。お申し込み台数に応じてIPアドレスが割り当てられます。
設定を行うためには、次の情報が必要です。契約時に送られてきた書類で確認してください。

- ドメインネームサーバ(DNS)のIPアドレス
- ネットワークIPアドレス(本製品のIPアドレス)
- ユーザー認証ID
- ユーザー認証パスワード
- アクセスポイント電話番号
- ドメイン名

■「フレッツISDN接続」で契約

必要なときだけ電話をかけてインターネットへ常時接続(64kbps)する場合は、NTTとフレッツISDN契約を行って、フレッツISDN対応プロバイダーに「フレッツISDN(IP接続サービス)接続」で契約してください。
設定を行うためには、次の情報が必要です。契約時に送られてきた書類で確認してください。

○NTTから通知される情報
- ISDN対応アクセスポイントの電話番号

○プロバイダーから通知される情報
- ドメイン名
- ネームサーバアドレス(DNSのIPアドレス)
- ユーザー認証ID
- ユーザー認証パスワード

■「OCNエコノミーサービス」で契約

128kbpsの回線速度で常時接続する場合は、NTTとOCNエコノミーサービスの契約を行って、OCNエコノミーサービス対応プロバイダーに「OCNエコノミーサービス」で契約してください。
設定を行うためには、次の情報が必要です。契約時に送られてきた書類で確認してください。

○NTTから通知される情報
- 契約IPアドレス(例：172.16.1.48)
- サブネットマスク(例：255.255.255.248)

○OCNから通知される情報
- ドメイン名
- ネームサーバアドレス(DNSのIPアドレス)
- ユーザー認証ID
- ユーザー認証パスワード

■「専用線接続」で契約

プロバイダーとのあいだを専用線で接続してインターネットに常時接続するような場合は、対応できるプロバイダーに「専用線接続」で契約してください。
設定を行うためには、次の情報が必要です。契約時に送られてきた書類で確認してください。

- ドメイン名
- ネームサーバアドレス(DNSのIPアドレス)
- ネットワークIPアドレス(本製品のIPアドレス)
- サブネットマスク
- 回線速度(64kbps、128kbps)

【プロバイダー選びについて】
パソコン関連の雑誌などに掲載された情報を参考に、プロバイダーを選んでください。
次の基準を参考にプロバイダーの選定を行ってください。

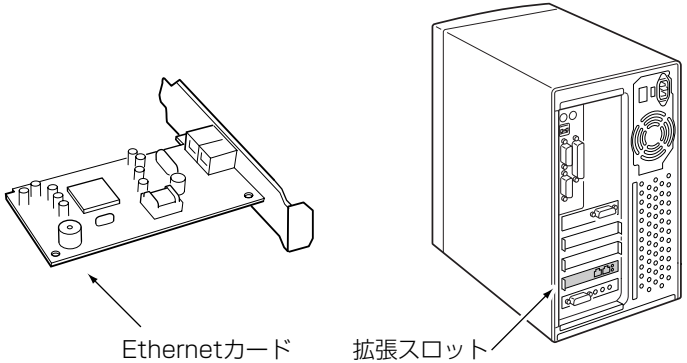
- 会社や自宅と同じ市外局番の地域にアクセスポイントがある(フレッツISDNなど、NTTが提供するサービスによっては、NTT指定の電話番号を使ってご契約のプロバイダーに接続する場合があります。)
- 上位プロバイダーと高速な回線で接続されている

1-12 [Ethernet]ポートについて

本製品を有線LANでご使用になる場合は、[Ethernet]ポートが必要です。
ご使用のパソコンに[Ethernet]ポートがない場合は、本製品の設置を始める前に、Ethernetカードを取り付けてください。
取り付けたあとは、Ethernetカードの取扱説明書にしたがって、正常に動作することを確認してください。

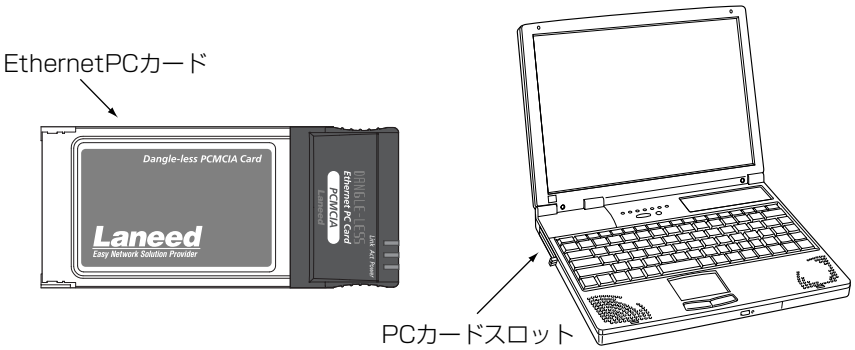
■デスクトップ型パソコンの場合

デスクトップ型パソコンの場合は、拡張スロットにEthernetカードを取り付けます。
拡張スロットには、PCIやISAなどの種類がありますので、ご使用のパソコンで空いているスロットをお調べになってから、Ethernetカードを取り付けてください。



■ノートブック型パソコンの場合

ノートブック型パソコンの場合は、PCカードスロットにEthernetカードを取り付けます。
PCカードスロットの規格に注意して、ご使用のパソコンに対応したPCカード型Ethernetカードを取り付けてください。

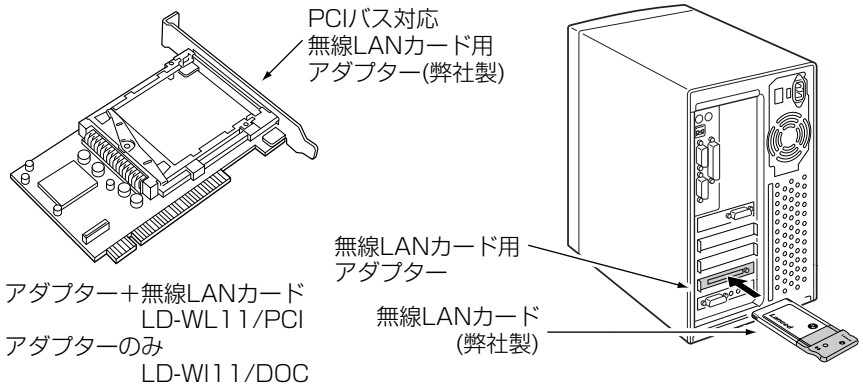


1-13 無線LANカードについて

本製品を無線LANでご使用になる場合は、無線LANカードが必要です。
本製品は、最大11Mbpsの無線LAN機能を備えており、これに対応した無線LANカードをパソコン(PC/AT互換機)に取り付けることにより、ワイヤレスでダイヤルアップルータやLANをご使用になれます。
無線LANカードは、弊社製以外の製品でもご使用になれますが、暗号化によるセキュリティー機能などを使っての通信は行えません。

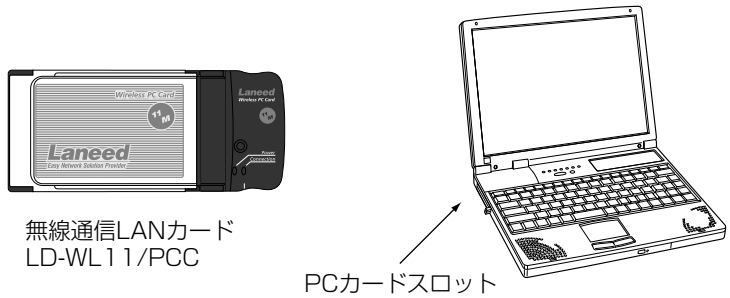
■デスクトップ型パソコンの場合

デスクトップ型パソコンの場合は、PCIバス対応の拡張スロットに無線LANカード用アダプターを取り付けます。



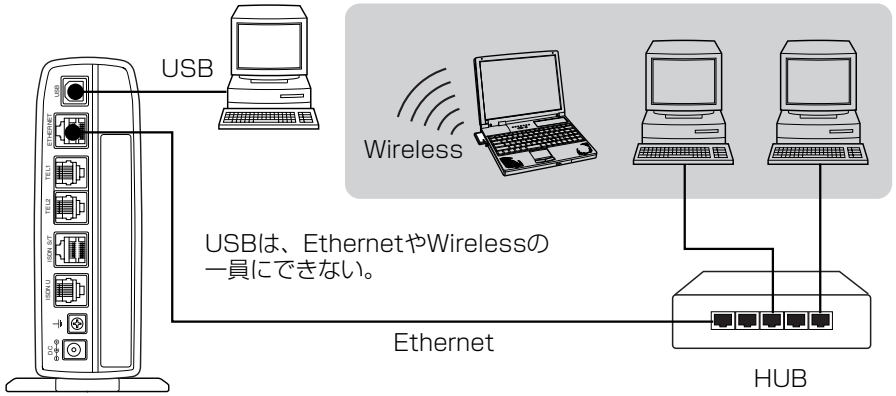
■ノートブック型パソコンの場合

ノートブック型パソコンの場合は、PCカードスロットに無線LANカードを取り付けます。
PCカードスロットの規格に注意して、ご使用のパソコンに対応した無線LANカードを取り付けてください。



1-14　[USB]ポートについて

パソコンに[USB]ポートがある場合は、本製品と直接つないでインターネットができます。この場合、TA機能しか使えませんので、Ethernetや無線で本製品に接続されたネットワークに含めことはできません。また、本製品の設定も行えません。



[USB]ポートを使うための準備については、本製品のCD-ROMに収められた「USBを使うかたへ」(PDF形式)で説明しています。

本製品と回線をつなぐ

この章では、
回線とアナログ機器を本製品に接続する方法と、接続したアナログ機器の動作確認の手順について説明します。

2-1.ISDN回線をつなぐ……18
■本製品のDSUを使う場合 ……18
■ほかのISDN機器のDSUを使う場合 ……19
2-2.電話機やファクシミリをつなぐ ……20
2-3.アース線と電源をつなぐ ……21
2-4.電話機やファクシミリの動作を確認する ……22
2-5.ほかのISDN機器をつなぐ……24
■ほかのISDN機器の動作を確認する……25
2-6.専用線をつなぐ ……27
■本製品のDSUを使う場合 ……27
■ほかのISDN機器のDSUを使う場合 ……28

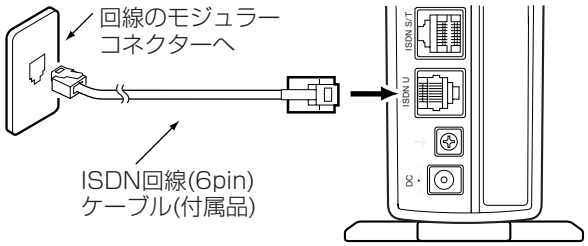
2-1　ISDN回線をつなぐ

【⚠警告】
接続は、本製品および接続する機器の電源を切った状態で行ってください。

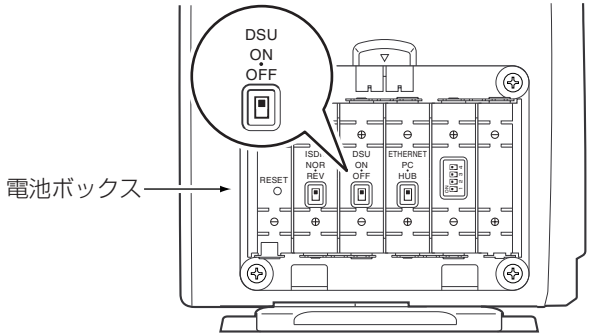
■本製品のDSUを使う場合

〈つなぎかた〉

1.回線のモジュラーコネクターと本機の[ISDN U]ポートを、本製品に付属のISDN回線ケーブルで接続します。



2.[DSU]スイッチを「ON」側(出荷時の設定)に切り替えます。



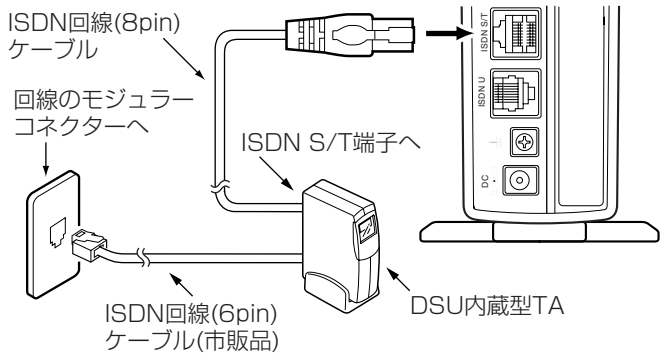
■ほかのISDN機器のDSUを使う場合

〈つなぎかた〉

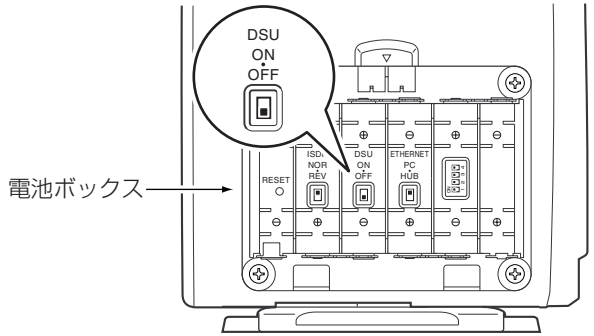
1.DSU(ほかのISDN機器の[S/T点]ポート)と本製品の[ISDN S/T]ポートを、市販品のISDN回線(8pin)ケーブル、または本製品に付属のEthernetケーブルでつなぎます。

2.DSUの[ISDN U]ポートと回線のモジュラーコネクターを、ISDN回線(6pin)ケーブルでつなぎます。

※DSU内蔵型TAのS/T点終端スイッチは、「OFF」側に切り替えます。



3.[DSU]スイッチを「OFF」側に切り替えます。



※本製品の[受信信号終端]/[送信信号終端]スイッチは、「ON」(出荷時の設定)にします。

【ISDN回線ケーブルについて】
ISDN回線ケーブルには、モジュラープラグが6Pinと8Pinの形状のものがあります。
本製品には、6Pinのものが付属しています。
[ISDN S/T]ポートに接続するISDN回線ケーブルは、8Pinの形状のものを使用してください。
8PinのISDN回線ケーブルが用意できないときは、市販品をご使用ください。また、付属のEthernetケーブルは、全pinストレート結線を使用していますので、ISDN回線ケーブルとしてもご使用になれます。なお、DSU内蔵型TAなどの機器に付属する8PinのISDN回線ケーブルは、8Pinすべてが結線されていないことがありますので、Ethernetケーブルとして、本製品の[ETHERNET]ポートに接続しないでください。

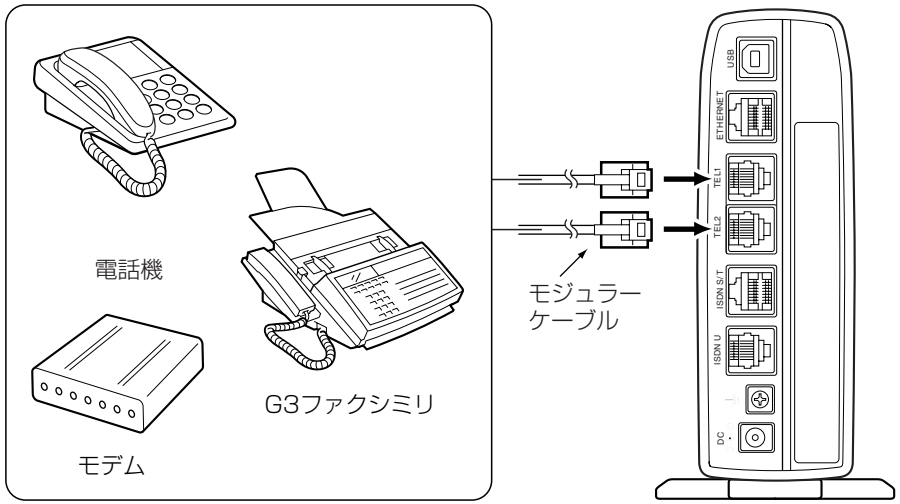
2-2　電話機やファクシミリをつなぐ

回線が「ISDN」の場合は、電話機やファクシミリのモジュラープラグを本製品の[TEL1]、[TEL2]ポートに差し込むと、それらのアナログ機器が使えます。

【⚠注意】
[TEL1]と[TEL2]ポートにつなぐことがきる機器は、プッシュ式アナログ回線用の電話機、G3ファクシミリ、モデムなどです。
1つのポートにつき、アナログ機器1台だけをつないでください。
モジュラ2分配用コネクターなどを使って1つのポートに複数の機器をつなぐと、誤動作の原因になります。
パルス式の機器やデジタル電話機、G4ファクシミリは、このポートにつなぐことができません。

〈つなぎかた〉

1.電話機またはファクシミリの[TEL]ポートと本製品の[TEL1]または[TEL2]ポートを、それらのアナログ機器に付属するモジュラーケーブルでつなぎます。



2.電話機やモデムにダイヤル設定(「トーン」と「パルス」の切り替えスイッチ)がついている機種は、そのスイッチが「トーン(PB)」に設定されていることを確認します。
ダイヤル設定については、アナログ機器に付属する取扱説明書でご確認ください。

※ファクシミリに電話機またはモデムがついていて、これらの機能も合わせて使いたいときは、このままご使用ください。

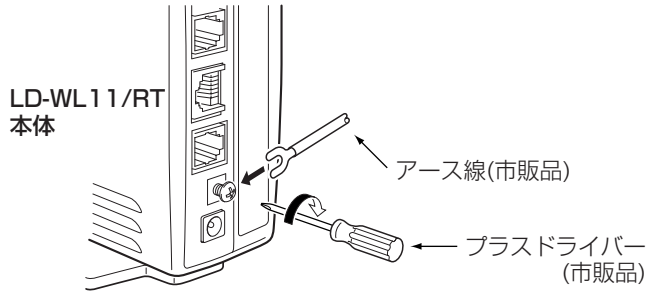
2-3　アース線と電源をつなぐ

本製品を使うときは、アース線と本製品に付属するACアダプターを接続します。
※アース線は、市販のアース線をご用意ください。

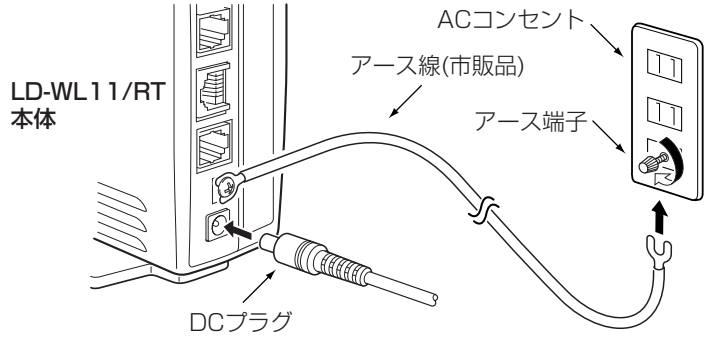
【⚠注意】
本製品のアース端子は、必ず接続してください。落雷したときの電気的ショックをやわらげたり、感電やノイズの回り込みを防止できます。
アース線は、必ずコンセントのアース端子につなぐか、市販のアース棒につないで地中に埋めてください。
ガス管や水道管につながないでください。

〈つなぎかた〉

1.アース端子のネジを市販のプラスドライバーで緩めて、市販のアース線の先をそのネジで固定します。



2.ACアダプターのDCプラグを本製品のDCジャックに接続します。
固定したアース線のもう片方をコンセントのアース端子に接続します。

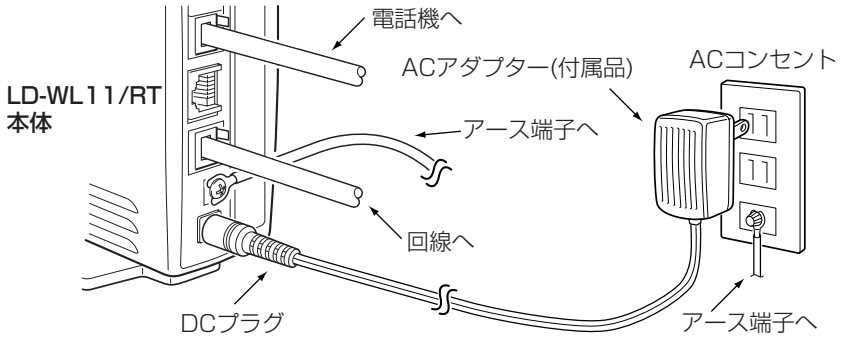


2-4　電話機やファクシミリの動作を確認する

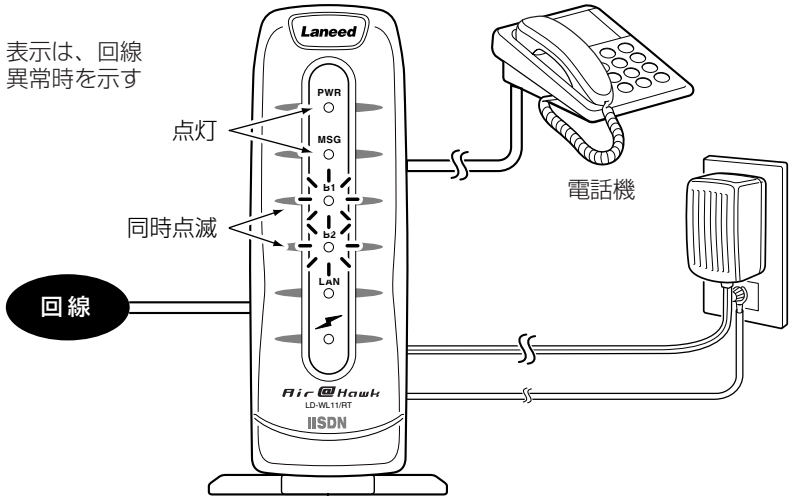
ISDN回線と、電話機およびファクシミリをつなぎ終えたら、本製品に電源を接続して動作を確認します。

〈確認のしかた〉

1.ACアダプター本体をACコンセントにつなぎます。
電源を入れて、[PWR]ランプだけが点灯するまでしばらく待ちます。



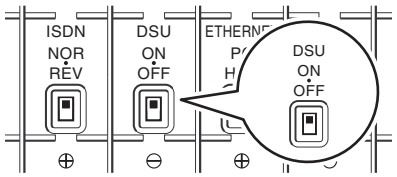
2.本製品の前面パネルの[PWR]ランプだけが点灯すれば正常ですので、手順5.へ進みます。
図のように、[MSG]ランプが点灯して、[B1]/[B2]ランプが同時に点滅を繰り返しているときは、手順3.を参考に設定や接続を確認してください。



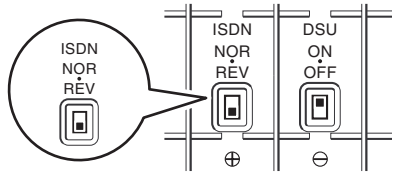
3.[MSG]ランプが点灯して、[B1]/[B2]ランプが同時に点滅を繰り返しているときは、本製品の電源をいったん外して、本製品のスイッチの設定を確認します。

●本製品のDSUを使う場合

[DSU]スイッチが「ON」側(出荷時の設定)に設定されていることを確認します。

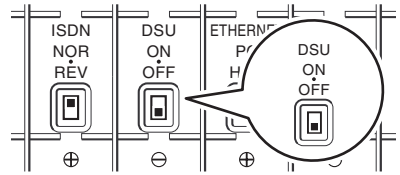


[DSU]スイッチが「ON」側でも点滅しているときは、[ISDN]スイッチを「REV」側に切り替えます。

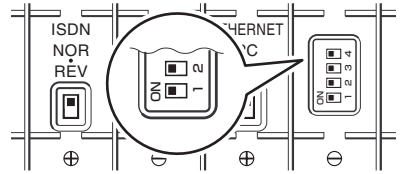


●ほかのISDN機器のDSUを使う場合

[DSU]スイッチが「OFF」側に設定されていることを確認します。



「OFF」側に設定されていれば、[受信信号終端]スイッチと[送信信号終端]スイッチが「ON」側(出荷時の設定)に設定されていることを確認します。



4.ACアダプター本体をACコンセントにつないで、[MSG]ランプ、[B1]/[B2]ランプが消灯したことを確認します。

5.接続している電話機の受話器を上げて「ツー」という発信音が聞こえることを確認します。

6.時報(117)など、電話をかけてみます。
ボタンを押したとき、「ピッポッパ」と音がすることを確認します。
音がしないときは、電話機のダイヤル設定が「トーン(PB)」に設定されていることを確認してください。

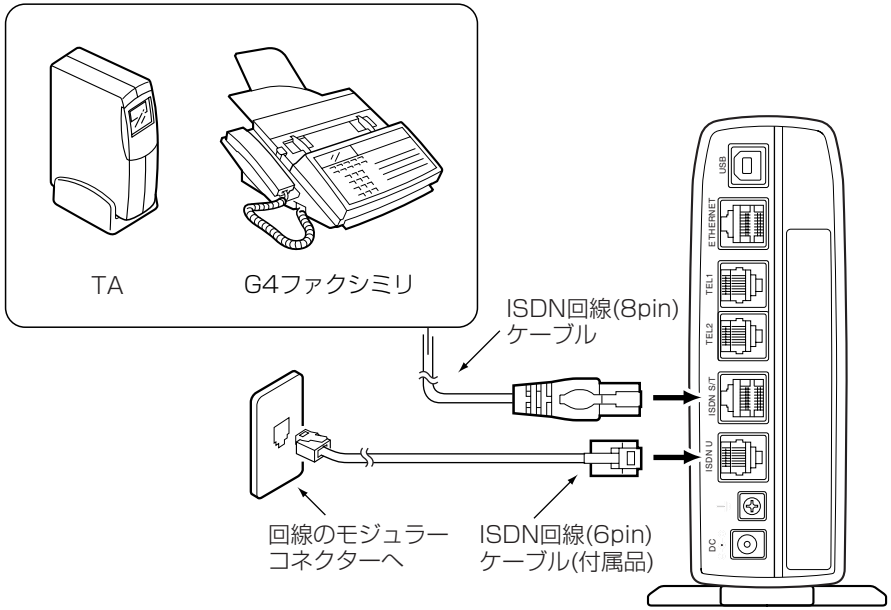
7.5秒後に時報が聞えて、前面パネルの[B1]または[B2]ランプが点灯すると、電話機は正常に動作していますので、電話機を切ります。
※出荷時、ダイヤル待ち時間は、5秒に設定されています。
一時的にダイヤル待ち時間をなくしたいときは、電話番号の末尾で「#」を押します。

2-5 ほかのISDN機器をつなぐ

本製品の[ISDN S/T]ポートに、G4ファクシミリやTAなどのISDN機器が接続できます。
このときは、本製品のDSUを使います。
[ISDN S/T]ポートには、本製品を含め最大8台まで接続できます。

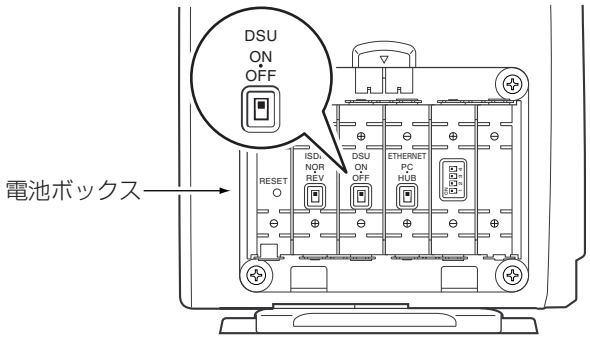
〈つなぎかた〉

1.次の図のように、接続します。



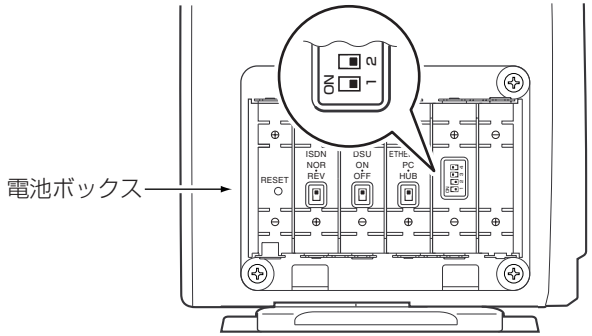
2.G4ファクシミリやTAのS/T点終端スイッチを「ON」側に切り替えます。
※ファクシミリやTAの機種によってスイッチの位置や名称が異なりますので、ご使用のファクシミリの取扱説明書でご確認ください。

3.本製品の[DSU]スイッチを「ON」側(出荷時の設定)に切り替えます。



〈つなぎかた〉(つづき)

4.本製品の[受信信号終端]スイッチと[送信信号終端]スイッチを「OFF」側に切り替えます。

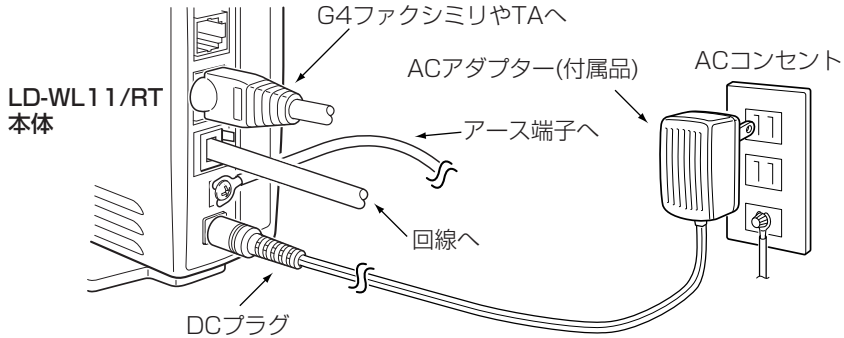


■ほかのISDN機器の動作を確認する

ISDN回線と、G4ファクシミリまたはTAなどをつなぎ終えたら、電源を本製品につないで動作を確認します。

〈確認のしかた〉

1.ACアダプター本体をACコンセントにつなぎます。
電源を入れて、[PWR]ランプだけが点灯するまでしばらく待ちます。

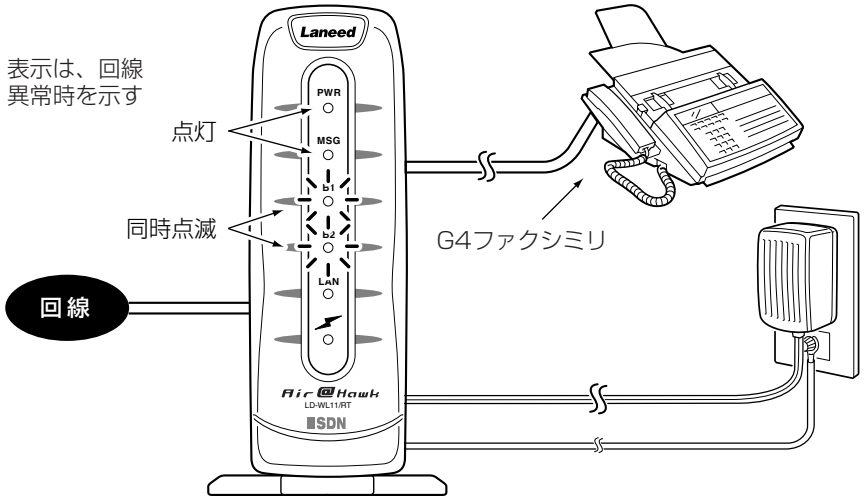


2-5 ほかのISDN機器をつなぐ

■ほかのISDN機器の動作を確認する(つづき)

2.本製品の前面パネルの[PWR]ランプだけが点灯すれば正常ですので、手順5.へ進みます。

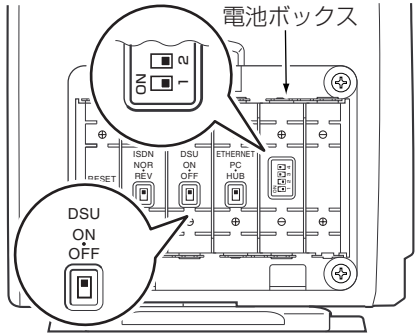
図のように、[MSG]ランプが点灯して、[B1]/[B2]ランプが同時に点滅を繰り返しているときは、手順3.を参考に設定や接続を確認してください。



3.[MSG]ランプが点灯して、[B1]/[B2]ランプが同時に点滅を繰り返しているときは、本製品の電源をいったん外して、本製品以外のISDN機器側の[S/T点終端スイッチが「ON」に設定されていることを確認します。

このとき、本製品のスイッチを下記のように設定します。

●[LD-WL11/RT]側のスイッチ
[DSU]スイッチ：「ON」
[受信信号終端]スイッチ：「OFF」
[送信信号終端]スイッチ：「OFF」



4.ACアダプターのコネクターをACコンセントにつないで、[MSG]ランプ、[B1]/[B2]ランプが消灯したことを確認します。

5.接続している本製品以外のISDN機器を動作させてみて、正常に動作することを確認してください。

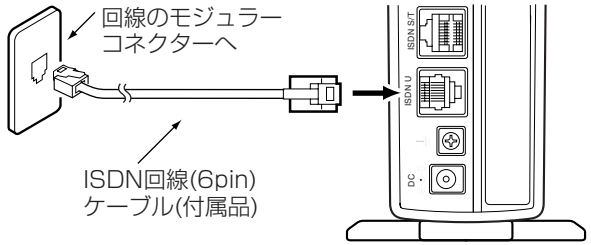
2-6　専用線をつなぐ

【⚠警告】
接続は、本製品および接続する機器の電源を切った状態で行ってください。

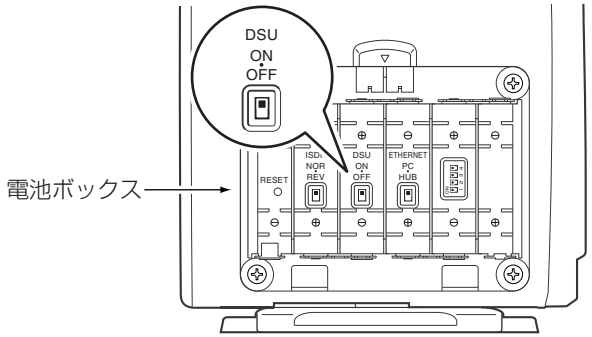
■本製品のDSUを使う場合

〈つなぎかた〉

1.専用線のモジュラーコネクターと本機の[ISDN U]ポートを本製品に付属するISDN回線ケーブルで接続します。



2.[DSU]スイッチを「ON」側(出荷時の設定)に切り替えます。



※本製品の[受信信号終端]/[送信信号終端]スイッチは、「ON」(出荷時の設定)にします。

【⚠注意】
本製品を専用線(OCNエコノミーを含む)でご使用の場合、機器を接続しても絶対に使うことができないポートは、次の3つです。
- [ISDN S/T]ポート
- [TEL1]ポート
- [TEL2]ポート

2-6 専用線をつなぐ(つづき)

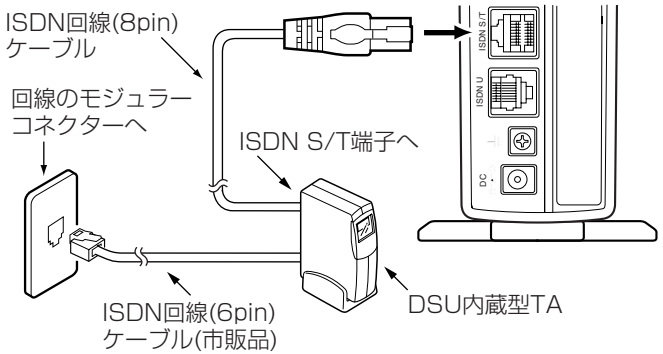
■ほかのISDN機器のDSUを使う場合

〈つなぎかた〉

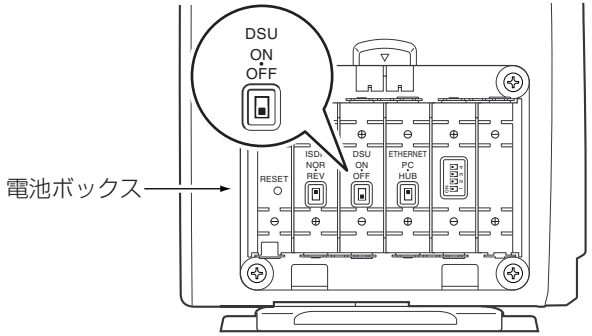
1.DSU(ほかのISDN機器のS/T点ポート)と本製品の[ISDN S/T]ポートを、市販品のISDN回線(8pin)ケーブル、または本製品に付属のEthernetケーブルでつなぎます。

2.DSUの[ISDN U]ポートと回線のモジュラーコネクターをISDN回線(6pin)ケーブルでつなぎます。

※DSU内蔵型TAのS/T点終端スイッチは、「OFF」側に切り替えます。



3.[DSU]スイッチを「OFF」側に切り替えます。



※本製品の[受信信号終端]/[送信信号終端]スイッチは、「ON」(出荷時の設定)にします。

【ISDN回線ケーブルについて】
ISDN回線ケーブルには、モジュラープラグが6Pinと8Pinの形状のものがあります。
本製品には、6Pinのものが付属しています。
[ISDN S/T]ポートに接続するISDN回線ケーブルは、8Pinの形状のものを使用してください。
8PinのISDN回線ケーブルが用意できないときは、市販品をご使用ください。また、付属のEthernetケーブルは、全pinストレート結線を使用していますので、ISDN回線ケーブルとしてもご使用になれます。なお、DSU内蔵型TAなどの機器に付属する8PinのISDN回線ケーブルは、8Pinすべてが結線されていないことがありますので、Ethernetケーブルとして本製品の[ETHERNET]ポートに接続しないでください。

パソコンを設定する

この章では、
本製品と通信を行うパソコンの設定について説明します。
本製品とパソコンのつなぎかたに応じて、次の箇所をお読みください。
●Ethernetでつなぐ→「3-1 パソコンをEthernetでつなぐには」
●無線でつなぐ　→「3-2 パソコンを無線LANでつなぐには」
●USBでつなぐ　→「USBを使うかたへ」(付属のCD-ROMに収録)

3-1.パソコンをEthernetでつなぐには ……30
■Ethernetカードを用意する ……30
■TCP/IPプロトコルを使えるようにする
【Windows Meの場合】……30
【Windows 2000の場合】 ……33
【Mac OSの場合】 ……35
3-2.パソコンを無線LANでつなぐには ……36
■無線LANカードを用意する ……36
■TCP/IPプロトコルを使えるようにする
【Windows Meの場合】……36
【Windows 2000の場合】 ……39
■無線LANカードを設定する ……41
3-3.WWWブラウザを用意する ……42

3-1　パソコンをEthernetでつなぐには

Ethernetケーブルを[Ethernet]ポートに接続してパソコンと本製品をつなぐ場合の設定のしかたを説明します。

ステップ1　Ethernetカードをパソコンに装着する ――14、30

ステップ2　TCP/IPを設定する ――――――――――30

ステップ3　WWWブラウザを用意する ――――――――42

■Ethernetカードを用意する

ご使用のパソコンに[Ethernet]ポートがあることを確認してください。
[Ethernet]ポートがないパソコンの場合は、Ethernetカードを取り付ける必要があります。
パソコンやEthernetカードに付属する取扱説明書にしたがって、取り付けてください。
また、本製品とパソコンの接続は、無線LANやUSBを使って行うこともできます。

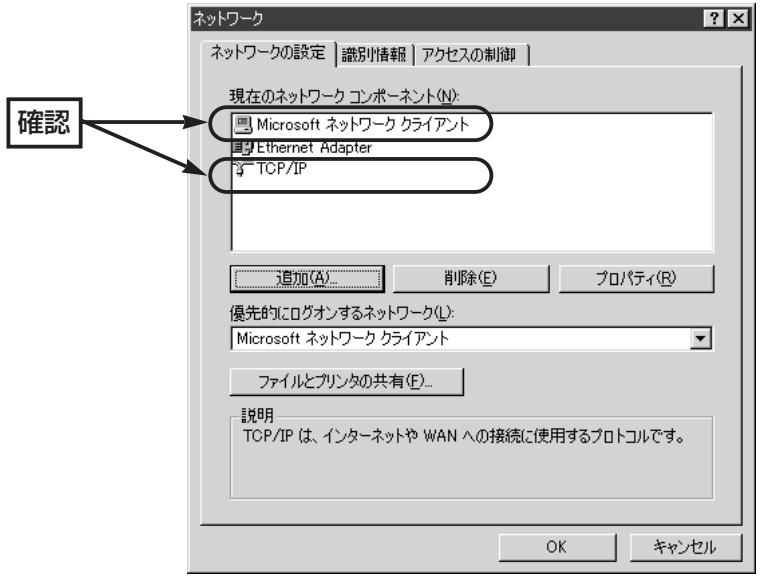
■TCP/IPプロトコルを使えるようにする

本製品と通信を行うパソコンすべてに「TCP/IP」というネットワークプロトコルモジュール(ドライバー)をインストールしておく必要があります。
ドライバーのインストールは、ご使用のEthernetカードに付属する取扱説明書を参考に行ってください。

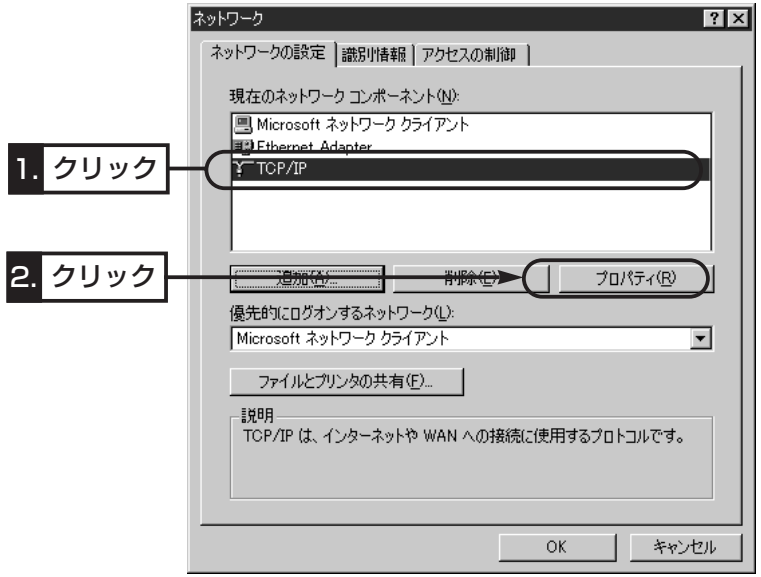
【Windows Meの場合】

1. マウスを〈スタート〉→[設定(S)]→[コントロールパネル(C)]→[ネットワーク]アイコンの順番に操作します。
2. 「ネットワーク」画面の中に「TCP/IP」、「Microsoft ネットワーククライアント」が表示されていることを確認します。
   表示されていないときは、「TCP/IP」のインストールに失敗している可能性がありますので、もう一度、ご使用のEthernetカードに付属する取扱説明書をご覧ください。
   ※「ネットワーク」画面の中に、複数のネットワークアダプターが一緒に組み込まれている場合、下記の画面で本製品の「TCP/IP」プロトコルの表記は、「TCP/IP->ご使用のEthernetカードの名称」で表示されますので、これを確認してください。

【Windows Meの場合】(手順2.つづき)



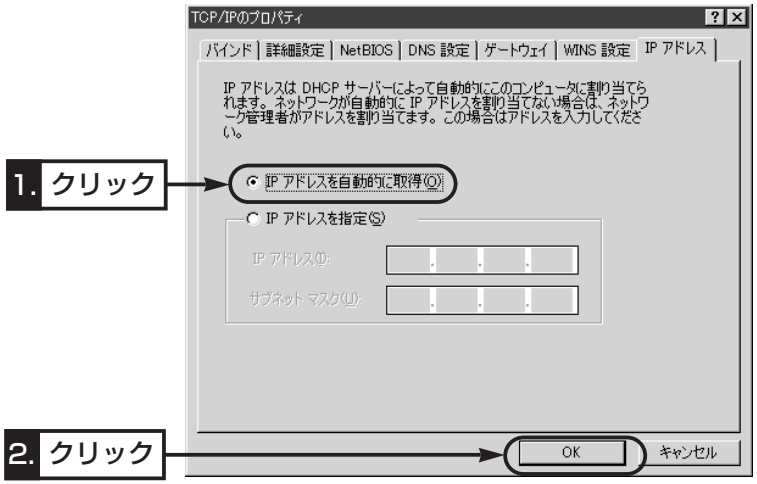
3. 「TCP/IP」→〈プロパティ(R)〉の順番にクリックします。



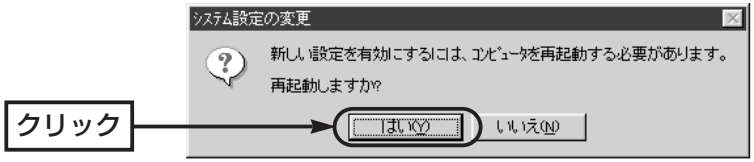
3-1 パソコンをEthernetでつなぐには

■TCP/IPプロトコルを使えるようにする【Windows Meの場合】(つづき)

4.[IPアドレスを自動的に取得(O)]のラジオボタンをクリックしてチェックマークを入れてから、〈OK〉をクリックします。



5.再起動を促す画面が表示されたら、〈はい(Y)〉をクリックします。
再起動後、設定された内容が有効になります。



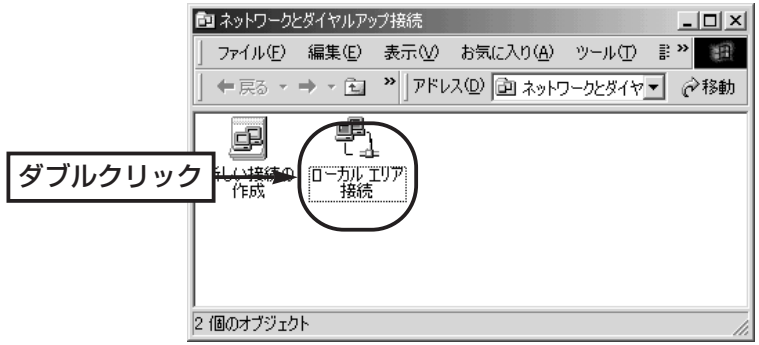
■TCP/IPプロトコルを使えるようにする(つづき)

【Windows 2000の場合】

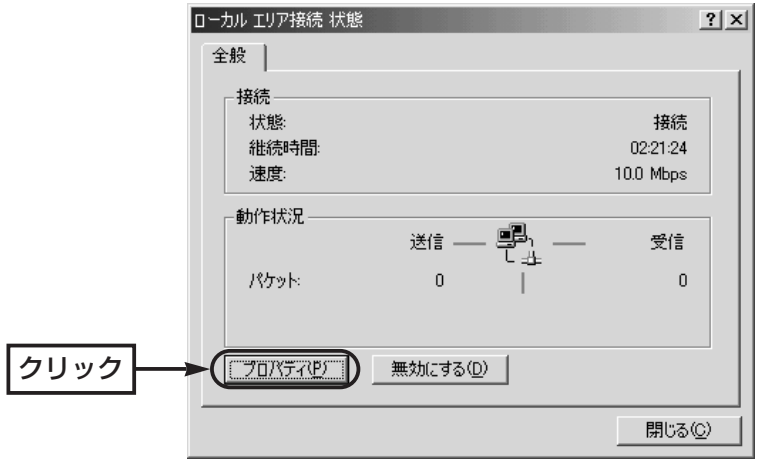
1.設定に使用するパソコンを起動します。
- Windows 2000への「ログオン」画面を表示します。

2.Administrator権限でログオンします。

3.パソコンが起動したら、〈スタート〉→[設定(S)]→[ネットワークとダイヤルアップ接続(N)]→本製品を接続するEthernetカードの名称が表示された[ローカルエリア接続]アイコンの順番にマウスを操作します。

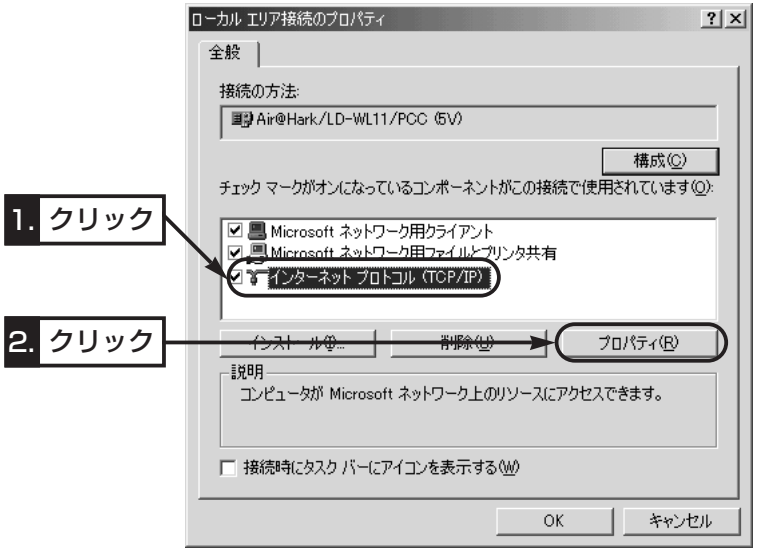


4.〈プロパティ(P)〉をクリックします。

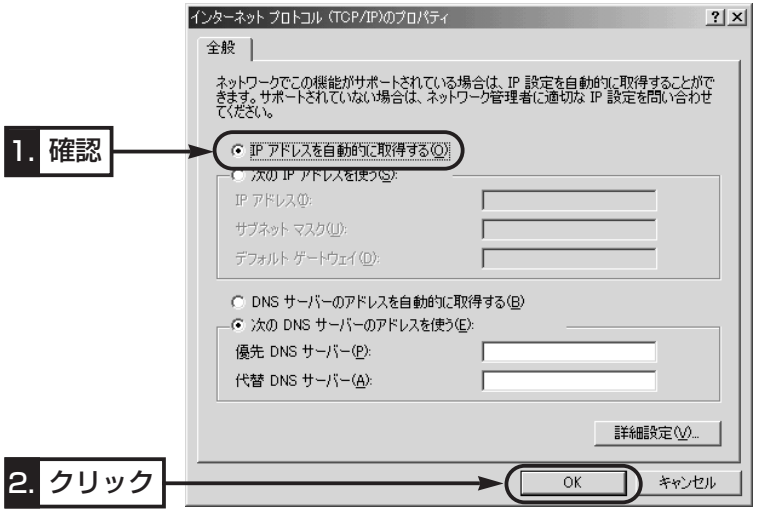


3-1 パソコンをEthernetでつなぐには
■TCP/IPプロトコルを使えるようにする
【Windows 2000の場合】(つづき)

5.「インターネットプロトコル(TCP/IP)」が表示されていれば、その中から「インターネットプロトコル(TCP/IP)」→〈プロパティ(R)〉の順番にクリックします。

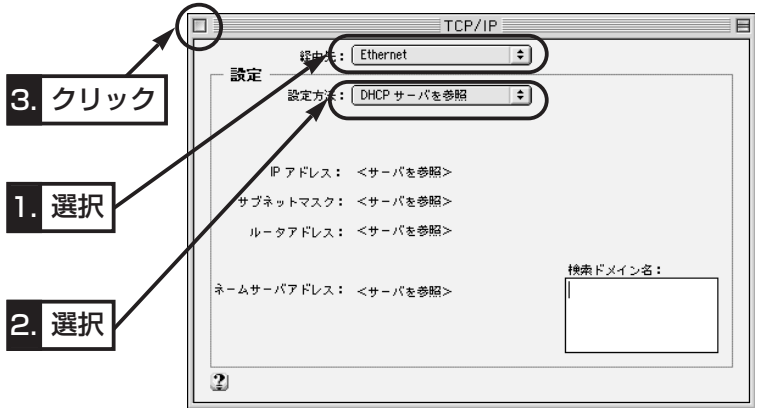


6.[IPアドレスを自動的に取得する(O)]のラジオボタンが選択されていることを確認してから、〈OK〉をクリックすると、設定された内容が有効になります。



【Mac OSの場合】

1.設定に使うパソコンを起動します。
2.パソコンが起動したら、[アップルメニュー]→[コントロールパネル]→[TCP/IP]の順番にマウスを操作します。
3.[経由先]を「Ethernet」、[設定方法]を「DHCPサーバを参照」に設定します。
4.タイトルバー上のクローズボックスをクリックします。
- 画面が閉じて、設定画面が保存されます。



3-2 パソコンを無線LANでつなぐには

パソコンを本製品に無線LANでつなぐ場合の設定のしかたを説明します。
対応OSは、Windows 98、Windows 98SE、Windows Me、Windows 2000です。

ステップ1 無線LANカードをパソコンに装着する ――14、30

ステップ2 TCP/IPを設定する ――36

ステップ3 無線LANカードを設定する ――41

ステップ4 WWWブラウザを用意する ――42

■無線LANカードを用意する

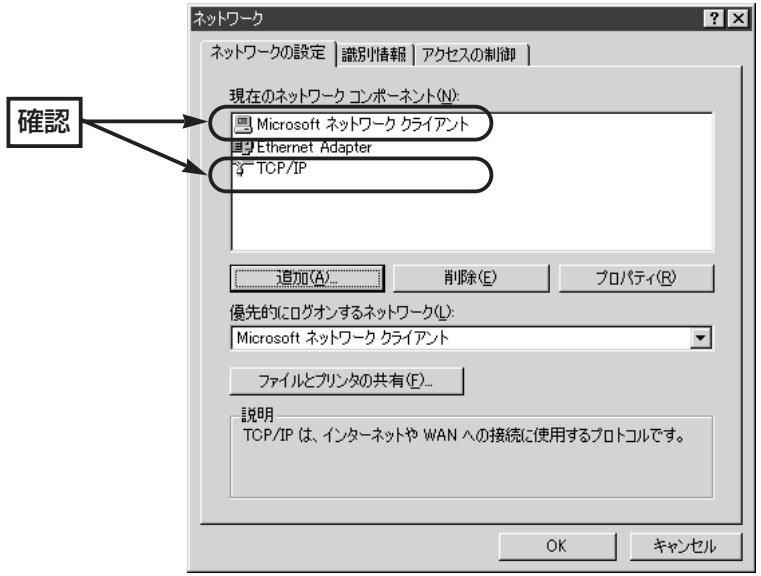
ご使用のパソコンに対応する無線LANカードが装着できることを確認してください。
PCMCIAスロットがないパソコンの場合は、PCIバス対応無線LANカード用アダプター(弊社製)を取り付ける必要があります。
無線LANカード用アダプターに付属する取扱説明書にしたがって、取り付けてください。
また、本製品とパソコンの接続は、EthernetやUSBを使って行うこともできます。

■TCP/IPプロトコルを使えるようにする

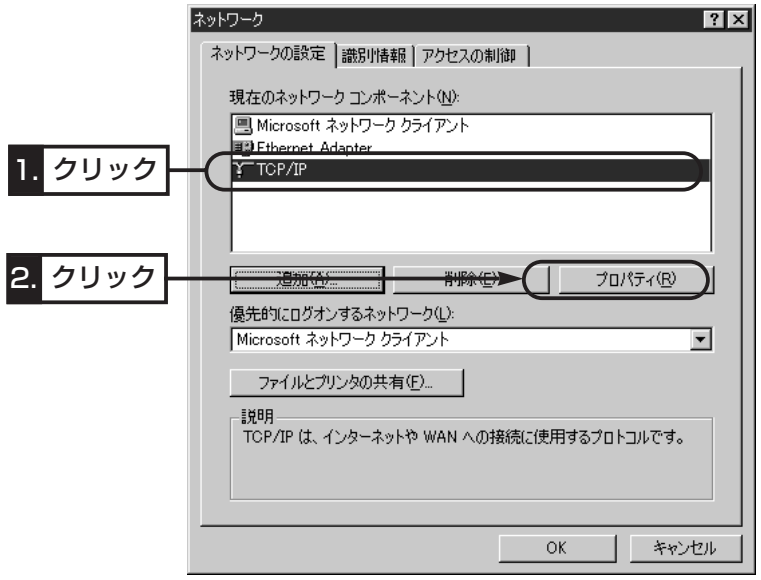
本製品と通信を行うパソコンすべてに「TCP/IP」というネットワークプロトコルモジュール(ドライバー)をインストールしておく必要があります。
ドライバーのインストールは、ご使用の無線LANカードの取扱説明書を参考に行ってください。

【Windows Meの場合】

1. マウスを〈スタート〉→[設定(S)]→[コントロールパネル(C)]→[ネットワーク]アイコンの順番に操作します。
2. 「ネットワーク」画面の中に「TCP/IP」、「Microsoft ネットワーククライアント」が表示されていることを確認します。
   表示されていないときは、「TCP/IP」のインストールに失敗している可能性がありますので、もう一度、ご使用の無線LANカードの取扱説明書をご覧ください。
   ※「ネットワーク」画面の中に、複数のネットワークアダプターが一緒に組み込まれている場合、下記の画面で本製品の「TCP/IP」プロトコルの表記は、「TCP/IP->ご使用の無線LANカードの名称」で表示されますので、これを確認してください。



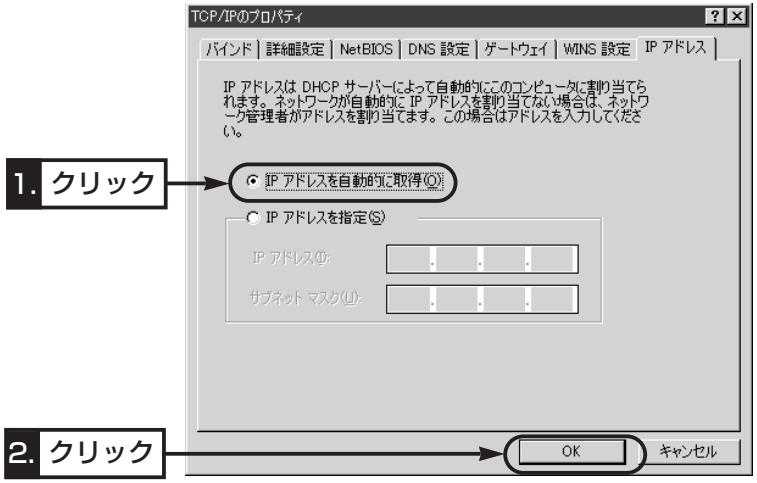
3. 「TCP/IP」→〈プロパティ(R)〉の順番にクリックします。



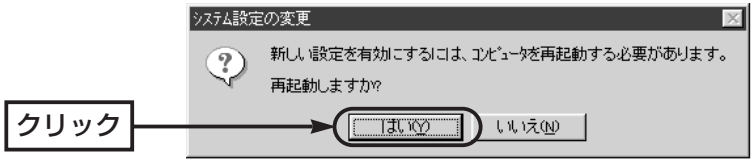
3-2 パソコンを無線LANでつなぐには

■TCP/IPプロトコルを使えるようにする【Windows Meの場合】(つづき)

4.[IPアドレスを自動的に取得(O)]のラジオボタンをクリックしてチェックマークを入れてから、〈OK〉をクリックします。



5.再起動を促す画面が表示されたら、〈はい(Y)〉をクリックします。再起動後、設定された内容が有効になります。



■TCP/IPプロトコルを使えるようにする(つづき)

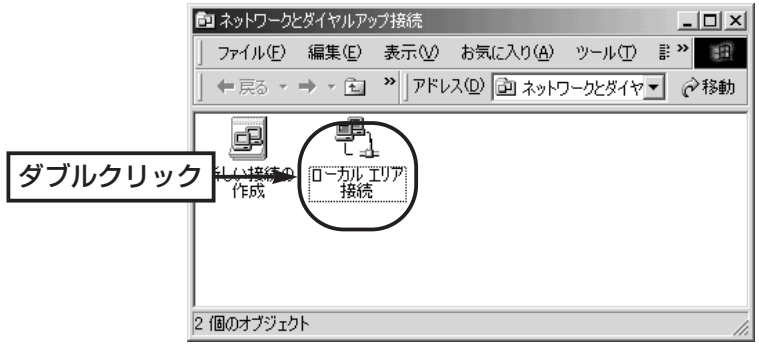
【Windows 2000の場合】

1.設定に使用するパソコンを起動します。

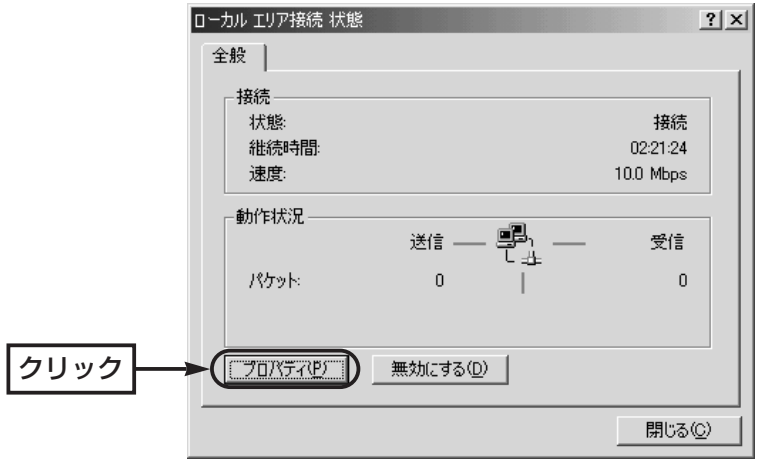
- Windows 2000への「ログオン」画面を表示します。

2.Administrator権限でログオンします。

3.パソコンが起動したら、〈スタート〉→[設定(S)]→[ネットワークとダイヤルアップ接続(N)]→本製品を接続する無線LANカードの[ローカルエリア接続]アイコンの順番にマウスを操作します。



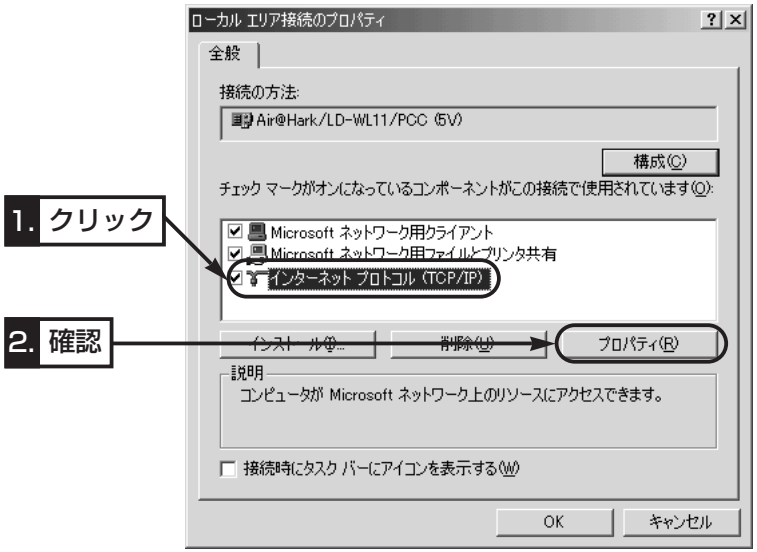
4.本製品を接続する無線LANカードの[ローカルエリア接続]アイコンをダブルクリックします。



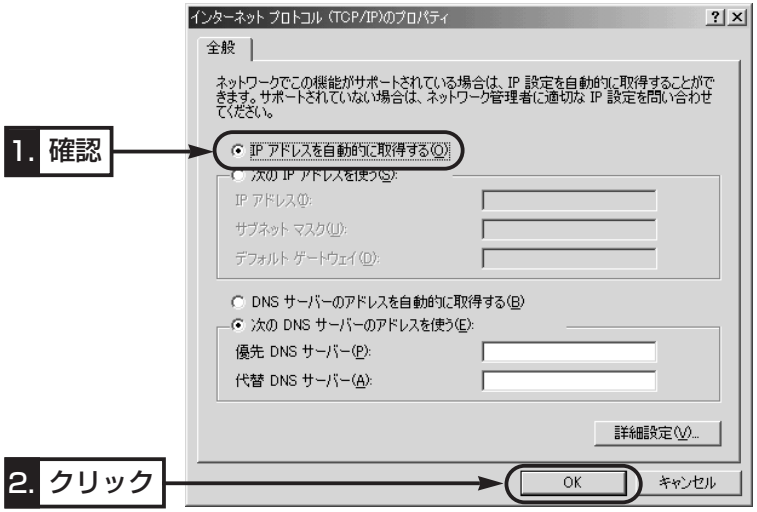
3-2 パソコンを無線LANでつなぐには

■TCP/IPプロトコルを使えるようにする【Windows 2000の場合】(つづき)

5.「インターネットプロトコル(TCP/IP)」が表示されていれば、その中から「インターネットプロトコル (TCP/IP)」→〈プロパティ(R)〉の順番にクリックします。



6.[IPアドレスを自動的に取得する(O)]のラジオボタンが選択されていることを確認してから、〈OK〉をクリックすると、設定された内容が有効になります。



3-2 パソコンを無線LANでつなぐには(つづき)

■無線LANカードを設定する

無線LANで接続するパソコン(PC/AT互換機)は、次に示す項目の設定値を本製品と同じにする必要があります。ここでは、本製品の出荷時の設定値に合わせてパソコン側の設定値を変更することを前提として説明します。

パソコン側の設定値を変更する操作は、ご使用の無線LANカードの取扱説明書をご覧ください。

[Network Mode]

無線アクセスポイントという中継装置(本製品に内蔵)と通信を行います。

パソコン側の「Infrastructure(インフラストラクチャー)」モードに変更しておきます。

本製品側では、この項目についての設定はありません。

[ESS ID]

同じ名前を設定したパソコンが無線ネットワーク上で同じワークグループとして識別されます。パソコン側の設定を「Laneed」(半角英文字)に変更しておきます。

本製品の出荷時の設定値は、「Laneed」(半角英文字)です。

[通信チャンネル]

「Infrastructure(インフラストラクチャー)」モードで通信を行うときは、設定しても無効です。本製品側で設定する通信チャンネルにしたがって無線通信を行います。

[WEP機能]

無線LANで通信を行うとき、通信するデータの暗号化を行います。パソコン側のWEPセキュリティを「無効」に変更しておきます。

本製品の出荷時の設定値は、「WEPキーを使用しない」です。

【⚠注意】

- Macintoshへの無線接続には、対応していません。
- 本製品に対応する無線LANカードをご使用ください。対応しないカードとは通信できません。
- 本製品とパソコンに装着された無線LANカードの設定を両方とも同じにしてください。設定が異なると、無線LANによる通信が行えません。
- 本製品に設定した値を正確にメモして、必ず同じ値を無線で通信するすべての機器に設定してください。
- 本製品に無線LANで接続するパソコンから、本製品の「通信チャネル」、「ESS ID」などを変更している途中は、一時的に無線で接続ができない状態になります。
  すべての機器の設定内容が同じになれば、接続できる状態になります。
- WEP機能を使用しない場合、部外者から不用意に接続される可能性があり、不正侵入や盗聴、妨害、データの消失、破壊などに遭遇する危険があります。また、無線LAN経由でISDN回線を使われて電話料金やプロバイダー接続料金を請求されるおそれがあります。
  このようなことがないように、必ずWEP機能をご使用になることをお勧めします。
- WEP機能を使って本製品と無線通信するには、弊社製の無線LANカードが必要です。
- 無線通信中に動作が不安定になる場合は、本製品やパソコンの設置場所、向きを変えてみてください。
- 本製品の無線LANに多くのパソコンが同時にアクセスすると、通信速度が著しく低下することがあります。
  同時に使える無線端末の数は、最大64台までですが10台以下とすることをお勧めします。

3-3　WWWブラウザを用意する

本製品の設定をWWWブラウザで行うには、Microsoft Internet Explorer4.0以降、またはNetscape Navigator4.0以降が必要です。
Ethernetまたは無線で接続されたパソコンからインターネットを使う場合は、ブラウザの設定が、「Proxy(プロキシ)サーバ機能」を利用しないようになっていることを確認してください。
Proxyサーバを使いたいときは、次の手順を参考に本製品をProxyの対象外にしてください。

【Microsoft Internet Explorer5.0の場合】

本製品をProxyの対象外にする設定手順について説明します。

1. [ツール(T)]メニューから「インターネットオプション(O)」を選択します。
2. [接続]タブ→〈LANの設定(L)〉の順番にマウスを操作します。
3. 設定画面の「プロキシサーバを使用する(X)」のチェックボックスにチェックを入れて、〈詳細(C)〉をクリックします。
4. サーバの種類で、「HTTP(H)」のテキストボックスにプロバイダーのProxyサーバアドレスを入力します。
5. 例外の「次で始まるアドレスにはプロキシを使用しない(N)」のテキストボックスには、本製品のIPアドレス(例：192.168.1.1)を入力します。

【Netscape Navigator6.0の場合】

本製品をProxyの対象外にする設定手順について説明します。

1. [編集(E)]メニューから「設定(E)」を選択します。
2. 設定画面の「カテゴリ」の中から、「詳細－プロキシ」をクリックします。
3. 「手動でプロキシを設定する」のラジオボタンにチェックを入れます。
4. 「HTTP(H)」のテキストボックスにプロバイダーのProxyサーバアドレスを入力します。
5. 「プロキシなし(N)」のテキストボックスに本製品のIPアドレス(例：192.168.1.1)を入力します。

Air@Hawk

第4章 本製品とパソコンをつなぐ

この章では、
本製品を使って、LANを構築する方法について説明します。
構築するLANの形態に応じて、次の箇所をお読みください。
●新規にLANを構築する→「4-1 新規にLANを構築する」
●既存のLANに組み込む→「4-2 既存のLANに組み入れる」

4-1.新規にLANを構築する ……44
　■Ethernetを使ってつなぐ ……44
　■HUBを使ってつなぐ ……45
　■無線LANを使ってつなぐ ……46
4-2.既存のLANに組み入れる ……47
　■ネットワーク状況の確認 ……47
　■IPアドレスを設定する ……47
　■既存のLANにつなぐ ……47
4-3.割り当てられたIPアドレスを確認する
　【Windows Meの場合】……48
　【Windows 2000の場合】 ……49
　【Mac OSの場合】 ……50

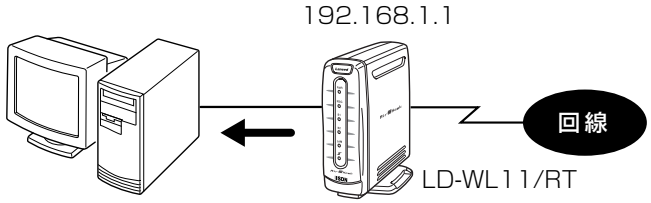
4-1　新規にLANを構築する

新規にLANを構築する場合は、本製品のDHCPサーバ機能を使ってIPアドレスを割り当てることをおすすめします。

■Ethernetを使ってつなぐ

本製品とパソコンをEthernetケーブルでつなぎます。

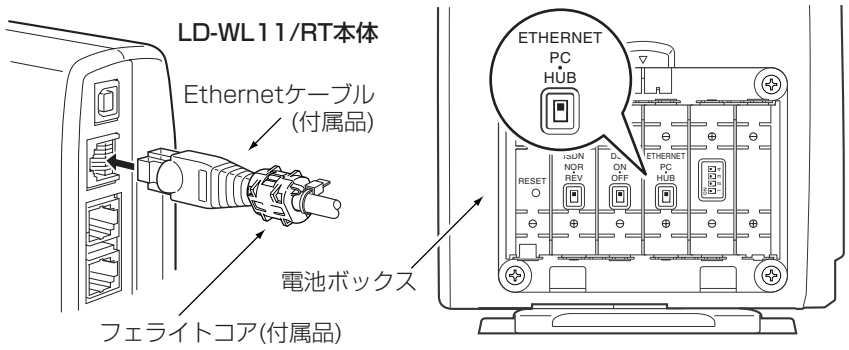
【⚠注意】
Ethernetケーブルの接続は、本製品および接続する機器の電源を切った状態で行ってください。
パソコンの電源を入れるのは、本製品の電源を入れてから行ってください。



本製品を起動しておくと、パソコンが起動したとき、本製品からIPアドレスを割り当てられます。

本製品にパソコン1台だけをつなぐ方法を説明します。
本製品の設定を行うときは、本製品をネットワーク上の複数のパソコンで利用する場合でも、そのうちの1台をネットワークから切り離して本製品につないでください。
〈つなぎかた〉

1. 本製品とパソコンの[Ethernet]ポートを、本製品に付属するEthernetケーブルでつなぎます。
2. 本製品の[ETHERNET]スイッチを「PC」側(出荷時の設定)に切り替えます。
3. 本製品の電源を最初に入れてから、パソコンの電源を入れます。
   - Ethernetケーブルが正しく接続されていると、[LAN]ランプが点灯します。



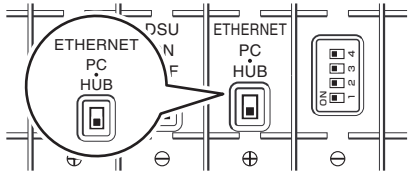
■HUBを使ってつなぐ

本製品を2台以上のパソコンで使う場合は、本製品とHUBをEthernetケーブルでつなぎます。

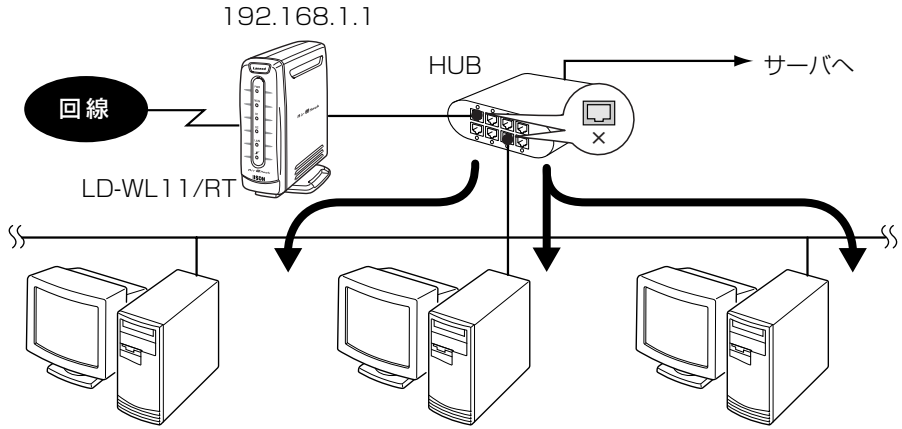
【⚠注意】
Ethernetケーブルの接続は、本製品および接続する機器の電源を切った状態で行ってください。
パソコンの電源を入れるのは、本製品とHUBの電源を入れた状態で行ってください。

本製品にパソコン2台以上をつなぐ方法を説明します。
本製品の設定を行うときは、本製品をネットワーク上の複数のパソコンで利用する場合でも、そのうちの1台をネットワークから切り離して本製品につないでください。
〈つなぎかた〉

1. HUBの[Ethernet](×印のある)ポートと本製品の[Ethernet]ポートを、本製品に付属するEthernetケーブルでつなぎます。
2. HUBの[Ethernet](×印のある)ポートとパソコンの[Ethernet]ポートを、市販のEthernetケーブル(ストレート結線)でつなぎます。
3. 本製品の[ETHERNET]スイッチを「HUB」側に切り替えます。



4. 本製品とHUBの電源を最初に入れてから、パソコンの電源を入れます。
   - Ethernetケーブルが正しく接続されていると、[LAN]ランプが点灯します。



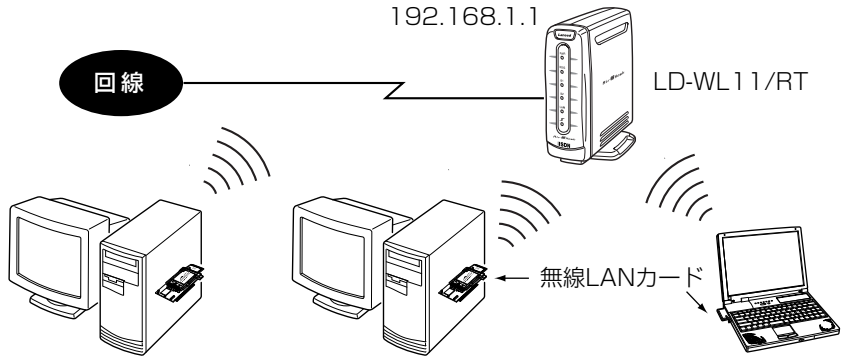
本製品の電源を入れておくと、パソコンの電源を入れた順番に、本製品からIPアドレスを割り当ててられます。

4-1 新規にLANを構築する(つづき)

■無線LANを使ってつなぐ

本製品とパソコンを無線LANでつなぎます。

【⚠注意】
Macintoshへの無線接続には、対応していません。
無線接続は、先に本製品の電源が入った状態で行ってください。



本製品の電源を入れておくと、パソコンの電源を入れた順番に、本製品からIPアドレスを割り当てられます。

同じワークグループで通信するすべてのパソコンと本製品には、次の手順で同じ値を設定する必要があります。
本製品の設定を行うときは、本製品をネットワーク上の複数のパソコンで利用する場合でも、そのうちの1台をネットワークから切り離して本製品につないでください。
〈つなぎかた〉

1. 本製品の電源を入れます。
2. 無線LANカードが装着されたパソコンの電源を入れます。なお、すでに電源が入っているときは、パソコンを再起動します。
   - 正しく接続されると、前面パネルの[ ]ランプが点灯します。ただし、通信しない状態や無線伝送エリア外に移動するなど、そのような状態が1～2分間つづくと消灯します。

   ※前面パネルの[ ]ランプが点灯しないときは、「パソコンを無線LANでつなぐには」(☞3-2章)の「■無線LANカードを設定する」の内容を確認してください。また、本製品の設定内容については、「無線LANを設定する」(☞6-4章)をご覧ください。

【無線通信距離について】
無線での通信距離は、設置場所によって多少異なりますが、以下の見通し距離を参考に設置してください。

- 通信速度の設定が「自動切替」のとき
  屋内：約 50m
  屋外：約 150m
- 通信速度の設定が「11Mbps固定」のとき
  屋内：約30m
  屋外：約70m

4-2 既存のLANに組み入れる

既存のLANに本製品を組み込む場合は、あらかじめそのLANで取り決めたIPアドレスの割り当て方法にしたがって本製品のIPアドレスを割り当てる必要があります。

【IPアドレスを固定で割り当てている場合】
空いているIPアドレスを本製品に割り当てる
※本製品のIPアドレスについては、「本体IPアドレスを変更するには」(☞6-8章)をご覧ください。

【DHCPサーバ機能を利用している場合】
本製品のDHCPサーバ機能を使わないよう、本製品の設定を変更して、自動割り当て範囲外のIPアドレスを本製品に割り当てる
※DHCPサーバ機能ついては、「自動割り当て開始IPアドレスを変更するには」(☞6-9章)をご覧ください。

■ネットワーク状況の確認

ネットワークを既存のLAN上に構築している場合は、次の点に注意してください。

【LAN上での各パソコンのIPアドレス】
TCP/IPでは、ネットワーク上の各ネットワーク機器(パソコンなど)のIPアドレスと本製品のIPアドレスが重複すると、本製品と各パソコンのあいだで通信が行えなくなります。また、ネットワーク全体にも影響がおよぶ可能性がありますので、注意してください。
既存のネットワーク上に「192.168.1.1」というIPアドレスを持つネットワーク機器があるときは、本製品を既存のLANに接続する前に、本製品のIPアドレスを変更する必要があります。
各ネットワーク機器のIPアドレスなどを静的に割り当てる場合は、IPアドレスが重複しないように注意してください。また、動的に割り当てを行っている場合でも、DHCPサーバ機能で割り当てるIPアドレス範囲と本製品のIPアドレスが重複しないように設定を変更する必要があります。また、ブロードキャストアドレスは、ネットワーク上のすべて機器に割り当てることができませんので、注意してください。

■IPアドレスを設定する

接続したいほかのネットワークとIPアドレスが重複するときは、設定を変更します。
設定のしかたについては、「本体IPアドレスを変更するには」(☞6-8章)をご覧ください。

■既存のLANにつなぐ

「新規にLANを構築する」(☞4-1章)の「■HUBを使ってつなぐ」を参考にしてください。

4-3　割り当てられたIPアドレスを確認する

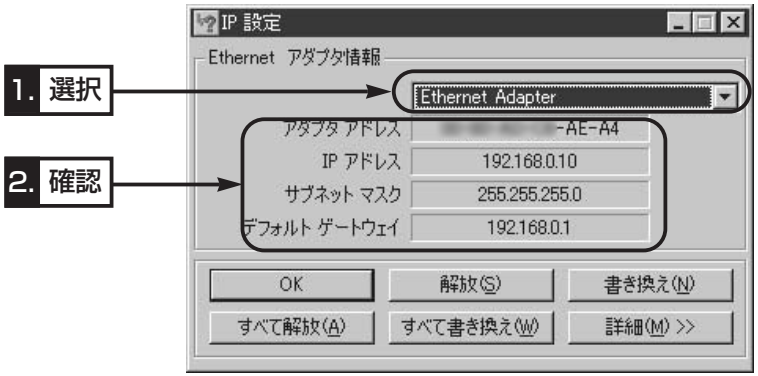
DHCPサーバ機能によってパソコンに自動で割り当てられたIPアドレスを確認する方法について説明します。
ご使用のOSごとに説明する手順で確認を行ってください。

【Windows Meの場合】

インストールされたOSの[Windows]フォルダーに収められた「winipcfg.exe」というアプリケーションで確認します。

〈確認のしかた〉

1.マウスを〈スタート〉→[ファイル名を指定して実行(R)]の順番に操作します。
2.コマンドラインボックスに「winipcfg」と半角入力して、[ENTER]キーを押します。
3.テキストボックスの▼をクリックして、ご使用のEthernetまたは無線LANカード名を選択します。
- IPアドレスがDHCPサーバからパソコンに割り当てられると、[IPアドレス]の項目に表示されます。



〈画面の表示項目について〉

◎アダプタアドレス　　：EthernetまたはLANカードのMACアドレス
◎IPアドレス　　：パソコンのIPアドレス
◎サブネットマスク　　：本製品のLAN側のサブネットマスク
◎デフォルトゲートウェイ：本製品のLAN側のIPアドレス

【自動割り当てに失敗したら？】

パソコンのネットワーク部のIPアドレスが、本製品のIPアドレスのネットワーク部(192.168.1.)と異なるときは、IPアドレスの自動割り当てに失敗している可能性がありますので、ご使用のEthernetまたは無線LANカードのTCP/IPプロトコルについての設定およびケーブルの接続を確認してから、パソコンを再起動してみてください。
再起動したら、もう一度、上記の手順でIPアドレスを確認してください。

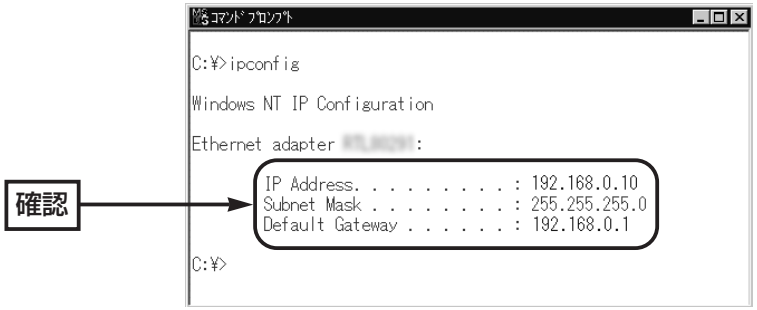
4-3 割り当てられたIPアドレスを確認する(つづき)

【Windows 2000の場合】

コマンドプロンプト画面から「ipconfig」を実行します。

〈確認のしかた〉

1.マウスを〈スタート〉→[プログラム(P)]→[アクセサリ]→[コマンドプロンプト]の順番に操作します。
2.ipconfigとコマンドを入力して、[Enter]キーを押します。
※コマンドラインのオプションについて詳しくは、「ipconfig/?」を実行してご確認ください。
3.次に表示された画面に、パソコンに割り当てられてIPアドレスが表示されます。



4-3 割り当てられたIPアドレスを確認する(つづき)

【Mac OSの場合】

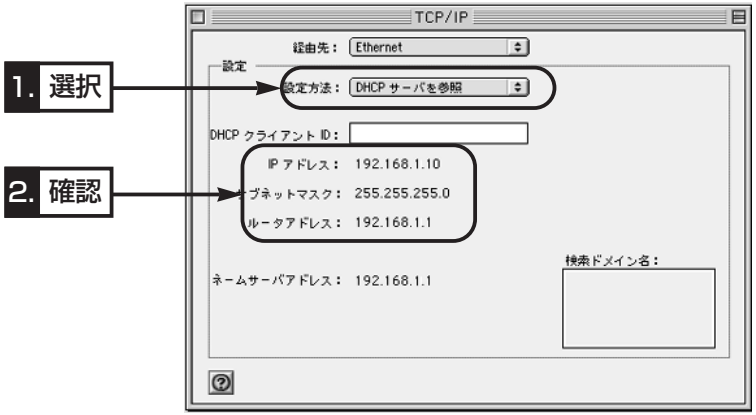
パソコンを起動後、実際に通信(WWWアクセスまたはメールアクセス)を行うまで、DHCPサーバからIPアドレスを取得しないようになっています。

次の手順で表示される画面の各項目に〈サーバを参照〉と表示されているときは、一度通信を行ったあとにもう一度確認してください。

〈確認のしかた〉

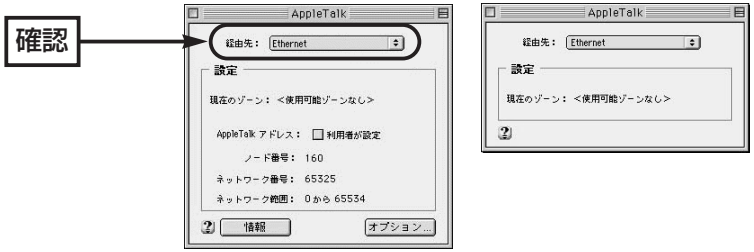
1.[アップルメニュー]→[コントロールパネル]→[TCP/IP]の順番にマウスを操作します。

- IPアドレスがDHCPサーバからパソコンに割り当てられると、[IPアドレス]の項目に表示されます。



2.MACアドレスの確認は、[アップルメニュー]→[コントロールパネル]→[AppleTalk]の順番にマウスを操作すると、次のどちらかの画面を表示しますので、[経由先]を「Ethernet」に選びます。

※右の画面を表示する場合、メニューバーの[編集]メニュー→[利用者モード]で表示する画面から「詳しい情報も指定」を選ぶと、左の画面を表示します。



【Mac OSの場合】

〈確認のしかた〉(つづき)

3.〈情報〉をクリックします。

右の画面を表示する場合、メニューバーの[ファイル]メニューから、「情報を見る」を選ぶと、右の画面を表示します。

簡単設定ソフトで設定する

この章では、
Ethernetで本製品に接続するパソコンを例に、本製品のISDNダイヤルアップとフレッツISDNの接続設定について、本製品のCD-ROMに収められた「簡単接続設定ウィザード」を使って行う方法を説明します。
「簡単接続設定ウィザード」を使って設定が行えるのは、ISDNダイヤルアップとフレッツISDNだけです。
「WWWブラウザ」を使って設定を行う場合は、「WWWブラウザで設定する」(☞6章)をご覧ください。
詳しく設定を行う場合でも、最初に「簡単接続設定ウィザード」を使って設定しておくと便利です。
無線で本製品に接続するパソコンから「簡単接続設定ウィザード」を使って設定されたいかたは、最初に「無線LANを設定する」(☞6-4章)をご覧になり、パソコンの無線LAN設定内容の確認と本製品の設定画面が呼び出せることを確認してから、本章で設定を行うことをお勧めします。
専用線接続の設定については、取扱説明書[応用編]をご覧ください。

5-1.本製品とパソコンの電源を入れる ……54
5-2.簡単設定ソフトを起動する ……54
5-3.設定をはじめる ……55

5-1　本製品とパソコンの電源を入れる

設定に使うパソコンの準備ができたら、本製品とそのパソコンの電源を入れます。

1.本製品の電源を入れます。
2.本製品に接続されたパソコンの電源を入れます。
3.本製品の[LAN]ランプが点灯していることを確認します。
　消灯している場合は、[ETHERNET]スイッチの設定(☞4章)を確認してください。
4.本製品からパソコンにIPアドレスが割り当てられている(☞4-3章)ことを確認します。
　※IPアドレスが割り当てられないときは、本製品の設定画面を呼び出せませんので、もう一度「パソコンを設定する」(☞3章)で確認してください。

5-2　簡単設定ソフトを起動する

簡単設定ソフトは、本製品のCD-ROMに収められています。

1.本製品のCD-ROMをご使用のCD-ROMドライブに挿入します。
　●CD-ROMドライブのAuto Run機能が動作して、メニュー画面を表示します。
2.〈簡単接続設定ウィザード〉クリックします。
　●「簡単接続設定ウィザード」が起動します。

【インストールについて】

「簡単設定ソフト」をインストールしてご利用になりたいときは、〈ユーティリティ インストール〉をクリックすると、インストールが行えます。

詳しい手順については、「ソフトウェアのインストール」(☞10-2章)をご覧ください。

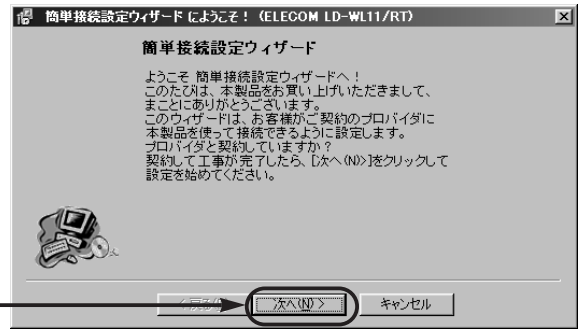
【Auto Run機能が動作しないときは？】

OSのエクスプローラーを使って、[CD-ROMドライブ]アイコンの中に収められた「AutoRun.exe」をダブルクリックすると、上記のメニュー画面を表示します。

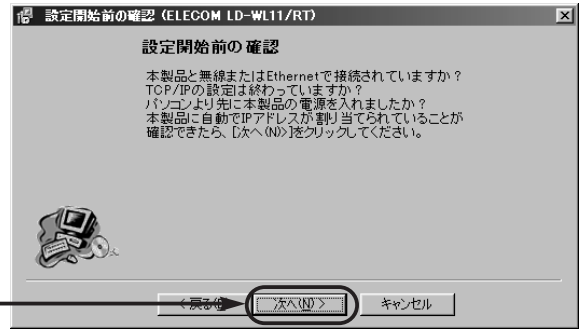
5-3　設定をはじめる

「簡単接続設定ウィザード」を起動したら、つぎの手順にしたがって設定を行ってください。

1.「簡単接続設定ウィザード」と画面に表示されたら、内容を確認して、〈次へ(N)〉をクリックします。



2.「設定開始前の確認」と画面に表示されたら、契約しているプロバイダーから指示された情報を準備していることを確認して、〈次へ(N)〉をクリックします。
　※パソコンのIPアドレスをあらかじめ手動で指定しているときは、自動的に取得できるように変更(☞3章)してから、やり直してください。

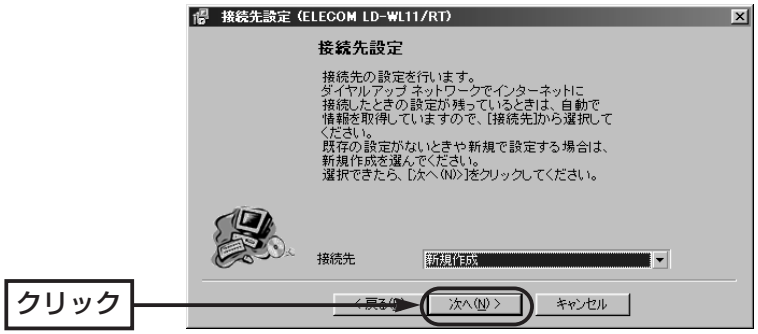


【⚠注意】

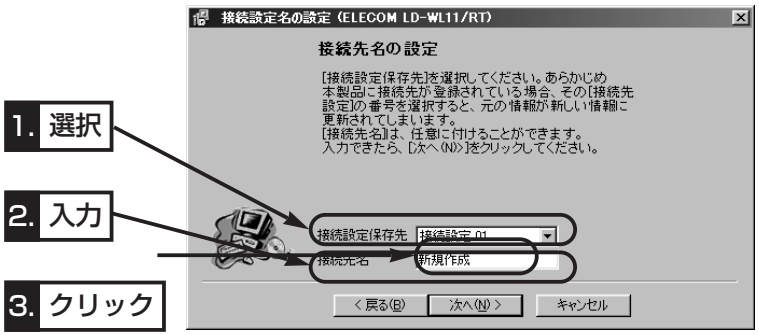
「簡単接続設定ウィザード」では、テキストボックスに入力する文字数制限は、「wwwブラウザ」を使って設定するときの文字数制限と同じです。「簡単接続設定ウィザード」で制限以上の文字を入力されても、制限を超えた分は、破棄されます。

5-3 設定をはじめる(つづき)

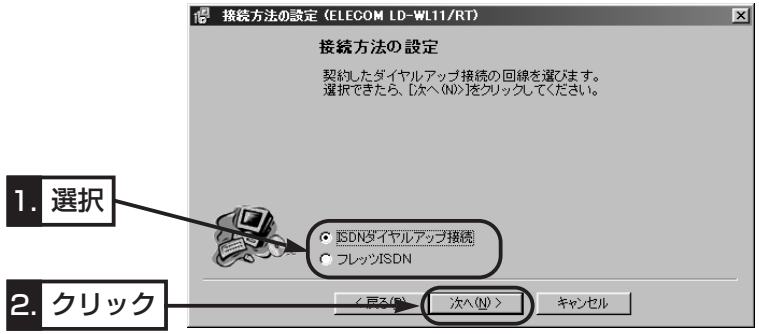
3.「接続先設定」と画面に表示されたら、内容を確認して、〈次へ(N)〉をクリックします。
モデムやTAでインターネット接続していたパソコンに設定が残っているときは、「ダイヤルアップネットワーク」で設定した接続先の内容を本製品の設定として取り込めます。
取り込むときは、[接続先]ボックスの[▼]をクリックして、その接続先名を選択します。



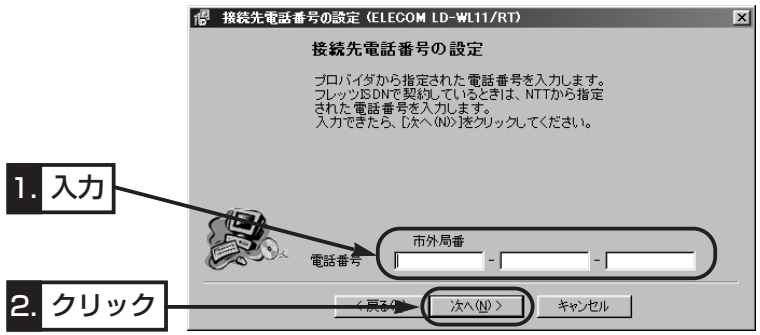
4.「接続先名の設定」と画面に表示されたら、[接続設定保存先]の番号を選択します。
[接続先名]のテキストボックスにそれに付ける名称を任意に設定したら、〈次へ(N)〉をクリックします。



5.「接続方法の設定」と画面に表示されたら、該当する契約回線のラジオボタンをクリックして、〈次へ(N)〉をクリックします。
※該当するネットワーク形態について詳しくは、6-5章(ISDNダイヤルアップ接続の場合)、6-6章(フレッツISDNの場合)を参考にしてください。



6.「接続先電話番号設定」と画面に表示されたら、内容を確認または入力して、〈次へ(N)〉をクリックします。
※ フレッツISDNでご契約の場合は、プロバイダーから指示されたものとは別の電話番号を指定されますので、それを入力します。
※ この画面は、手順5.で「ISDNダイヤルアップ接続」を選択したときです。

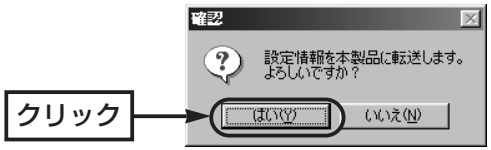


5-3 設定をはじめる(つづき)

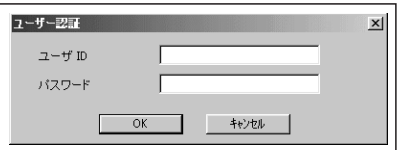
7.「ユーザーIDとパスワードの設定」と画面に表示されたら、契約しているプロバイダーから指示された[ユーザーID]と[パスワード]と[確認用パスワード]をテキストボックスに入力して、〈次へ(N)〉をクリックします。

8.「設定情報の送信」と画面に表示されたら、本製品に設定されたIPアドレス(出荷時は、192.168.0.1)が表示されていることを確認して、〈次へ(N)〉をクリックします。

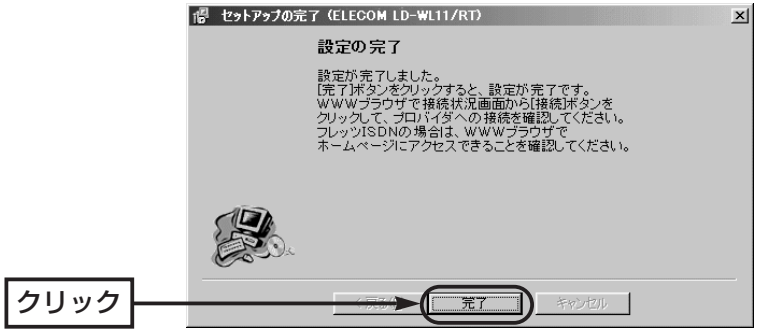
9.「確認」のダイアログが表示されますので、〈はい(Y)〉をクリックします。



手順9.で、「ユーザー認証」画面が表示されたときは、本製品に設定されている管理者IDを入力します。管理者IDを設定していないのに、以前設定した内容が表示されるときは、その内容を消してから〈OK〉をクリックします。



10.「設定の完了」と画面に表示されたら、〈完了〉をクリックします。



11.手順5.で「ISDNダイヤルアップ接続」を選択したときは、本製品の接続設定画面を表示しますので、その画面にある〈接続〉をクリック(手動で接続)して、回線に接続されることを確認します。

手順5.で「フレッツISDN」を選択したときは、自動的にWWWブラウザを起動して、弊社のホームページにアクセス(自動で接続)します。

本製品の[B1]または[B2]ランプは、接続中は点滅して、接続されると点灯に替わります。

【ISDNダイヤルアップ接続】で表示する画面

5-3 設定をはじめる(手順11.のつづき)

【フレッツISDN】で表示する画面

12.回線の切断方法については、「インターネット接続を終了する」(☞7-2章)をご覧ください。

13.設定画面を呼び出して(☞6-2章)、本製品の時計を設定(☞6-3章)します。
設定を行わないと、通信記録表示、自動接続可能な時間帯、自動切断でタイマーを使う時間帯などの制限を設定しても正しく動作させることができませんので、設定しておくことをお勧めします。

【設定後、回線に接続できないときは？】
ご契約のプロバイダーがIPCP(DNSアドレス送信)に対応していないと、回線接続時にDNSアドレスを自動取得できませんので、インターネットにつながらないことがあります。
このような場合は、「WWWブラウザで設定する」(☞6章)をご覧になり、プロバイダーから指定されたDNSアドレスを本製品の設定画面に直接入力してください。
設定後は、「インターネットにつなぐ」(☞7章)をご覧になり、インターネットにつながることを確認してください。
IPCPについて詳しくは、ご契約のプロバイダーにお尋ねください。

WWWブラウザで設定する

この章では、
Ethernetで本製品に接続するパソコンを例に、本製品の基本的なダイヤルアップ接続の設定について、「WWWブラウザ」を使って行う方法を説明します。
本製品のCD-ROMに収められた「簡単接続設定ウィザード」を使って設定を行う場合は、「簡単設定ソフトで設定する」(☞5章)をご覧ください。
詳しく設定を行う場合でも、最初に「簡単接続設定ウィザード」を使って設定すると便利です。
専用線接続の設定については、取扱説明書[応用編]をご覧ください。

6-1.本製品とパソコンの電源を入れる ……62
6-2.設定画面を呼び出す ……62
■「回線設定」画面 ……62
■「接続状況」画面 ……63
■各〈メニュー〉ボタンについて ……64
■回線種別を変更するときは ……64
6-3.本製品の時計を設定する ……65
6-4.無線LANを設定する ……66
6-5.ISDN回線でインターネットに端末型接続する……68
6-6.フレッツISDNでプロバイダーと接続する……71
6-7.ISDN回線でネットワークにLAN間接続する ……74
6-8.本体IPアドレスを変更するには ……78
6-9.自動割り当て開始IPアドレスを変更するには ……79
6-10.接続先を複数登録するには ……80

6-1　本製品とパソコンの電源を入れる

設定に使うパソコンの準備ができたら、本製品とそのパソコンの電源を入れます。

1.本製品の電源を入れます。
2.本製品に接続されたパソコンの電源を入れます。
3.本製品の[LAN]ランプが点灯していることを確認します。
　消灯している場合は、[ETHERNET]スイッチの設定(☞4章)を確認してください。
4.本製品からパソコンにIPアドレスが割り当てられている(☞4-3章)ことを確認します。
　※IPアドレスが割り当てられないときは、本製品の設定画面を呼び出せませんので、もう一度「パソコンを設定する」(☞3章)で確認してください。

6-2　設定画面を呼び出す

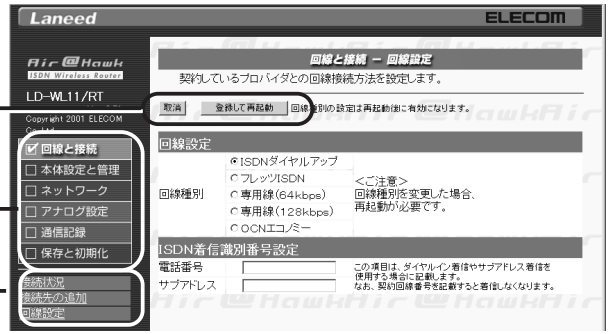
次の手順で本製品の設定画面を呼び出したとき、最初に表示される画面は、本製品の設定状態によって異なります。

●出荷時または全設定内容を初期化したとき→「回線設定」画面を表示します。
●設定や接続先などの登録が行われているとき→「接続状況」画面を表示します。

〈操作のしかた〉

1.WWWブラウザを起動します。
　※本書では、Internet Explorer5.0を使って説明しています。
2.本製品のURL「http://192.168.1.1」を指定します。
　●本製品の設定状態によって、「回線設定」画面または「接続状況」画面が表示されます。

■「回線設定」画面

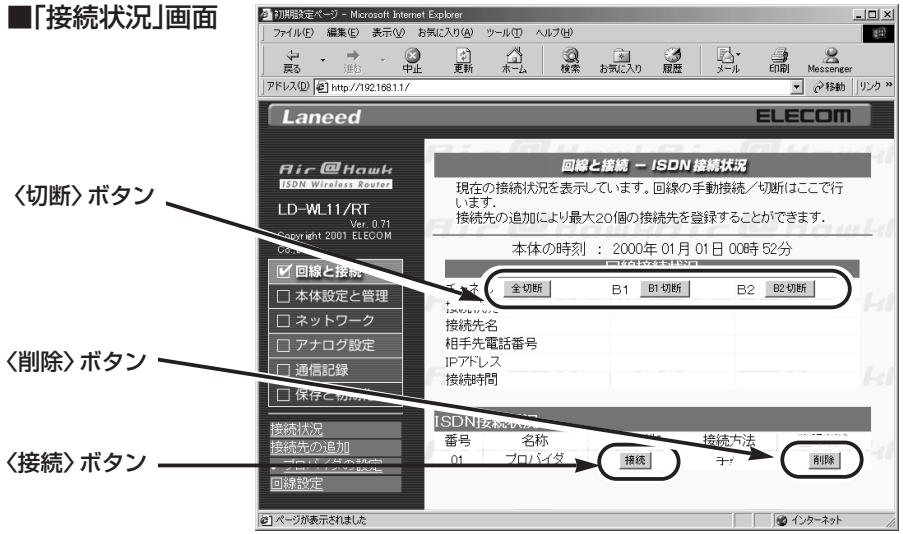


〈登録〉/〈取消〉ボタン…　設定内容の登録または取消のとき、クリックします。

〈メニュー〉ボタン……　使用目的に該当するボタンをクリックすると、画面の右側にそのメニューの先頭画面を表示します。

画面名称……　各メニューごとに用意された画面の名称を表示します。「画面名称」をクリックして、その画面に切り替えます。

■「接続状況」画面



〈切断〉ボタン……　ダイヤルアップで接続時、強制的に通信回線を切断します。
※通話(アナログ)回線は、このボタンで切断されません。

〈削除〉ボタン……　この行に登録された接続先を削除します。

〈接続〉ボタン……　この行に登録された接続先への回線を手動で接続します。

【ご参考：設定画面内のテキスト入力ボックスについて】
ネットワークメニューにある「本体名称」の項目を除いては、各項目のテキストボックスに入力できる文字に入力制限はありませんが、入力できる最大文字数などは各項目で制限がありますので、これらの詳細については、取扱説明書[応用編]でご確認ください。

■各〈メニュー〉ボタンについて

〈回線と接続〉ボタン…… 使用回線の選択、接続先および着信の登録、回線の接続と切断、接続状況の表示などが行えます。

〈本体設定と管理〉ボタン 本製品の管理者ID、着信メール、時計、SYSLOG設定などが行えます。

〈ネットワーク〉ボタン… 本体の名称やIPアドレス、DHCPサーバ、無線LAN、簡易DNSサーバ、IPフィルタ、RIP、ルーティングなどの設定が行えます。

〈アナログ設定〉ボタン… 内線通話、フレックスホン、短縮ダイヤル、グローバル着信、セレクト着信など、[TEL1]/[TEL2]ポートに接続するアナログ電話機やファクシミリについての設定が行えます。

〈通信記録〉ボタン…… 接続先と回線を接続および切断したときの履歴と、料金、回数、時間を通信接続先および各アナログポートごとに表示します。

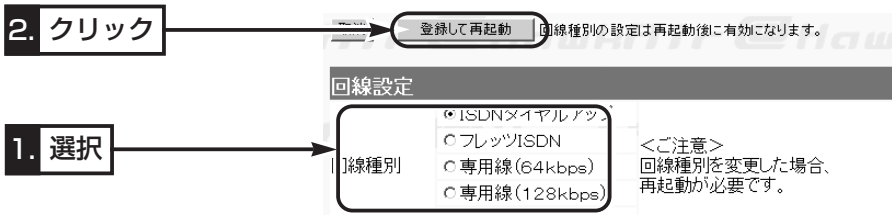
〈保存と初期化〉ボタン… 本製品の設定内容の保存および初期化が行えます。

■回線種別を変更するときは

出荷時の状態では、「ISDNダイヤルアップ」が登録されています。
登録する接続先の回線が出荷時の設定と違うときは、次の手順で最初に変更してください。変更したら必ず本製品を再起動してから、接続先の情報を登録してください。

〈変更する〉

1.WWWブラウザを起動して、「回線設定」画面を表示させます。
2.「回線種別」の中から、接続先に該当する回線のラジオボタンをクリックします。
3.〈登録して再起動〉をクリックします。
- 再起動後、設定した回線の接続先が登録できる状態になります。



6-3 本製品の時計を設定する

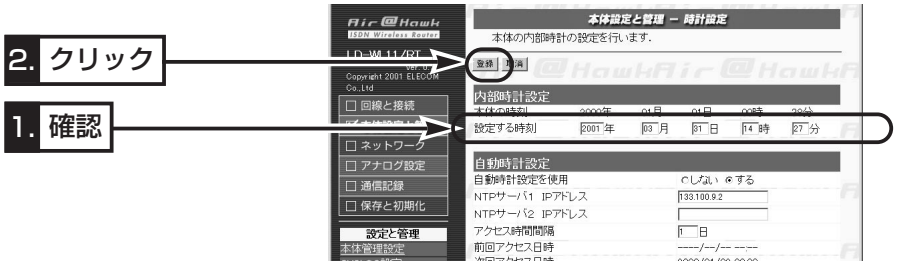
設定画面から、本製品の内部時計の時刻を設定します。
設定を行わないと、通信記録表示、自動接続可能な時間帯、自動切断でタイマーを使う時間帯などの制限を設定しても正しく動作させることができませんので、なるべく最初に設定を行っておくことをお勧めします。

〈設定のしかた〉

1.WWWブラウザを起動します。
- 先頭画面を表示します。

2.メニューから〈本体設定と管理〉→「時計設定」の順番にクリックします。
- 「時計設定」画面を表示します。

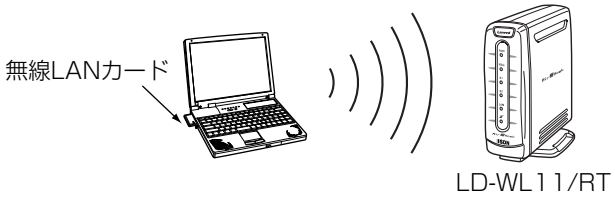
3.内部時計設定の「設定する時刻」欄に、パソコンから自動取得した時刻が設定されているのを確認して、〈登録〉をクリックします。



【⚠注意】
本製品の電源を切ると、時計の設定が出荷時の状態に戻ります。
全設定の初期化、停電や不慮の事故で電源が一時的にでも切れたときは、再設定が必要です。

6-4 無線LANを設定する

パソコン(PC/AT互換機)を無線LAN(無線アクセスポイント)で接続する場合の設定です。ここでは、最低限必要と思われる項目について説明します。それ以外の設定項目については、出荷時の状態でご使用になることを前提として説明しています。
さらに詳しく設定を行う場合は、「アクセスポイント機能を使う」(☞8-1章)、または取扱説明書[応用編]をご覧ください。
出荷時の設定値で無線LANを使うときは、パソコン側の設定値を本製品と同じに変更してください。
パソコンの設定については、「パソコンを無線LANでつなぐには」(☞3-2章)をご覧ください。



【基本無線項目】 **【出荷時の設定値】**

ESS ID …… 半角英文字で「Laneed」(入力値は、すべて[*]で表示します。)
ESS IDの確認入力 …… 半角英文字で「Laneed」(入力値は、すべて[*]で表示します。)
チャンネル …… 6(パソコン側の設定は不要です。)

※大文字と小文字は区別されます。

【基本無線項目について】

ESS ID

無線LAN識別用の名前を任意に設定します。
無線伝送可能エリア内に、無線ワークグループを複数構成していて、ネットワーク情報を他の無線ワークグループから見られたくないとき変更します。また、無線LANへの不正なアクセスを防止するときなどにも使用します。

チャンネル

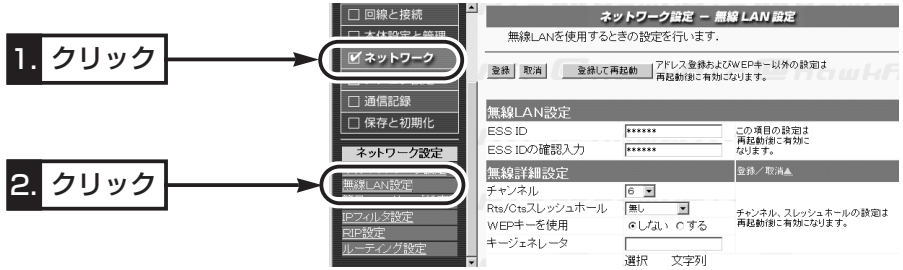
パソコンと本製品が無線通信に使うチャンネルです。
パソコン側は、本製品で設定したチャンネルを自動的に検知して通信します。
ローミング機能(☞8-2章)や無線アクセスポイントと通信する無線ネットワークグループが複数あるときなど、互いの無線アクセスポイント(本製品)から電波が受信できる無線伝送可能エリア内において、相手側の無線アクセスポイントのチャンネルから4つ以上飛ばして設定することで、電波干渉を完全に避けることができます。

【⚠注意】
Macintoshへの無線接続には、対応していません。
無線接続は、先に本製品の電源が入った状態で行ってください。

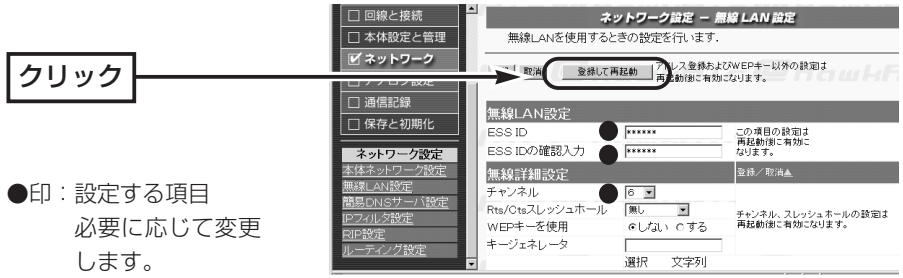
〈設定する〉

1.WWWブラウザを起動します。
- 先頭画面を表示します。

2.メニューから〈ネットワーク〉→「無線LAN設定」の順番にクリックします。
- 「無線LAN設定」画面を表示します。



3.設定項目を変更したときは、〈登録して再起動〉をクリックします。
- 設定した内容が有効になります。

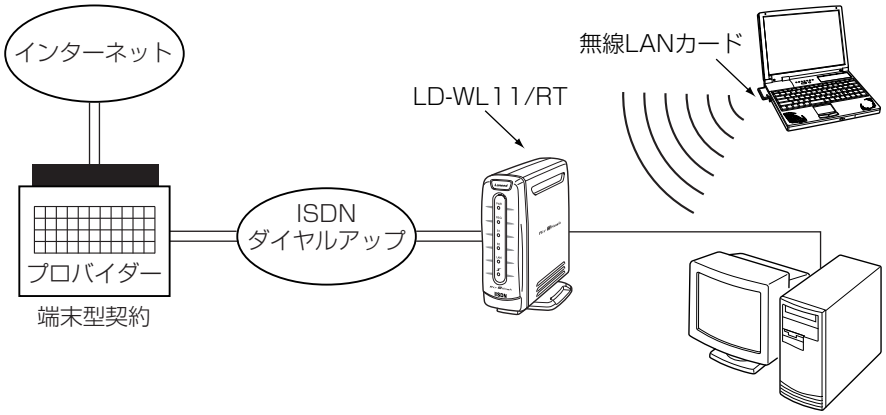


●印：設定する項目
必要に応じて変更します。

6

6-5　ISDN回線でインターネットに端末型接続する

図のようなネットワーク形態でインターネットに接続する場合の設定例です。
ここでは、最低限必要と思われる項目について説明します。それ以外の設定項目については、出荷時の状態でご使用になることを前提として説明しています。
さらに詳しく設定を行う場合は、取扱説明書[応用編]をご覧ください。



【プロバイダーから指示された情報】
接続先電話番号：12-3456-7890
ユーザー認証ID：user
ユーザー認証パスワード：userpass
DNSアドレス：192.169.100.10(プライマリ)
　　192.169.101.15(セカンダリ)
※この情報は説明用の例です。実際にはプロバイダーより提供された情報を入力してください。
※DNSアドレスの指定がないときは、ご契約のプロバイダーが、IPCP(DNSアドレス送信)に対応している場合、この項目の設定は不要です。
※本製品のIPアドレスとサブネットマスクは、出荷時の状態とします。

【⚠注意】
本製品は、Ethernetポート、USBポート、無線アクセスポイントに接続したパソコンからの要求によって、自動的にダイヤルして回線を接続する機能を備えています。そのため、ご使用になられる機器、ソフトウェア、またはLANの利用状況により、不要なダイヤル発信が行われ回線が接続されて、知らないうちに長時間の接続となって、多額の通信料金となってしまうおそれがありますので、「通信記録」画面で、課金情報を定期的に確認することをおすすめします。なお、表示される累積情報は、あくまでも目安としてご覧ください。
NTTとの契約内容によっては、実際にから請求される回線使用料金とは異なる場合があります。

〈設定する〉

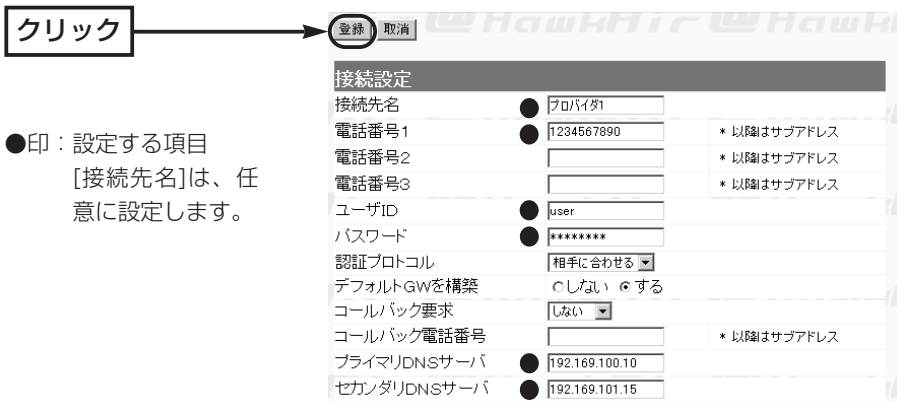
1.設定画面から〈回線と接続〉→「回線設定」の順番にクリックします。

2.[ISDNダイヤルアップ]のラジオボタンをクリックして、〈登録して再起動〉をクリックします。
- 再起動後、設定した回線の接続先が登録できる状態になります。

3.〈回線と接続〉→「接続先の追加」の順番にクリックします。

6-5 ISDN回線でインターネットに端末型接続する
〈設定する〉(つづき)

4.プロバイダーから指示された情報を入力して、〈登録〉をクリックします。

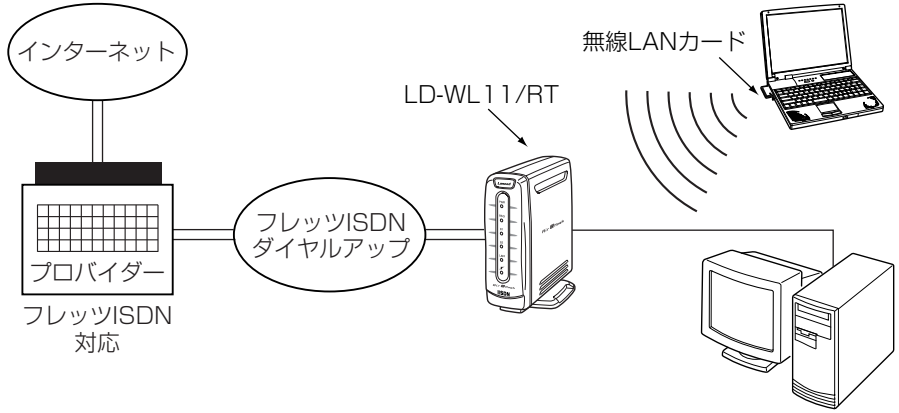


●印：設定する項目
[接続先名]は、任意に設定します。

5.〈回線と接続〉をクリックして、登録を確認します。
●設定した接続先への接続状況を表示する画面が表示されます。

6-6　フレッツISDNでプロバイダーと接続する

フレッツISDNの契約をNTTおよび対応するプロバイダーで行っている場合、本製品でそのサービスを利用するための設定例です。ここでは、最低限必要と思われる項目について説明します。それ以外の設定項目については、出荷時の状態でご使用になることを前提として説明しています。さらに詳しく設定を行う場合は、取扱説明書[応用編]をご覧ください。



【プロバイダーから指示された情報】
接続先電話番号：12-3456-7890
(フレッツISDNで接続するときは、NTTから指示された電話番号を使います。)
ユーザー認証ID：user
ユーザー認証パスワード：userpass
DNSアドレス：192.169.100.10(プライマリ)
192.169.101.15(セカンダリ)
※この情報は説明用の例です。実際にはプロバイダーより提供された情報を入力してください。
※本製品のIPアドレスとサブネットマスクは、出荷時の状態とします。
【NTTから指示された情報】
接続先電話番号：99-9999-9999(フレッツISDNで接続するとき設定します。)

【⚠注意】
フレッツISDNの契約をしていない場合、または契約を済ませたが切り替え工事が終わっていない場合は、この設定をしないでください。
この設定をこの行うと、回線自動切断機能の設定が無効に変更されますので、Ethernetポート、USBポート、無線アクセスポイントに接続したパソコンからの要求によって、自動的にダイヤルして回線を接続されたあと、自動切断が行われません。そのため、知らないうちに長時間の接続となって、多額の通信料金となってしまうおそれがありますのでご注意ください。

【ご参考に】
フレッツISDNは、MP(Multilink PPP)に対応していません。また、通信速度は64kbps固定になります。

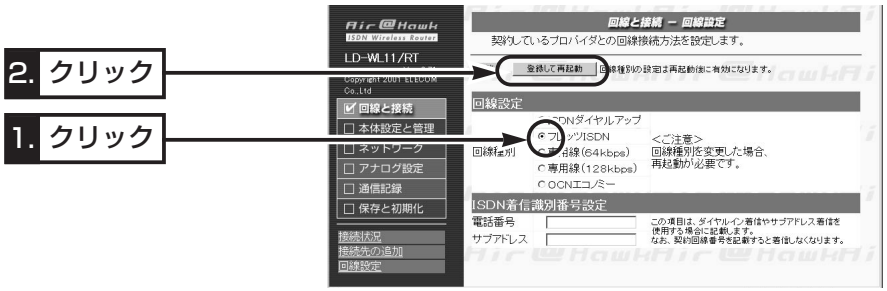
6-6 フレッツISDNでプロバイダーと接続する(つづき)

〈設定する〉

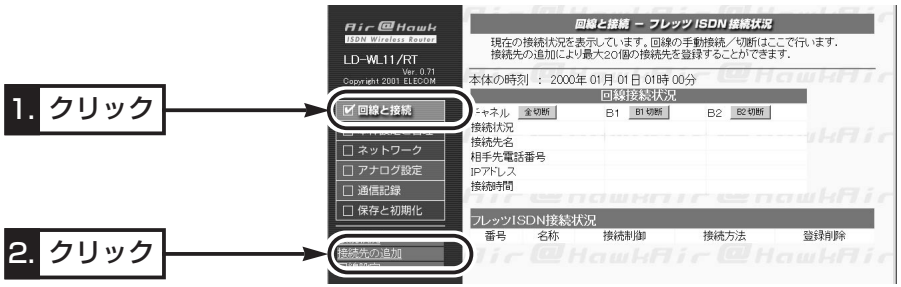
1.設定画面から〈回線と接続〉→「回線設定」の順番にクリックします。

2.[フレッツISDN]のラジオボタンをクリックして、〈登録して再起動〉をクリックします。

- 再起動後、設定した回線の接続先が登録できる状態になります。

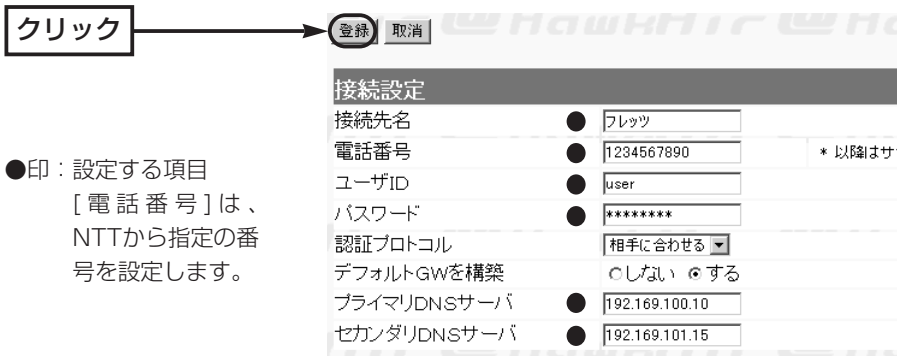


3.〈回線と接続〉→「接続先の追加」の順番にクリックします。



〈設定する〉(つづき)

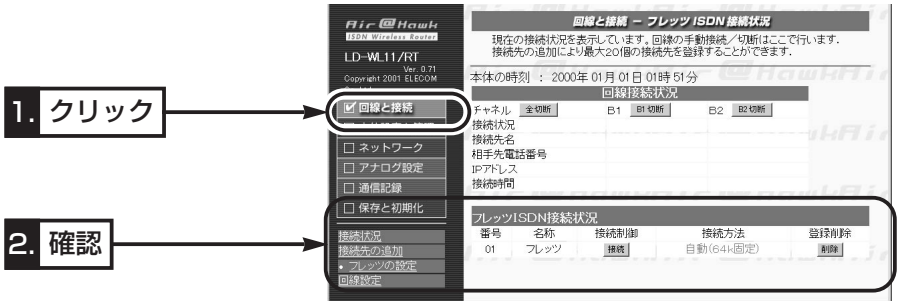
4.相手先の事業所へ接続するための情報を入力して、〈登録〉をクリックします。



●印：設定する項目
[電話番号]は、NTTから指定の番号を設定します。

5.〈回線と接続〉をクリックして、登録を確認します。

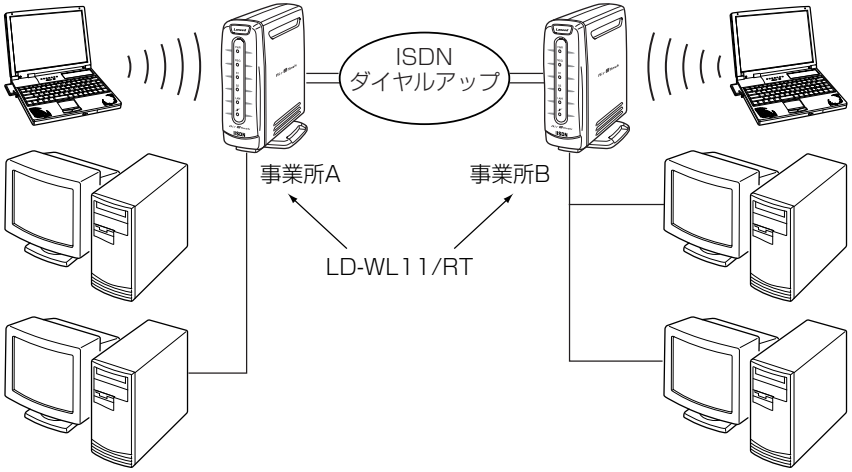
- 設定した接続先への接続状況を表示する画面が表示されます。



6

6-7　ISDN回線でネットワークにLAN間接続する

ISDN回線を介して2つの事業所のネットワークを接続する場合の設定例です。
ここでは、最低限必要と思われる項目について説明します。それ以外の設定項目については、出荷時の状態でご使用になることを前提として説明しています。
さらに詳しく設定を行う場合は、取扱説明書[応用編]をご覧ください。



【事業所Aの情報】
契約電話番号：12-3456-7890
ネットワークアドレス：192.168.1.0
サブネットマスク：255.255.255.0
ルータのIPアドレス：192.168.1.1
ユーザー認証ID：userA
ユーザー認証パスワード：userpassA
着信を許可する
DHCPサーバ機能を使う
※事業所AのIPアドレスとサブネットマスクは、出荷時の状態とします。

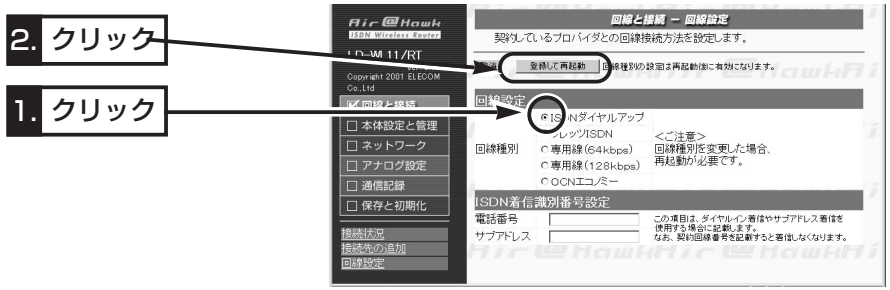
【事業所Bの情報】
契約電話番号：2-3456-78901
ネットワークアドレス：192.168.2.0
サブネットマスク：255.255.255.0
ルータのIPアドレス：192.168.2.1
ユーザー認証ID：userB
ユーザー認証パスワード：userpassB
着信を許可する
DHCPサーバ機能を使う
※事業所BのIPアドレスとサブネットマスクは、変更するとします。

※この情報は説明用の例です。実際にはプロバイダーより提供された情報を入力してください。

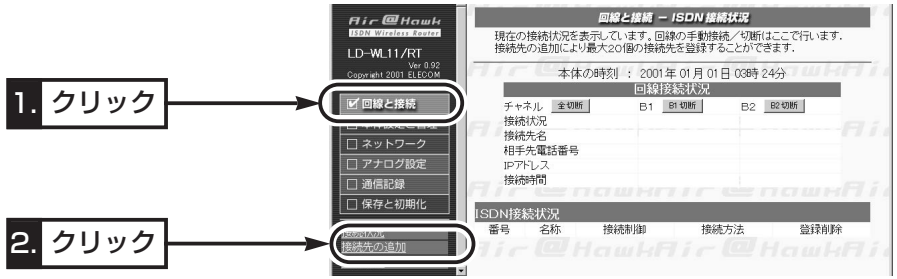
【⚠注意】
本製品は、Ethernetポート、USBポート、無線アクセスポイントに接続したパソコンからの要求によって、自動的にダイヤルして回線を接続する機能を備えています。そのため、ご使用になられる機器、ソフトウェア、またはLANの利用状況により、不要なダイヤル発信が行われ回線が接続されて、知らないうちに長時間の接続となって、多額の通信料金となってしまうおそれがありますので、「通信記録」画面で、課金情報を定期的に確認することをおすすめします。なお、表示される累積情報は、あくまでも目安としてご覧ください。
NTTとの契約内容によっては、実際にから請求される回線使用料金とは異なる場合があります。

〈設定する〉
1.設定画面から〈回線と接続〉→「回線設定」の順番にクリックします。

2.[ISDNダイヤルアップ]のラジオボタンをクリックして、〈登録して再起動〉をクリックします。
●再起動後、設定した回線の接続先が登録できる状態になります。



3.〈回線と接続〉→「接続先の追加」の順番にクリックします。



6-7 ISDN回線でネットワークにLAN間接続する
〈設定する〉(つづき)

4.相手先の事業所へ接続するための情報を入力して、〈登録〉をクリックします。

クリック → 登録 取消

事業所A側

●印：設定する項目
[接続先名]は、任意に設定します。

接続設定		
接続先名	事業所B	
電話番号1	2345687901	＊以降はサブアドレス
電話番号2		＊以降はサブアドレス
電話番号3		＊以降はサブアドレス
ユーザID	userB	
パスワード	********	
認証プロトコル	相手に合わせる	
デフォルトGWを構築	●しない ○する	
コールバック要求	しない	
コールバック電話番号		＊以降はサブアドレス
プライマリDNSサーバ		
セカンダリDNSサーバ		

クリック → 登録 取消

事業所B側

●印：設定する項目
[接続先名]は、任意に設定します。

接続設定		
接続先名	事業所A	
電話番号1	1234568790	＊以降はサブアドレス
電話番号2		＊以降はサブアドレス
電話番号3		＊以降はサブアドレス
ユーザID	userA	
パスワード	********	
認証プロトコル	相手に合わせる	
デフォルトGWを構築	●しない ○する	
コールバック要求	しない	
コールバック電話番号		＊以降はサブアドレス
プライマリDNSサーバ		
セカンダリDNSサーバ		

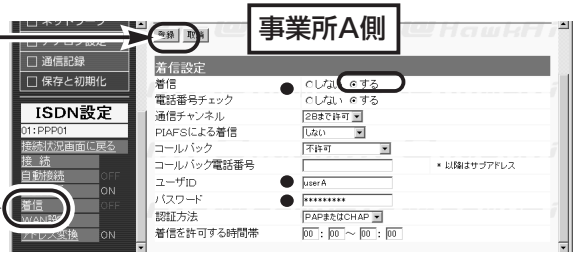
5.「着信」をクリックして、[着信]設定画面から互いの事業所間で着信できるように情報を入力して、〈登録〉をクリックします。

2. クリック

●印：設定する項目

1. クリック

事業所A側



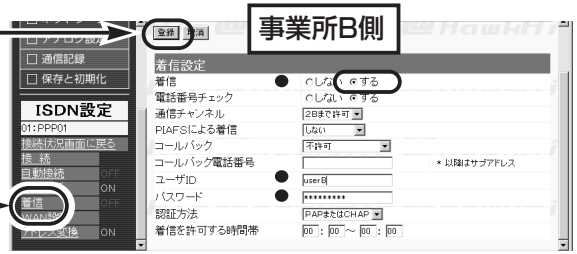
6-7 ISDN回線でネットワークにLAN間接続する
〈設定する〉(つづき)

2. クリック

事業所B側

●印：設定する項目

1. クリック

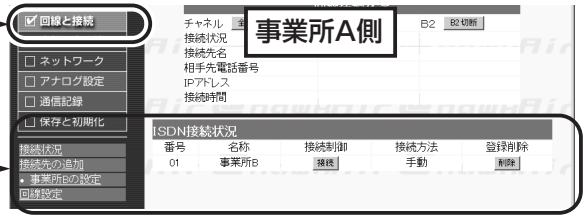


6.〈回線と接続〉をクリックして、登録を確認します。
●設定した接続先への接続状況を表示する画面が表示されます。

1. クリック

2. 確認

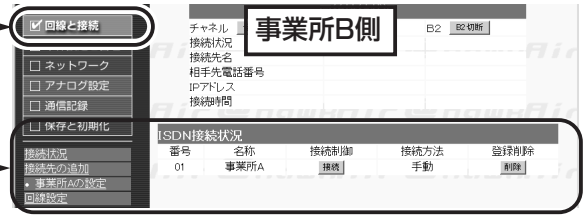
事業所A側



1. クリック

2. 確認

事業所B側



7.事業所B側の本製品について、IPアドレスを「192.168.2.1」、自動割り当て開始IPアドレスを「192.168.2.10」に変更します。
出荷時の設定では、事業所Aと事業所B間でIPアドレスが重複して通信できません。「本体IPアドレスを変更するには」(☞6-8章)と「自動割り当て開始IPアドレスを変更するには」(☞6-9章)を参考に、設定を変更してください。

6-8　本体IPアドレスを変更するには

既存のLANに接続したり、本製品を使って事業所間をLANでつなぐ場合、本製品を出荷時の状態で使うと、既存のネットワーク機器に割り当てられているIPアドレスと重複する可能性があります。ここでは、本製品のIPアドレスを変更する手順について説明します。

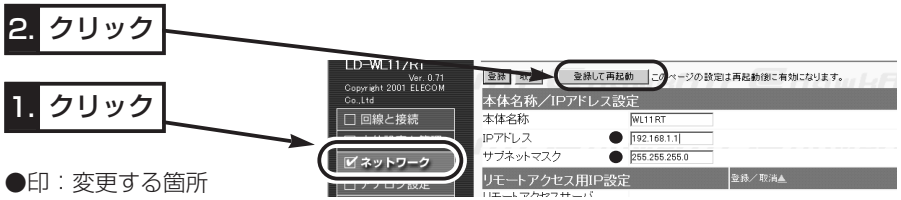
※IPアドレスの「ネットワーク部」を変更するときは、「自動割り当て開始IPアドレスを変更する」(☞6-9章)を参考に、自動割り当て開始IPアドレスの「ネットワーク部」も併せて変更する必要があります。

〈変更のしかた〉

1.設定画面から〈ネットワーク〉をクリックします。
- 「本体ネットワーク設定」画面を表示します。

2.次の画面で、本製品のIPアドレスを変更します。
接続するほかのネットワークと「ネットワーク部」が重複しないように設定してください。

3.〈登録して再起動〉をクリックすると、「IPアドレスが変更されました。コンピューターの設定を変更してください。」と表示されます。
- 設定した内容が有効になります。



●印：変更する箇所

4.本製品のDHCPサーバ機能を使っている場合は、「winipcfg.exe」(☞4-3章)を使ってIPアドレスを取り直すか、パソコンを再起動してください。また、手動でパソコンにIPアドレスを割り当てている場合は、パソコンのネットワーク部のIPアドレスを本製品と同じに変更してください。

【IPアドレスの割り当てかた】

IPアドレスは、「ネットワーク部」と「ホスト部」の2つの要素から成り立っています。
出荷時の本製品のIPアドレス「192.168.1.1」(クラスC)を例とすると、最初の「192.168.1.」までが「ネットワーク部」で、残りの「1」を「ホスト部」といいます。
「ネットワーク部」が同じIPアドレスを持つネットワーク機器(パソコンなど)は、同じネットワーク上にあると認識されます。
さらに「ホスト部」によって同じネットワーク上にある各ネットワーク機器を識別しています。
以上のことから、IPアドレスを割り当てるときは、次のことに注意してください。
- 同じネットワークに含めたいネットワーク機器に対しては、「ネットワーク部」をすべて同じにする
- 同じネットワーク上の機器に対して、「ホスト部」を重複させない
- ネットワークアドレス(ホスト部の先頭および「0」)を割り当てない
- ブロードキャストアドレス(ホスト部の末尾および「255」)を割り当てない

6-9　自動割り当て開始IPアドレスを変更するには

本製品のDHCPサーバ機能を使うときなど、本製品のIPアドレスの「ネットワーク部」を変更しているときは、自動割り当て開始IPアドレスの「ネットワーク部」も併せて変更する必要があります。
ここでは、自動割り当て開始IPアドレスを変更する手順について説明します。

〈変更のしかた〉

1.設定画面から〈ネットワーク〉をクリックします。
- 「本体ネットワーク設定」画面を表示します。

2.次の画面で、自動割り当て開始IPアドレスを変更します。
自動割り当て開始IPアドレスは、本製品のIPアドレスのネットワーク部と同じになるように設定してください。

●印：変更する箇所

3.〈登録して再起動〉をクリックすると、「IPアドレスが変更されました。　の設定を変更してください。」と表示されます。
- 設定した内容が有効になります。

【DHCPサーバ機能について】

本製品のDHCPサーバ機能を有効(出荷時の設定)すると、パソコンが本製品に接続したときに、本製品からIPアドレスを自動的に取得することができます。
本製品を既存のLANにつなぐ場合、本製品が自動で割り当てるIPアドレスの範囲が、既存のネットワーク機器(パソコンなど)の固定で割り当てたIPアドレスと重複しないように設定してください。

【自動割り当て個数について】

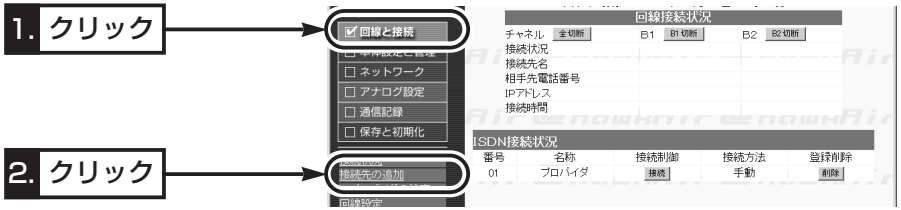
本製品が自動で割り当てできるIPアドレスの個数は、5～128個(無線LANを含む)までです。
出荷時の割り当て開始IPアドレスとサブネットマスクの設定値の場合、理論上割り当て可能なIPアドレスの個数は、最大254個までですが、128個を超える分については、手動でクライアントに割り当ててください。

6-10　接続先を複数登録するには

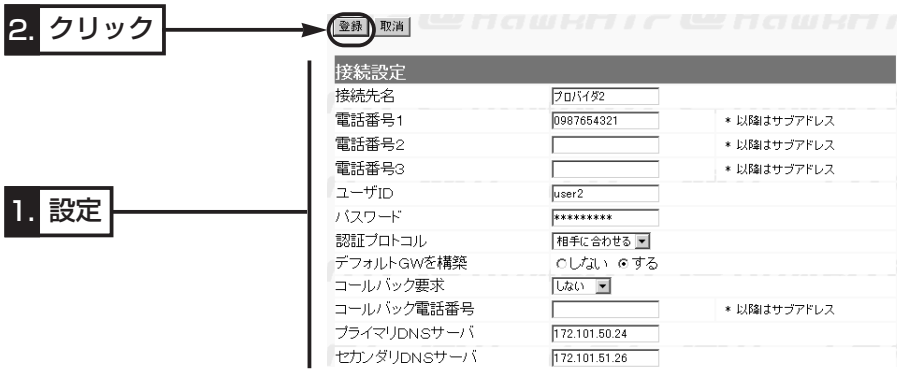
回線ごとに、複数の接続先を登録しておくことができます。
登録件数は、全部で23件(ISDN：20件　専用線：各1件、OCNエコノミー：1件)です。
※異なる回線への接続先を登録するのときは、「回線設定」画面で回線種別を変更してから、次の手順で登録先を追加してください。

〈登録のしかた〉

1.設定画面から〈回線と接続〉→「接続先の追加」の順番にクリックします。

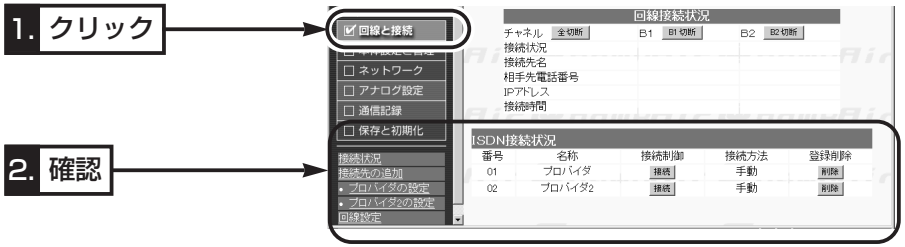


2.[接続設定]画面で内容を設定したあと、〈登録〉をクリックします。



3.〈回線と接続〉をクリックして、登録を確認します。

●追加した接続先への接続状況を表示する画面が表示されます。



インターネットにつなぐ

この章では、
本製品に登録した接続先へダイヤルアップしてインターネットにつなぐ方法と、その接続先について通信料金情報を確認する方法について説明します。

7-1.インターネット接続を開始する ……82
■手動で接続する ……82
■自動で接続する ……83
7-2.インターネット接続を終了する ……84
■自動で切断する ……84
■手動で切断する ……85
7-3.ISDN回線の課金情報を見るには……86
■意図しない課金が発生する原因について ……86

7-1　インターネット接続を開始する

本製品(ダイヤルアップルータ)は、ネットワーク内の情報を監視して、インターネットへのアクセス要求があると自動的に接続する機能を備えています。
出荷時の状態(フレッツISDN接続時を除く)から[自動接続]の設定を「する」に変更すると、パソコンからホームページやメールを見る操作を行うだけで、自動的にインターネットの自動接続が行われます。また、[自動接続]の設定は、実際に使う接続先に対して有効になります。

【⚠注意】
[自動接続]や[自動切断]の設定を出荷時の状態から変更したときは、ご使用になられる機器、ソフトウェア、またはLANの利用状況により、不要なダイヤル発信が行われ回線が接続されて、知らないうちに長時間の接続となって、多額の通信料金となってしまうおそれがありますので、「通信記録」画面で、課金情報を定期的に確認することをおすすめします。なお、表示される累積情報は、あくまでも目安としてご覧ください。
NTTとの契約内容によっては、実際に請求される回線使用料金とは異なる場合があります。
また、本製品は、フレッツISDN(通信料定額制)への接続設定を行った場合、自動的に[自動接続]と[自動切断]の設定を変更します。意図しない自動接続により回線が長時間接続された状態になって、ご契約のプロバイダーによっては多額の接続料金を請求されることがありますので、「通信記録」画面で、合計接続時間表示を定期的に確認することをおすすめします。なお、表示される時間情報は、あくまでも目安としてご覧ください。
接続料金については、ご契約のプロバイダーにご確認ください。

■手動で接続する

[自動接続]の設定が「しない」(出荷時の設定)のときは、次の手順で接続を行います。

※接続先がフレッツISDNの場合は、接続先を登録した時点で[自動接続]の設定が自動で「する」に変更されますので、「■自動で接続する」を参考に、必要に応じて[自動接続]の設定を「しない」に変更すると、次の手順で手動接続が行えます。

〈接続のしかた〉

1.本製品の設定画面から、ダイヤルアップ回線に登録された接続先の「接続状況」画面を開きます。

2.登録した接続先の欄に表示された〈接続〉をクリックします。

- 前面パネルの[B1]または[B2]ランプが点灯して、[接続状況]欄(下記画面の上部)にそのときの状態が表示されます。

3.WWWブラウザを起動して、お好きなURLをアドレスバーに入力します。

- 通信中は、手順2.で点灯しているランプが点滅に替わります。

4.アドレスバーに入力したURLのホームページが表示されたことを確認します。

- 手順3.で点滅しているランプが点灯に替わります。

■自動で接続する

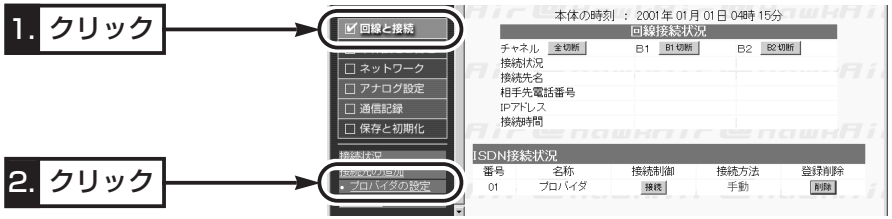
次の手順で[自動接続]の設定を「する」に変更すると、パソコンからホームページやメールを見る操作を行うだけで、自動的にインターネットの自動接続が行われますので、接続の操作は必要ありません。

※接続先がフレッツISDNの場合は、接続先を登録した時点で[自動接続]の設定が自動で「する」に変更されますので、[自動接続]の設定を変更する必要はありません。

◆[自動接続]設定を「する」に変更するには◆

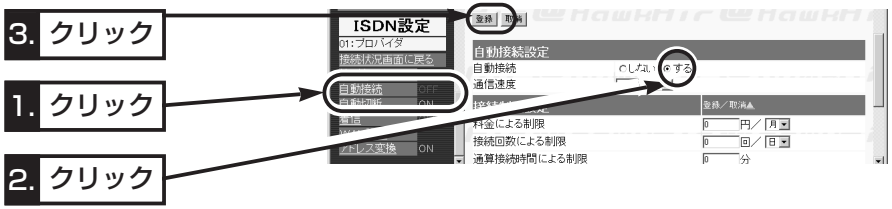
〈変更のしかた〉

1.左フレームから、〈回線と接続〉→[接続先名]表示の順番にクリックします。



2.左フレームから、[自動接続]をクリックします。
右フレームから、[自動接続]欄の「する」のラジオボタンをクリックして、〈登録〉をクリックします。

- 左フレームの[自動接続]が「ON」表示に替わります。



3.〈回線と接続〉をクリックして、内容が変更されているのを確認します。

- 設定が変更されていれば、「自動(64K可変)」を表示します。

【ご参考に】
複数の接続先を登録している場合、自動接続が有効になるのは実際に使うISDN回線への接続先だけです。
自動接続先を変更した時点で、以前の接続先への設定は手動接続になります。

7-2　インターネット接続を終了する

本製品(ダイヤルアップルータ)は、ネットワーク内からインターネットへ接続されているとき、新たにアクセス要求をしない状態が続くと、自動的に切断する機能を備えています。

出荷時の状態(フレッツISDN接続時を除く)では、タイマーの設定値(工場出荷時：150秒)にしたがって自動切断が行われます。また、[自動切断]の設定は、登録された接続先ごとに変更できます。

【⚠注意】

[自動接続]や[自動切断]の設定を出荷時の状態から変更したときは、ご使用になられる機器、ソフトウェア、またはLANの利用状況により、不要なダイヤル発信が行われ回線が接続されて、知らないうちに長時間の接続となって、多額の通信料金となってしまうおそれがありますので、「通信記録」画面で、課金情報を定期的に確認することをおすすめします。なお、表示される累積情報は、あくまでも目安としてご覧ください。

NTTとの契約内容によっては、実際に請求される回線使用料金とは異なる場合があります。

また、本製品は、フレッツISDN(通信料定額制)への接続設定を行った場合、自動的に[自動接続]と[自動切断]の設定を変更します。意図しない自動接続により回線が長時間接続された状態になって、ご契約のプロバイダーによっては多額の接続料金を請求されることがありますので、「通信記録」画面で、合計接続時間表示を定期的に確認することをおすすめします。なお、表示される時間情報は、あくまでも目安としてご覧ください。

接続料金については、ご契約のプロバイダーにご確認ください。

■自動で切断する

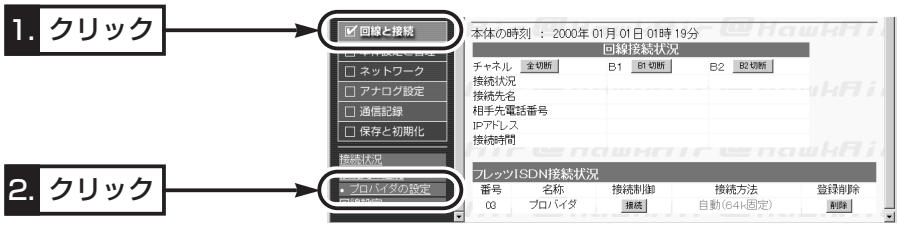
[自動切断]の設定が「する」(出荷時の設定)のときは、ブラウザによるアクセスやメールソフトでの送受信操作を行わない状態が150秒(タイマ1：出荷時の状態)以上続くと、自動的に切断しますので、切断の操作は必要ありません。

※接続先がフレッツISDNの場合は、接続先を登録した時点で[自動切断]の設定が自動で「しない」に変更されますので、必要に応じて次の手順を参考に[自動切断]の設定を「する」に変更してください。

◆[自動切断]設定を「する」に変更するには◆

〈変更のしかた〉

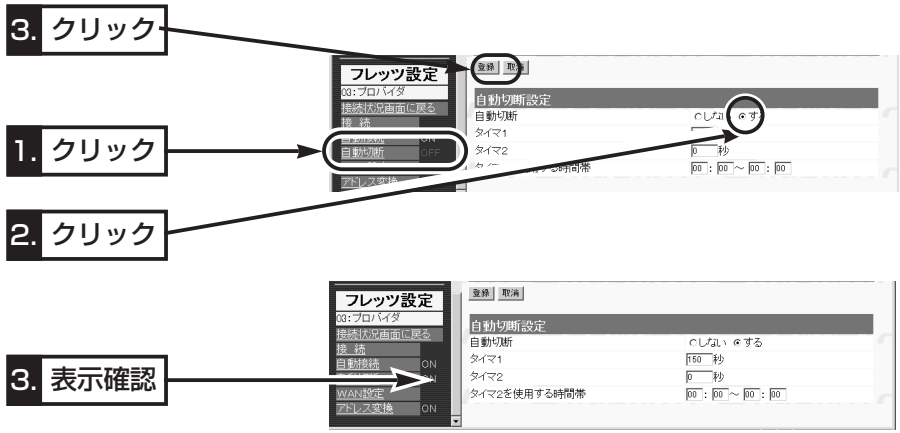
1.左フレームから、〈回線と接続〉→[接続先名]表示の順番にクリックします。



2.左フレームから、[自動切断]をクリックします。

右フレームから、[自動切断]欄の「する」のラジオボタンをクリックして、〈登録〉をクリックします。また、切断するまでの時間を変更するときは、[タイマ1]欄の設定を「0～65535」秒のあいだで変更してください。

●左フレームの[自動切断]が「ON」表示に替わります。



■手動で切断する

[自動切断]の設定が「しない」のときは、ブラウザによるアクセスやメールソフトでの送受信操作を行わない状態が続いても、切断操作が行われるまで自動的に回線を切断しません。

手動切断でご使用になるときは、「通信記録」画面で、課金情報を定期的に確認することをおすすめします。

※接続先がISDNダイヤルアップの場合は、出荷時の[自動切断]が「する」に設定更されていますので、「◆[自動切断]設定を「する」に変更するには◆」を参考に、必要に応じて[自動切断]の設定を「しない」に変更してください。

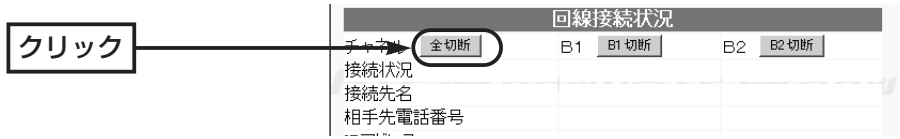
回線を切断するときは、次の手順で行います。

〈切断のしかた〉

1.本製品の設定画面から、ISDNダイヤルアップ回線に登録された接続先の「接続状況」画面を開きます。

2.「接続状況」画面に表示された〈全切断〉をクリックします。

●切断されると、前面パネルの[B1]と[B2]ランプが消灯します。



7-3　ISDN回線の課金情報を見るには

ISDNダイヤルアップ接続のとき、回線への接続状況を確認する手順について説明します。

〈情報の見かた〉

1.本製品の設定画面から、ISDNダイヤルアップ回線の「接続状況」画面を開きます。

2.左フレームから、〈通信記録〉→「ISDN累積情報」の順番にクリックします。

- 「ISDN累積情報」画面を表示します。

〈課金情報を消去するときは？〉

「ISDN累積情報初期化」から、接続先名と消去したい項目を選んで、〈リセット〉をクリックしてください。

■意図しない課金が発生する原因について

設定やシステムを変更したときは、知らないうちに自動発信を繰り返して、多額の通話料金になることがあります。

次のような場合は十分注意してください。

◎本機のプロバイダー接続設定を変更したとき

◎ルータとTA間の接続でパソコンのダイヤルアップネットワークの設定を変更したとき

◎MP接続に対応しないプロバイダーに対して、MP接続を設定したとき

◎無線LANの設定を変更したとき

◎ネットワークに新しいパソコンやネットワーク機器、周辺機器などを接続したとき

◎インストールしているソフトウェアに自動アップデートの機能が設定されているとき

◎メールソフトに自動送受信の機能が設定されているとき

◎メールソフトに新着メールを定期的にチェックするように設定しているとき

◎ホームページ上にバナー広告が表示されているとき

【料金合計の表示について】

料金合計は、NTTから通知される通信料金(通話料金を除く)を累積して表示しています。

NTTの割引サービスやNTT以外の回線業者の料金は反映されませんので、NTTとの契約内容によっては、実際に請求される通信料金とは異なる場合があります。

表示される通信料金合計は、あくまでも目安としてご覧ください。

アナログポート([TEL1]、[TEL2]ポート)に接続する電話機の通話料金は、「アナログ通信累積」画面(☞9-9章)に表示されます。

第8章

無線LANを構築する

この章では、

PC/AT互換機で無線LANを構築する際に知っておいていただきたい機能について説明します。また、そのLANを構築する際の手順についても説明しています。

無線LANの接続形態に応じて、次の箇所をお読みください。

●本製品を1台で使う→「8-1 アクセスポイント機能を使う」

●本製品を複数台で使う→「8-2 ローミング機能を使う」

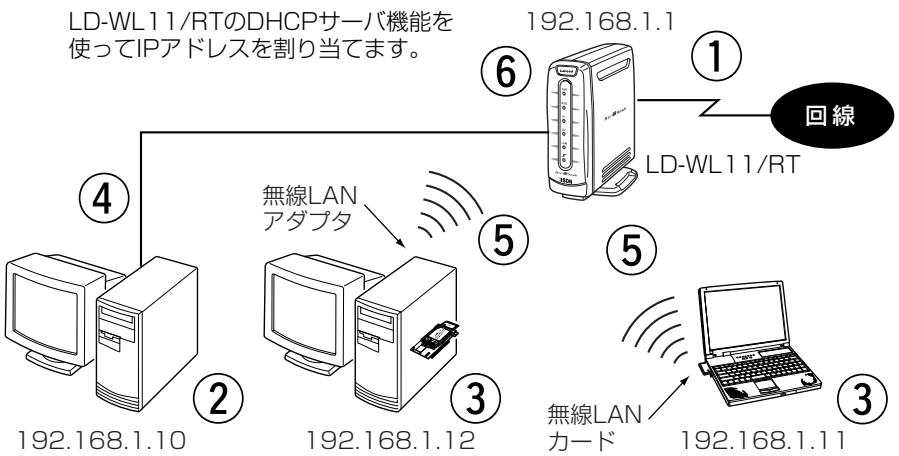
8-1.アクセスポイント機能を使う ……88
8-2.ローミング機能を使う ……89

8-1　アクセスポイント機能を使う

本製品に内蔵の無線アクセスポイントを使うことによって、本製品を経由して無線LANどうしのデータをやりとりしたり、本製品の[ETHERNET]ポートと既存の有線LANをEthernetケーブルでつなぐことによって、無線LANと有線LANのデーターを自由にやりとりしたり、無線端末を使って、回線に接続された本製品を中継してインターネットに接続できます。

※本製品の無線LANに多くのパソコンが同時にアクセスすると、通信速度が著しく低下することがあります。
同時に使える無線端末の数は、最大64台までですが、10台以下とすることをお勧めします。

※[WEP]機能を使って本製品と無線通信するには、弊社製の無線LANカードが必要です。

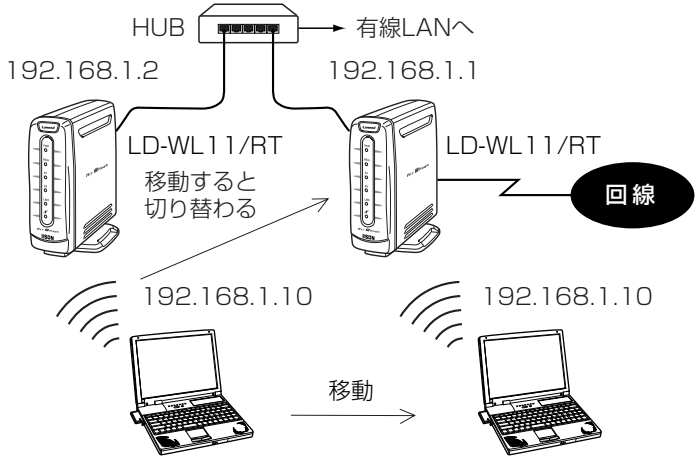


図に示す番号は、LANを構築するときの手順です。
本書の該当する部分をご覧になりながら、順番に設定をしてください。

Step ① 2章　：本製品と回線をつなぐ
Step ② 3-1章：パソコンをEthernetでつなぐには
Step ③ 3-3章：パソコンを無線LANでつなぐには
Step ④ 4-1章：新規にLANを構築する(■Ethernetを使ってつなぐ)
Step ⑤ 4-1章：新規にLANを構築する(■無線LANを使ってつなぐ)
Step ⑥ 5章　：簡単設定ソフトで設定する
　　6-4章：無線LANを設定する

8-2　ローミング機能を使う

本製品を2台以上用意して、それぞれを有線LANに接続することにより、無線端末を移動させても、自動的に電波の状況のよいアクセスポイント(本製品)に切り替えることによって、無線伝送エリアが広がり、工場や倉庫のように広い場所で移動しながら無線LANが利用できるようになります。

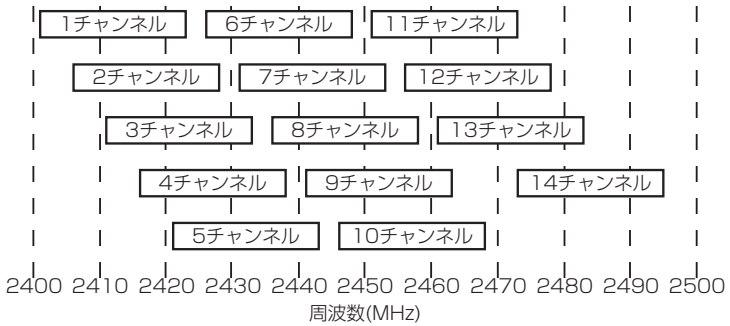


■設定時の注意

◎IPアドレスを重複を回避するため、回線と接続された本製品以外のルータは、DHCPサーバ機能を無効にしてください。

◎ローミングエリア内で通信を行うすべての無線端末は、[ESS ID]、[WEP]の設定をすべて同じにしてください。設定が異なると通信できません。

◎電波干渉を避けるため、「チャンネル」を変更するときは、相手側の無線アクセスポイントのチャンネルから4つ以上飛ばして設定してください。
それ以下のときは、図に示すように帯域の1部が重複するため混信する可能性があります。
例えば、お互いの設定が、1-6-11チャンネルに設定すると混信しません。



アナログ機能を設定する

この章では、
ISDN回線で[TEL]ポートに接続するアナログ機器を使うときに、設定すると便利な機能について説明します。ほかにも機能を設定して使いたいときは、取扱説明書[応用編]も併せてご覧ください。
本製品に電話機をつないで使うときの基本的な方法については、「2 本製品と回線をつなぐ」をご覧ください。

9-1.発信を始めるまでの待ち時間を変更するには ……92
9-2.INSナンバーディスプレイ対応電話機を使うには ……93
9-3.発信者番号通知の設定を変更するには ……94
9-4.外線着信時の呼び出し音を変更するには ……95
9-5.内線通話をするには ……96
9-6.内線転送をするには ……97
■もう一方の相手と内線通話してから転送する ……98
■もう一方の相手と内線通話しないで転送する ……98
9-7.電話機の音量を調節するには ……99
■自分の受話器の音量を調節する ……99
■相手の受話器の音量を調節する ……99
9-8.短縮ダイヤルを登録するには ……100
■短縮ダイヤルで電話する……100
9-9.アナログ機器の課金情報を見るには ……101

9-1　発信を始めるまでの待ち時間を変更するには

ISDN回線は、通常ダイヤルしてから発信するまでに時間がかかります。出荷時の状態では、ダイヤルした電話番号に発信するまでの待ち時間は、5秒に設定されています。必要に応じて、この時間を0～99秒のあいだで変更することができます。また、ポートごとに違う時間を設定できます。

【ダイヤル後、直ちに発信するには】

本製品は、設定された待ち時間に関係なくダイヤルしたらすぐに発信を開始する機能があります。

ダイヤルしてすぐに発信したいときは、電話番号の末尾(サブアドレスがあるときはその末尾)に続けて「#」を押してください。

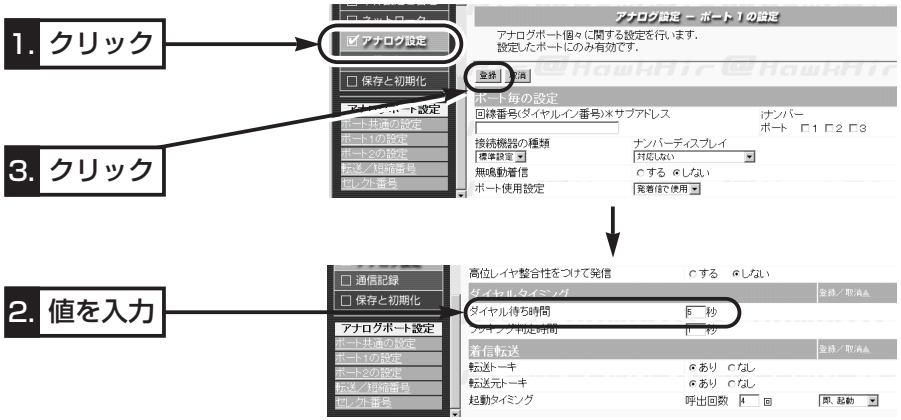
〈変更のしかた〉

電話機を[TEL1]ポートにつないだ場合を例に変更の手順を説明します。

1.設定画面から〈アナログ設定〉→「ポート1の設定」の順番にクリックします。
- 「ポート1の設定」画面を表示します。

2.「ダイヤルタイミング」ー[ダイヤル待ち時間]項目に0～99秒のあいだで入力します。

3.〈登録〉をクリックすると、設定が有効になります。



【⚠注意】
LCR(最低料金自動選択)機能搭載の電話機をお使いの場合は、ダイヤル待ち時間を出荷時の設定値より短くすると、回線を自動選択できなくなり電話をかけられないことがあります。

9-2　INSナンバーディスプレイ対応電話機を使うには

「INSナンバーディスプレイ」は、NTTが有料で提供する基本サービスです。ただし、相手がISDN回線、携帯電話およびPHSから電話をかけてくる場合は、契約しなくても利用できます。また、「キャッチホンナンバーディスプレイ」は、「ナンバーディスプレイ」のオプション機能です。出荷時の状態では、「対応しない」に設定されています。

ポートごとに違う条件を設定できます。

本製品にINSナンバーディスプレイ対応の電話機(またはアダプタ)を接続すると、電話機(アダプタ)のディスプレイに、相手の電話番号(代表電話番号)などが表示されます。また、キャッチホンナンバーディスプレイ対応の電話機を接続すると、通話中に別の相手から着信があった場合、電話をかけてきた相手の電話番号(代表電話番号)などが電話機のディスプレイに表示されます。詳しくは、取扱説明書[応用編]も併せてご覧ください。

※電話機のディスプレイに表示される内容について詳しくは、ご使用の電話機に付属する取扱説明書でご確認ください。

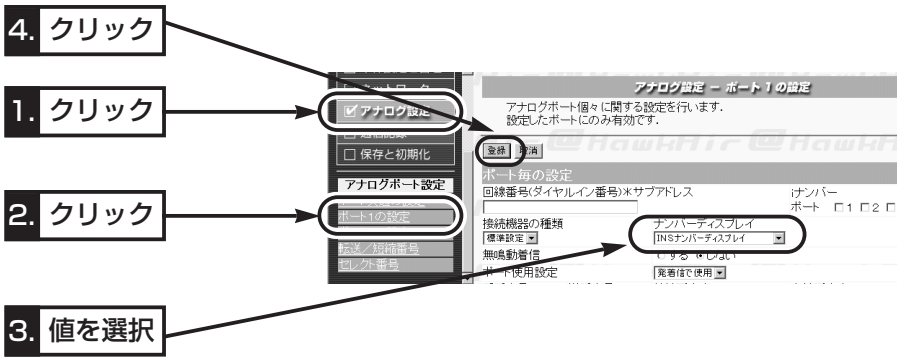
〈変更のしかた〉

電話機を[TEL1]ポートにつないだ場合を例に変更の手順を説明します。

1.設定画面から〈アナログ設定〉→「ポート1の設定」の順番にクリックします。
- 「ポート1の設定」画面を表示します。

2.「ポート毎の設定」ー[ナンバーディスプレイ]項目から該当する値を選択します。

3.〈登録〉をクリックすると、設定が有効になります。

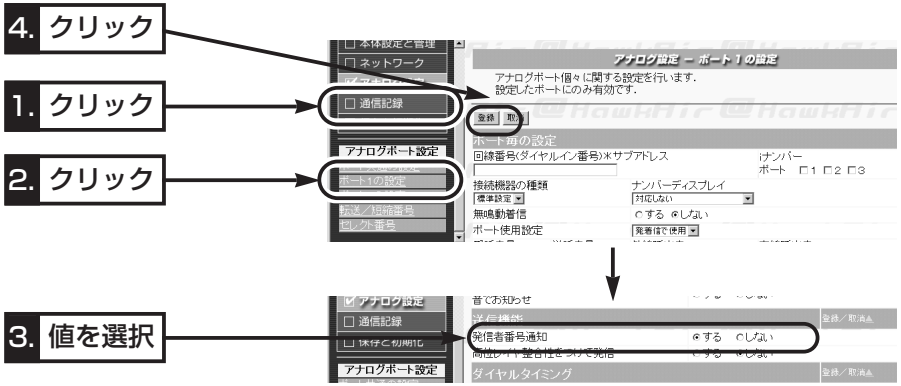


9-3　発信者番号通知の設定を変更するには

「発信者番号通知」は、NTTが提供(無料)する基本サービスです。
発信するときに、発信者番号(契約者回線番号、ダイヤルイン番号)を通知するかどうかをNTTの契約とは関係なく、本製品の設定だけで選ぶことができます。また、ポートごとに違う条件を設定できます。
出荷時の状態では、発信者番号を通知する設定がされています。

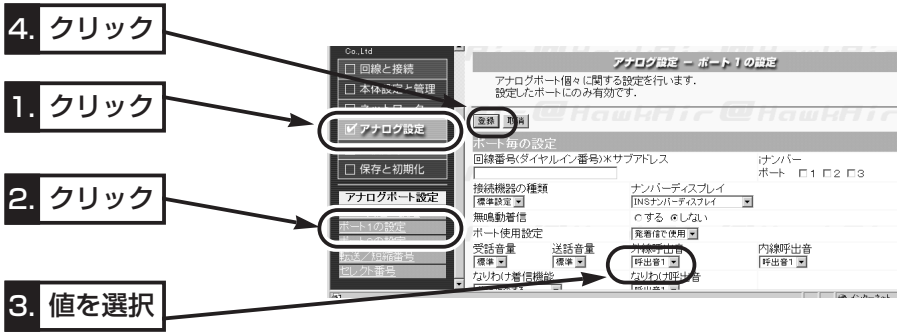
NTT回線契約	発信者番号通知「する」の設定		発信者番号通知「しない」の設定	
	186＋電話番号	184＋電話番号	186＋電話番号	184＋電話番号
通常通知	通知する	通知しない	通知する	通知しない
通常非通知				

〈変更のしかた〉
電話機を[TEL1]ポートにつないだ場合を例に変更の手順を説明します。
1.設定画面から〈アナログ設定〉→「ポート1の設定」の順番にクリックします。
　●「ポート1の設定」画面を表示します。
2.「送信機能」ー[発信者番号通知]項目で、「する」または「しない」のラジオボタンをクリックします。
3.〈登録〉をクリックすると、設定が有効になります。



9-4　外線着信時の呼び出し音を変更するには

呼び出し音を変更することで、かかってきた電話の呼び出し音で、誰宛の電話かがわかります。ポート1、ポート2の電話機に外線着信したとき、呼び出し音のタイミングを、ポートごとに違うタイミングで設定できます。出荷時の状態では、「呼出音1」(電話機の通常音)が設定されています。
【次のような標準音を変更した場合の例：】
呼出音1：「トゥルルルル…、トゥルルルル…」(電話機の通常音)
呼出音2：「トゥル、トゥル」
呼出音3：「トゥルル、トゥルル」
〈変更のしかた〉
電話機を[TEL1]ポートにつないだ場合を例に変更の手順を説明します。
1.設定画面から〈アナログ設定〉→「ポート1の設定」の順番にクリックします。
　●「ポート1の設定」画面を表示します。
2.「ポート毎の設定」ー[外線呼出音]項目から該当する値を選択します。
3.〈登録〉をクリックすると、設定が有効になります。



【⚠注意】
ご使用になる電話機によっては、設定を変更しても呼び出し音が変化しないことがあります。
FAXやモデムをつないでいる場合、呼び出し音を変更すると着信できなくなることがあります。そのような場合は、「呼出音1」(出荷時の設定)に設定してください。

9-5　内線通話をするには

ISDN回線で、[TEL1]ポートと[TEL2]ポートに接続する電話機どうしで内線通話が行えます。

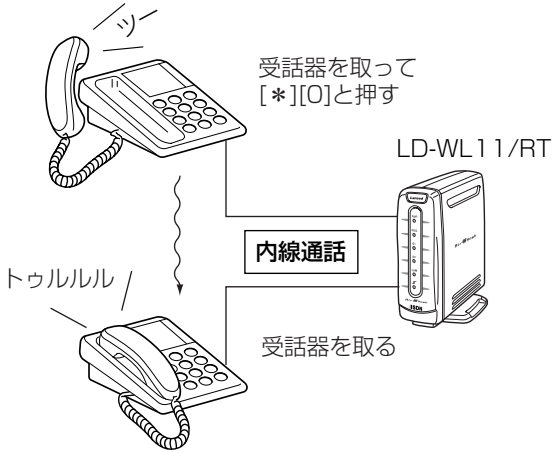
〈操作のしかた〉

1.[TEL1]ポートまたは[TEL2]ポートに接続された電話機の受話器を取ります。
- 受話器を取った電話機から発信音(プー)が聞こえます。

2.電話機のボタンを[＊][0]の順番に押します。
- 受話器から呼び出し音(トゥルルル…)が聞こえます。

3.内線先の相手が出たら、話をします。

※内線の相手が使用しているときは、受話器から話し中音(プープー…)が聞こえます。

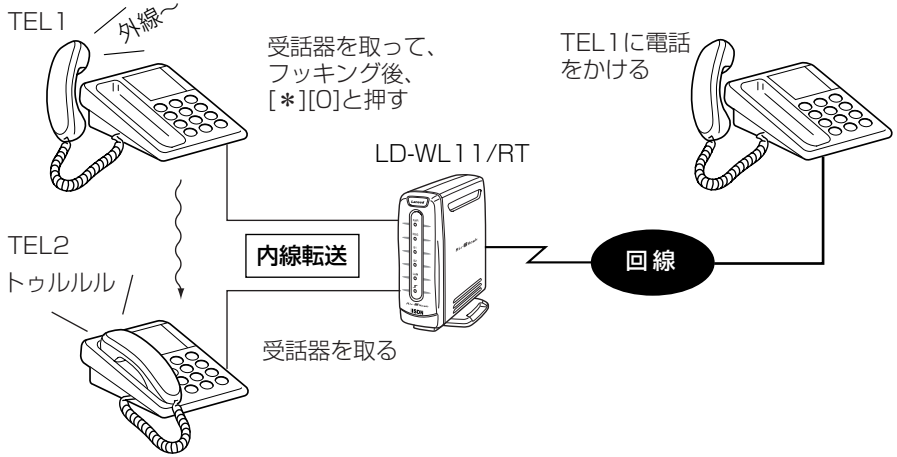


【内線通話できないときは】
- 専用線やOCNエコノミーで使用していませんか？
- ポート1またはポート2の[ポート使用設定]を「使用しない」に設定していませんか？
- 「ポート共通の設定」画面ー「内線通話」の[内線通話の使用設定]を「内線を使用しない」に設定していませんか？
- 疑似コールウェイティング、コールウェイティング中でありませんか？

【内線通話中に使えないアナログ機能】
- 疑似着信転送
- コールウェイティング

9-6　内線転送をするには

通話中の外線電話を、本製品のもう一方のポートにつないだ電話機に内線転送できます。
転送のしかたには、次の2通りがあります。
◎もう一方の相手と内線通話してから転送する
◎もう一方の相手と内線通話しないで転送する



操作のしかたは、次ページをご覧ください。

【フッキングとは】

受話器取ったままで、電話機のフックを短く押すと、通話を保留できます。これを「フッキング」といいます。
フックを長く(出荷時：1秒以上)押すと通話が切れてしまいます。
フックを押してから電話が切れるまでの時間を、「ポート1の設定」および「ポート2の設定」画面ー「ダイヤルタイミング」の[フッキング判定時間]で変えられます。
電話機にフックボタン、キャッチボタンがある場合は、このボタンを使っても通話を保留できます。

【内線転送できないときは】
- ポート1またはポート2の[ポート使用設定]を「使用しない」に設定していませんか？
- 「ポート共通の設定」画面ー「内線通話」の[内線通話の使用設定]を「内線を使用しない」または「内線のみを使用する」に設定していませんか？
- 疑似三者通話、三者通話中でありませんか？

【内線転送中に使えないアナログ機能】
- コールウェイティング
- 疑似コールウェイティング
- 疑似三者通話
- 三者通話
- 疑似着信転送
- 着信転送

9-6 内線転送をするには(つづき)

■もう一方の相手と内線通話してから転送する

〈操作のしかた〉

前ページの図を例に説明します。

1.[TEL1]にかかってきた電話を取ります。
- ●外線電話の相手からの声が聞こえます。

2.[TEL1]の電話機のフックを1回だけ短く押(フッキング)します。
- ●受話器から「プ･プ…」と第2発信音が聞こえて、外線電話の相手が保留されます。

3.[TEL1]の電話機のボタンを[＊][0]の順番に押します。
- ●受話器から呼び出し音(トゥルルル…)が聞こえて、[TEL2]の電話機の呼び出し音が鳴ります。

4.[TEL2]の電話機の相手が電話に出たら、外線電話を転送することを話して、[TEL1]の受話器を置きます。
- ●外線電話の相手からの声が、[TEL2]の受話器から聞こえます。

【ご参考に】
[TEL2]の電話機の相手が電話に出る前に、[TEL1]の電話機のフックをもう一度フッキングすると、内線転送が中止され、再度[TEL1]の電話機で外線電話の相手と話せます。また、[TEL2]の電話機の相手が通話中で転送できないときも同じように操作してください。

■もう一方の相手と内線通話しないで転送する

〈操作のしかた〉

前ページの図を例に説明します。

1.[TEL1]にかかってきた電話を取ります。
- ●外線電話の相手からの声が聞こえます。

2.[TEL1]の電話機のフックを1回だけ短く押(フッキング)します。
- ●受話器から「プ･プ…」と第2発信音が聞こえて、外線電話の相手が保留されます。

3.[TEL1]の電話機のボタンを[＊][0]の順番に押します。
- ●受話器から呼び出し音(トゥルルル…)が聞こえて、[TEL2]の電話機の呼び出し音が鳴ります。

4.[TEL1]の受話器を置きます。

5.[TEL2]の受話器を取ります。
- ●外線電話の相手からの声が聞こえます。

9-7　電話機の音量を調節するには

自分側の受話器の音量と、相手の受話器に聞こえる音量を調節できます。
ポートごとに違う音量を設定できます。出荷時の状態では、「標準」(電話機の通常音)が設定されています。

■自分の受話器の音量を調節する

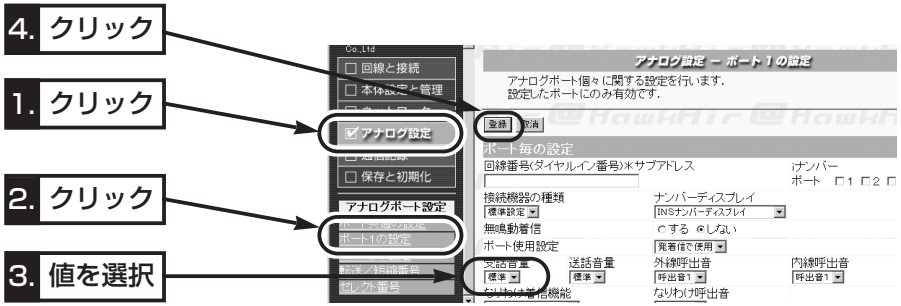
電話機を[TEL1]ポートにつないだ場合を例に変更の手順を説明します。

〈調節のしかた〉

1.設定画面から〈アナログ設定〉→「ポート1の設定」の順番にクリックします。
- ●「ポート1の設定」画面を表示します。

2.「ポート毎の設定」ー[受話音量]項目から該当する値を選択します。

3.〈登録〉をクリックすると、設定が有効になります。



■相手の受話器の音量を調節する

電話機を[TEL1]ポートにつないだ場合を例に変更の手順を説明します。

〈調節のしかた〉

1.設定画面から〈アナログ設定〉→「ポート1の設定」の順番にクリックします。
- ●「ポート1の設定」画面を表示します。

2.「ポート毎の設定」ー[送話音量]項目から該当する値を選択します。

3.〈登録〉をクリックすると、設定が有効になります。

9-8　短縮ダイヤルを登録するには

本製品の短縮ダイヤル機能を使うと、よくかける相手先の契約(代表)電話番号を単独で、またはサブアドレスと組み合わせて登録しておくと、本製品の[TEL]ポートに接続された電話機から、簡単な操作で電話をかけられます。
登録件数は、最大で20(＊10～＊29)件までです。
電話機側に短縮ダイヤル機能がある場合でも、使い分けができます。

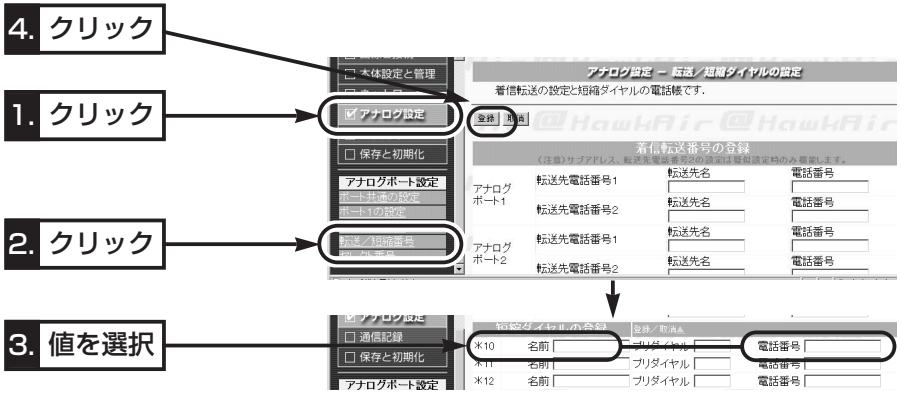
〈登録のしかた〉

名前と電話番号を「＊10」の欄に登録する例を説明します。

1.設定画面から〈アナログ設定〉→「転送/短縮番号」の順番にクリックします。
- 「転送/短縮ダイヤルの設定」画面を表示します。

2.「短縮ダイヤルの登録」ー[＊10]項目の[名前]欄と[電話番号]欄に相手側の情報を入れます。

3.〈登録〉をクリックすると、設定が有効になります。

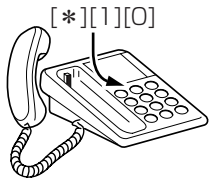


■短縮ダイヤルで電話する

登録した電話番号の短縮番号(例：10)を使って電話をかけるときの操作を説明します。

1.電話機の受話器を上げて、発信音(プー)を確認します。

2.電話機のボタンを[＊][1][0]の順番に押します。
- 相手先に発信を開始します。



【ご参考に】
短縮ダイヤルによる発信は、「発信を始めるまでの待ち時間を変更するには」(☞9-1章)の設定に関係なく直ちに行われます。

9-9　アナログ機器の課金情報を見るには

本製品に接続されたアナログ機器について、通話時間や料金の累積情報を表示させる手順について説明します。

〈情報の見かた〉

アナログ通信機器を[TEL1]ポートに接続しているとして、説明します。

1.本製品の設定画面から、ISDNダイヤルアップ回線の「接続状況」画面を開きます。

2.左フレームから、〈通信記録〉→「アナログポート1」の順番にクリックします。
- 「アナログポート1」画面を表示します。

〈課金情報を消去するときは？〉

「アナログポート1累積情報初期化」から、消去したい項目を選んで、〈リセット〉をクリックしてください。

【料金合計の表示について】
料金合計は、NTTから通知される通話料金(通信料金を除く)を累積して表示しています。
NTTの割引サービスやNTT以外の回線業者の料金は反映されませんので、NTTとの契約内容によっては、実際に請求される通信料金とは異なる場合があります。
表示される通信料金合計は、あくまでも目安としてご覧ください。
インターネットを利用したときなどの通信料金は、「ISDN累積情報」画面(☞7-3章)に表示されます。

保守について

この章では、
本製品の設定画面への接続制限、設定内容保存、設定内容初期化、ファームウェアの更新を行う手順について説明しています。必要なときにお読みください。

10-1.付属のCD-ROMについて ……104
■Auto Run機能について ……104
■対応OSについて ……104
■内容について……104
10-2.ソフトウェアのインストール……105
10-3.ソフトウェアのアンインストール……107
10-4.設定画面へのアクセスを制限するには……108
10-5.設定内容の確認または保存……109
10-6.保存された設定の書き込み……110
10-7.設定を出荷時の状態に戻す……111
A ディップスイッチを使う ……111
B 設定画面を使う ……113
C Utilityを使う ……114
10-8.本製品をバージョンアップする……115
■ファームウェアについて……115
10-9.故障のときは……118

10-1　付属のCD-ROMについて

本製品のCD-ROMは、PC/AT互換機でご使用になれます。
本製品のCD-ROMの内容とその概要やインストールについて説明しています。

■Auto Run機能について

本製品のCD-ROMは、ご使用のPC/AT互換機のCD-ROMドライブに挿入すると、自動的にソフトウェアを準備するためのメニュー画面を表示するようになっています。

■対応OSについて

本製品のCD-ROMに収められたソフトウェアは、以下のOSでご使用ください。
Windows98、Windows98SE、Windows2000、WindowsMe
※「Acrobat Reader」のインストーラーと取扱説明書[応用編]は、Macintoshでもご利用になれます。

■内容について

- 取扱説明書[応用編](PDF形式)
  本製品の設定項目や各回線の応用設定例についての説明書です。
- USBを使うかたへ(PDF形式)
  本製品のUSBドライバーのインストールのしかたや[USB]ポートからパソコンで行える操作やATコマンドによる設定方法について説明しています。
- Acrobat Reader(Windows用)
  CD-ROMに収められたPDF形式のファイルを閲覧するためのソフトウェアです。(インストーラーに表示される画面にしたがってインストールしてください。)
- 簡単設定ソフト(Windows用)
  WWWブラウザを使わないで、「ISDNダイヤルアップ接続」と「フレッツISDN」の設定がウィザード形式で行えるソフトウェアです。
- QuickConnect(クイックコネクト−Windows用)
  回線の接続および切断、接続先の追加および編集をWindowsのタスクバーに表示されたアイコンから行えます。
  簡単設定ソフトやWWWブラウザで設定した内容の編集が行えます。
- IP Name(Windows用)
  本製品の簡易DNSサーバ機能を使う際、ホスト名からIPアドレスを検索したり、その逆引きができるソフトです。
- LD-WL11/RT Utility(Windows用)
  本製品のバージョンアップや全設定内容の初期化を行うソフトです。
- Telnetコマンドガイド(PDF形式)
  Telnetを使って本製品の設定を行うためのコマンドリファレンスです。

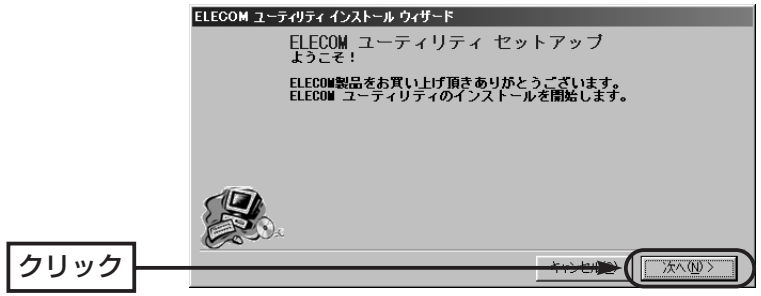
10-2　ソフトウェアのインストール

本製品のCD-ROMに収められているソフトウェアのインストールのしかたについて説明します。
手順にしたがって操作すると、次の4つのソフトウェアが一度にインストールされます。
●簡単設定ソフト　●QuickConnect　●IP Name　●LD-WL11/RT Utility

【インストールの手順】

1.起動しているアプリケーションをすべて終了します。
2.本製品のCD-ROMを、ご使用のPC/AT互換機のCD-ROMドライブに挿入します。
  ●CD-ROMドライブのAuto Run機能が動作して、メニュー画面を表示します。

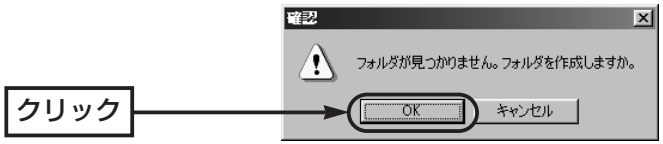
3.〈ユーティリティ　インストール〉をクリックします。
4.〈次へ(N)〉をクリックします。



5.このユーティリティーのインストール先のフォルダーを指定して、〈次へ(N)〉をクリックします。
表示されているインストール先を変更したいときだけ、〈参照〉をクリックして変更先のフォルダーを指定します。

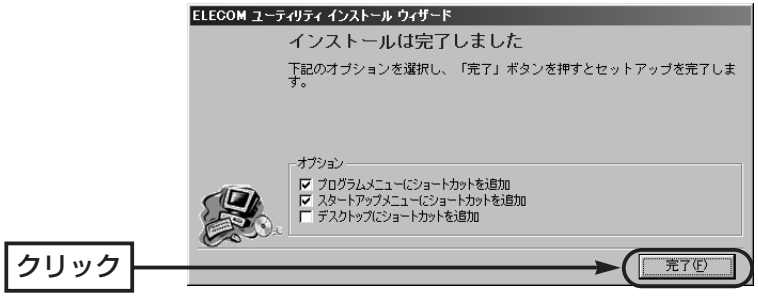
【Auto Run機能が動作しないときは？】
OSのエクスプローラーを使って、[CD-ROMドライブ]アイコンの中に収められた「AutoRun.exe」をダブルクリックすると、上記のメニュー画面を表示します。

10-2 ソフトウェアのインストール
【インストールの手順】(つづき)
6. 〈OK〉をクリックします。



7. 〈インストール(I)〉をクリックします。

8. 〈完了(F)〉をクリックして、インストールが完了です。



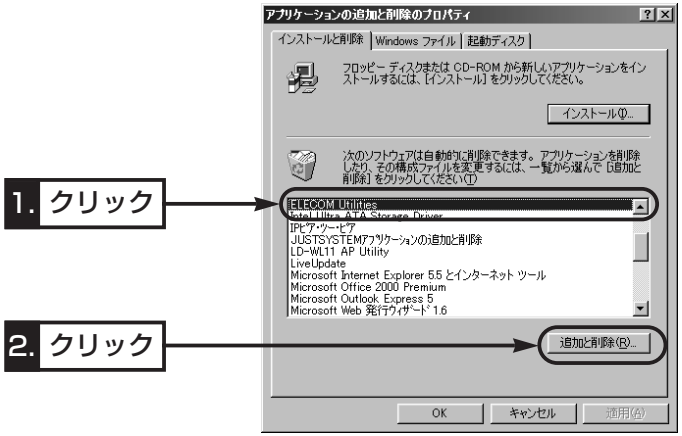
10-3 ソフトウェアのアンインストール

本製品のCD-ROMに収められているソフトウェアのアンインストールのしかたについて、Windows98を例に説明します。
そのほかのOSをご使用の場合は、この手順を参考に、そのOSでアンインストールするときの手順に従ってください。
手順にしたがって操作すると、次の4つのソフトウェアが一度にアンインストールされます。

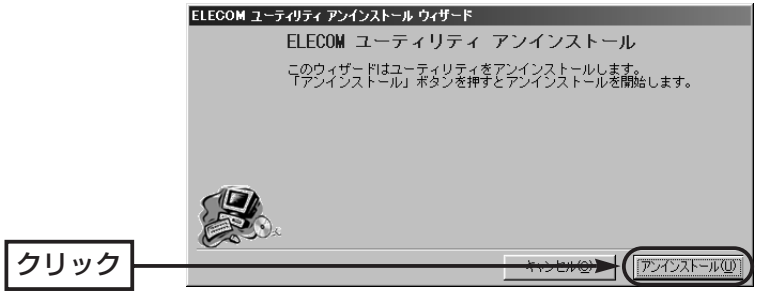
●簡単設定ソフト ●QuickConnect ●IP Name ●LD-WL11/RT Utility

【アンインストールの手順】

1. マウスを〈スタート〉→[設定(S)]→[コントロールパネル(C)]→[アプリケーションの追加と削除]の順番に操作します。
2. 「Icom SR-11 Utilities」→〈追加と削除(R)...〉の順番にクリックします。

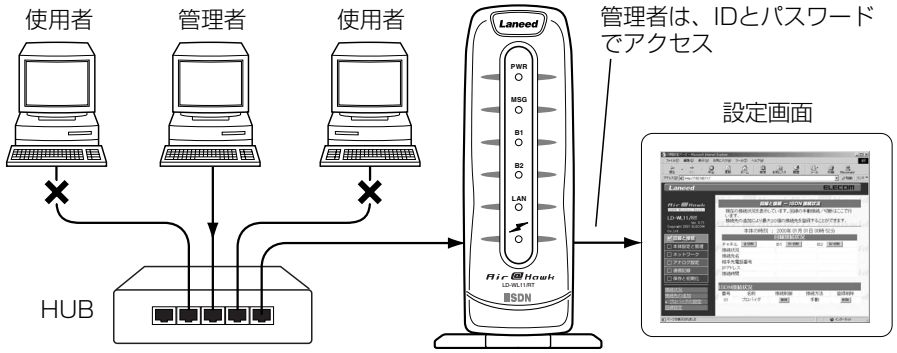


3. 〈アンインストール(U)〉をクリックして、そのあと表示する画面に従います。



10-4　設定画面へのアクセスを制限するには

管理者用の[管理者ID]と[管理者パスワード]を設定することで、管理者以外が本製品を呼び出しできないようにします。
[管理者ID]と[管理者パスワード]が設定されていると、アクセスのとき[ユーザー名(U)]と[パスワード(P)]の入力を求める画面が表示されるようになります。



〈設定のしかた〉

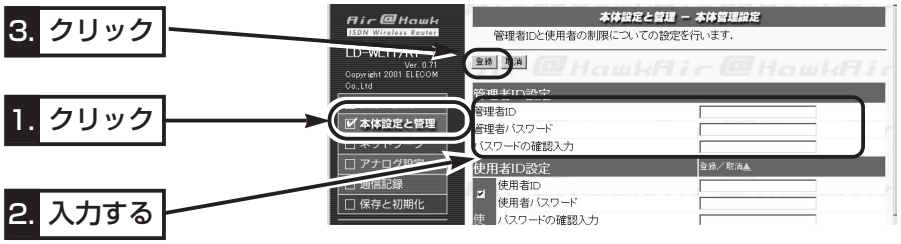
管理者は、大文字/小文字の区別に注意して、任意の英数字、半角31(全角15)文字以内で入力してください。

1.設定画面から〈本体設定と管理〉をクリックします。
- 「本体管理設定」画面を表示します。

2.管理者IDを「管理者ID設定」ー[管理者ID]項目に入力します。

3.管理者パスワードを「管理者ID設定」ー[管理者パスワード]項目に入力して、もう一度、管理者パスワードを[パスワードの確認]項目に入力します。

4.〈登録〉をクリックすると、「ネットワークパスワードの入力」画面を表示しますので、ここで設定した[ユーザー名(U)]と[パスワード(P)]を入力します。



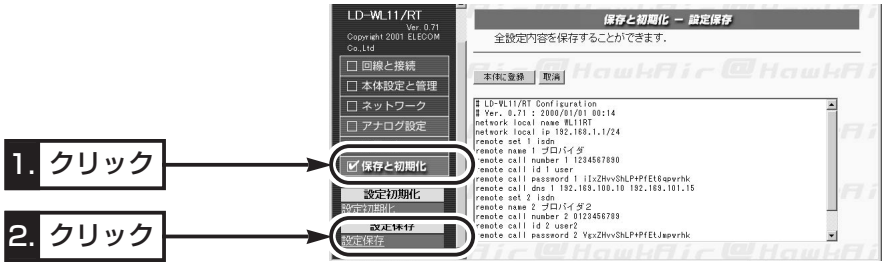
10-5　設定内容の確認または保存

「設定保存」画面では、本製品の各設定画面ごとに設定されている内容を、まとめて確認したり、ハイパーテキスト(HTML)形式のファイルに保存できます。
設定を保存しておくと、何か不用意な事故によって設定内容が失われたときに利用できます。

〈確認と保存のしかた〉

1.設定画面から〈保存と初期化〉→「設定保存」の順番にクリックします。
- 「設定保存」画面を表示します。(表示まで、時間がかかることがあります。)

2.設定されている内容の一覧が表示されます。
※テキストボックス内の内容は、直接削ったり書き替えたりしないでください。



3.「設定保存」画面が表示された状態で、WWWブラウザの「ファイル(F)」メニューから、[名前を付けて保存(A)]をクリックします。

4.[保存する場所(I)]を指定して、任意の名前を[ファイル名(N)]ボックスに入力します。
※「Netscape Navigator」の場合、拡張子を[.htm]か[.html]に変更してください。

5.[ファイルの種類(T)]は、「Webページ、完全(*.htm,*.html)」を選択します。
(Internet Explorer)
※保存ファイルの漢字コードを選択できる場合は、JISを選択して保存してください。

6.〈保存(S)〉をクリックします。
- 指定した場所に設定内容が設定ファイルとして保存されます。

「設定保存」画面でのパスワード表示

「設定保存」画面内に表示される、相手先パスワード、着信パスワード、管理者パスワード、キージェネレータ(暗号化鍵の生成元文字列)の内容は、暗号化して表示しますので、保存した設定ファイルよりパスワードが外部に漏れることはありません。

10-6　保存された設定の書き込み

設定内容が保存された設定ファイルを本製品の設定画面に書き込む手順を説明します。

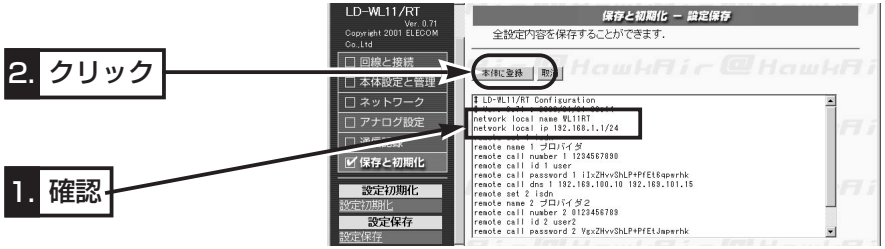
〈書き込みのしかた〉

1.本製品に接続したパソコンから、保存された「htm」の拡張子がついた設定ファイルの上にカーソルを移動して、ダブルクリックします。
- 「設定保存」画面を表示します。

LD-WL11-RT
設定ページ.htm

2.テキストボックス内で、本製品のIPアドレスを確認します。
表示されているIPアドレスが、設定されている本製品のIPアドレスと異なるときは、設定ファイル内の本製品のIPアドレスを、現在設定されている本製品のIPアドレスに変更してください。なお、それ以外の項目は変更しないでください。

3.〈本体に登録〉をクリックします。



4.〈本体に登録〉をクリックすると、「再起動しています。しばらくおまちください。」と表示されたあと、設定ファイルの内容が本製品に書き込まれます。

【⚠注意】
本製品で作成した設定ファイルを同じ機種どうしや本製品以外の機種に書き込まないでください。

10-7　設定を出荷時の状態に戻す

ネットワーク構成を変更するときなど、本製品の設定をはじめからやりなおしたり、既存の設定データをすべて消去したいなど、そのときの状況に応じて次の3とおりの方法で設定内容を出荷時の状態に戻す(初期化する)ことができます。

A ディップスイッチを使う
B 設定画面を使う(☞P113)
C Utilityを使う(☞P114)

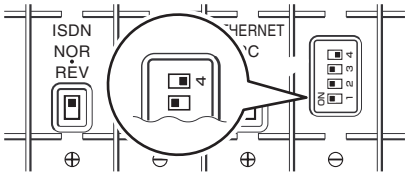
※ Utilityで出荷時の状態に戻すには、付属のCD-ROMからUtilityをインストールする必要があります。
インストールのしかたについては、「ソフトウェアのインストール」(☞10-2)をご覧ください。

A ディップスイッチを使う

この方法で初期化を実行すると、すべての設定項目が出荷時の状態になります。
本製品に設定されたIPアドレスが不明なときなど、本製品の設定画面が呼び出せないときに、次の手順で初期化が行えます。

〈初期化のしかた〉

1.本製品につないだDCコネクターを外して、電源を切ります。
2.本製品に接続されたすべてのネットワーク機器を外します。
3.本製品の電池ボックス内にある4番のディップスイッチを「OFF」に切り替えます。
4.DCコネクターを本製品につないで、電源を入れます。
- 「設定初期化モード」に移行して動作を開始します。



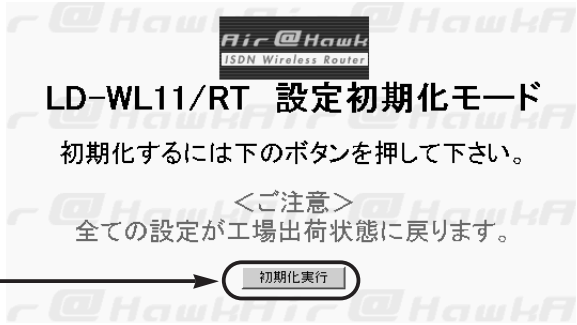
※移行しないときは、本製品の電源を入れなおすか[RESET]ボタンを押してください。

5.パソコンを本製品に接続して、OSを起動します。
※本製品の[USB]ポートに接続するパソコンからは初期化できません。
6.「WWWブラウザ」を起動して、本製品の出荷時のIPアドレス(192.168.1.1)を指定します。(無線での接続は、ESS IDの設定を「Laneed」にしてください。)

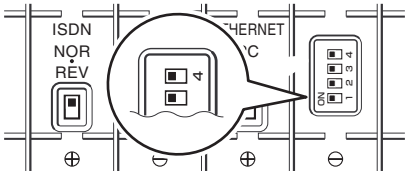
【初期化用ディップスイッチ(4番)の機能】
「OFF」に切り替えると、「設定初期化モード」に移行して、実際に初期化操作(上記手順4.以降の操作)が行われるまで、一時的に本製品のIPアドレスやESS IDを出荷時の値に置き換えます。
初期化操作をしないで、スイッチを戻すと、元の状態にもどります。

10-7 設定を出荷時の状態に戻す
A ディップスイッチを使う
〈初期化のしかた〉(つづき)

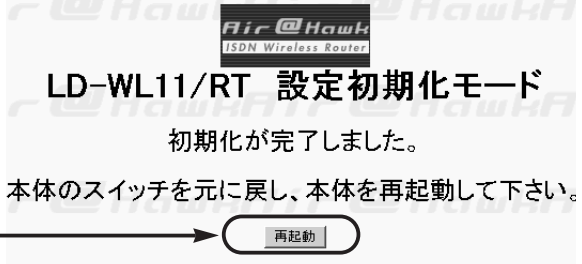
7.[設定初期化モード]画面が表示されたら、〈初期化実行〉をクリックします。



8.本製品の電源が入った状態で、本製品の電池ボックス内にある4番のディップスイッチを「ON」(出荷時の設定)に戻します。



9.〈再起動〉をクリックします。
- [回線設定]画面を表示します。



10.[回線設定]画面で、「回線種別」設定から設定を始めます。

10-7 設定を出荷時の状態に戻す(つづき)

B 設定画面を使う

本製品の設定画面を使って初期化を実行すると、アナログ部または無線部、全設定というように範囲を選んで初期化できます。
本製品に設定されたIPアドレスがわかっていて、そのIPアドレスで設定画面にアクセスできるときは、次の手順で初期化が行えます。

〈初期化のしかた〉

1.WWWブラウザから本製品のIPアドレスを指定して、設定画面を呼び出します。
2.〈保存と初期化〉をクリックします。
- [設定初期化]画面を表示します。

3.初期化したい条件に該当するラジオボタンをクリックします。
4.〈初期化実行〉をクリックします。
- 選択した条件に該当する内容を出荷時の状態に戻して、[回線設定]または[接続状況]画面に戻ります。

■初期化範囲について

全設定初期化 …… 本製品に設定されたすべての内容を出荷時の設定に戻します。

アナログ設定初期化 …… アナログ設定メニューで設定できる項目だけを出荷時の状態に戻します。

無線部初期化 …… ネットワークメニュー内の「無線LAN設定」内の項目を出荷時の状態に戻します。

10-7 設定を出荷時の状態に戻す(つづき)

C Utilityを使う

Utilityは、本製品のCD-ROMに収められています。
ここでは、Utilityを使って初期化する手順について説明しています。
インストールのしかたについては、「ソフトウェアのインストール」(☞10-2)をご覧ください。

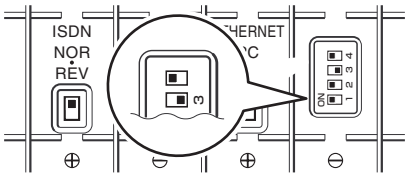
◆Utilityを使う前に◆

Utilityを使って本製品の設定を出荷時の状態に戻すには、Utilityを使う前に、「Utility使用更新モード」に切り替えてください。
切り替えないときは、Utilityを使って初期化できません。

〈切り替えかた〉

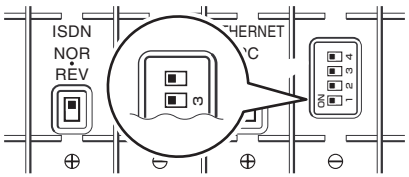
1. 本製品につないだDCコネクターを外して、電源を切ります。
2. 本製品に接続されたすべてのネットワーク機器を外します。
3. 本製品の電池ボックス内にある3番のディップスイッチを「OFF」に切り替えます。
4. DCコネクターを本製品につないで、電源を入れます。
   - 「Utility使用更新モード」に移行して動作を開始します。
     「Utility使用更新モード」で動作中は、前面パネルの[B1]と[B2]ランプが交互に点滅を繰り返します。(交互に点滅を繰り返すまでしばらくおまちください。)

   ※移行しないときは、本製品の電源を入れなおすか[RESET]ボタンを押してください。

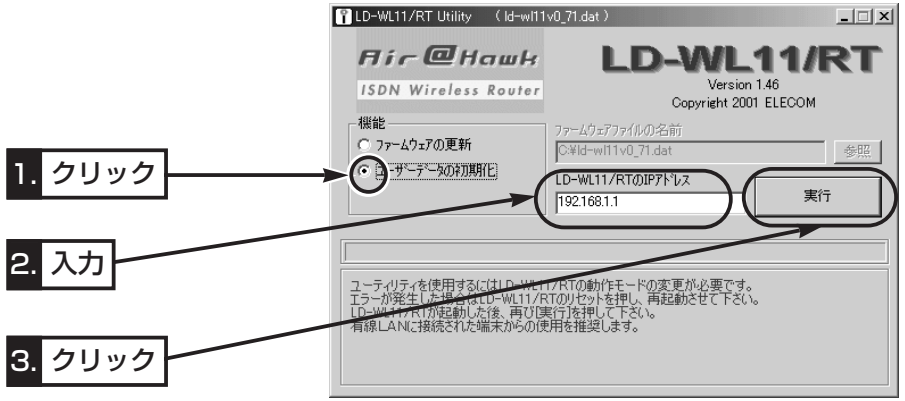


〈初期化のしかた〉

1. 本製品が「Utility使用更新モード」で動作していることを確認したら、1台のパソコンを本製品に接続して、OSを起動します。
   ※本製品の[USB]ポートに接続するパソコンからは初期化できません。
2. 「LD-WL11/RT Utility」を起動します。
   マウスを〈スタート〉→[プログラム(P)]→[LD-WL11/RT Utility]→[ファーム更新ユーティリティ]の順番に操作します。
3. [ユーザーデータの初期化]のラジオボタンをクリックします。
   [LD-WL11/RTのIPアドレス]のテキストボックスに本製品のIPアドレスを指定します。
   〈実行〉をクリックします。(次ページの画面参照)
4. 「ユーザーデータの初期化が完了しました」というメッセージが「LD-WL11/RT Utility」の画面に表示されたら、本製品の電池ボックス内にある3番のディップスイッチを「ON」(出荷時の設定)に戻して、本製品の電源を入れなおすと完了です。



C Utilityを使う
〈初期化のしかた〉(手順3.の操作)



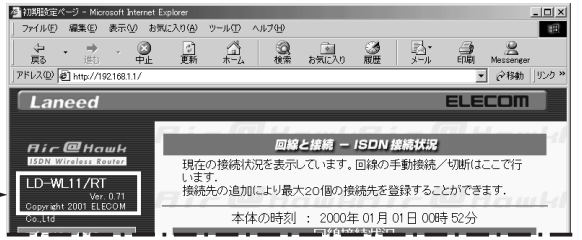
【⚠注意】
Utility実行中は、Utilityを終了したり、本製品の電源を切ったりしないでください。
途中で作業を中断すると、データの消失や誤動作の原因になりますのでご注意ください。
画面に「……が完了しました」と表示されるまでお待ちください。

10-8 本製品をバージョンアップする

付属のCD-ROMに収められているUtilityを使用します。
ここでは、Utilityを使ってバージョンアップ(ファームウェアを更新)する手順について説明しています。インストールのしかたについては、「ソフトウェアのインストール」(☞10-2)をご覧ください。

■ファームウェアについて

ファームウェアは、本製品を動作させるために、出荷時から本製品のフラッシュメモリーに書き込まれているプログラムです。
このプログラムは、機能の拡張や改良のため、バージョンアップを行うことがあります。
バージョンアップの作業を行う前に、本製品の設定画面にアクセスして、次のフレーム内に表示するバージョン情報を確認してください。
バージョンアップをすると、機能の追加など、本製品を最良の状態に保つことができます。



バージョン情報

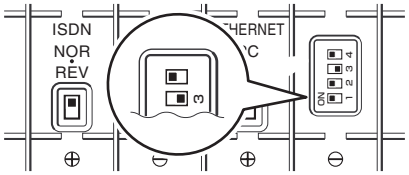
10-8 本製品をバージョンアップする
■ファームウェアについて(つづき)

◆Utilityを使う前に◆

LD-WL11/RT Utilityを使って本製品のファームウェアを更新するには、Utilityを使う前に、「Utility使用更新モード」に切り替えてください。
切り替えないときは、Utilityを使って更新できません。

〈切り替えかた〉

1.本製品につないだDCコネクターを外して、電源を切ります。
2.本製品に接続されたすべてのネットワーク機器を外します。
3.本製品の電池ボックス内にある3番のディップスイッチを「OFF」に切り替えます。
4.DCコネクターを本製品につないで、電源を入れます。



- 「Utility使用更新モード」に移行して動作を開始します。
  「Utility使用更新モード」で動作中は、前面パネルの[B1]と[B2]ランプが交互に点滅を繰り返します。

※移行しないときは、本製品の電源を入れなおすか[RESET]ボタンを押してください。

◆更新操作についてのご注意◆

ファームウェア転送時のエラー防止のため、Utilityがインストールされたパソコン(有線または無線で本製品に接続できること)を本製品と1対1で接続してください。
本製品とパソコンをEthernetで接続できる環境がある場合は、できるだけEthernetで接続することをおすすめします。

- パソコンを無線で接続する場合
  Ethernetケーブルを本製品に接続しているときは、取り外してください。
  本製品との無線通信距離は、1m以内にしてください。

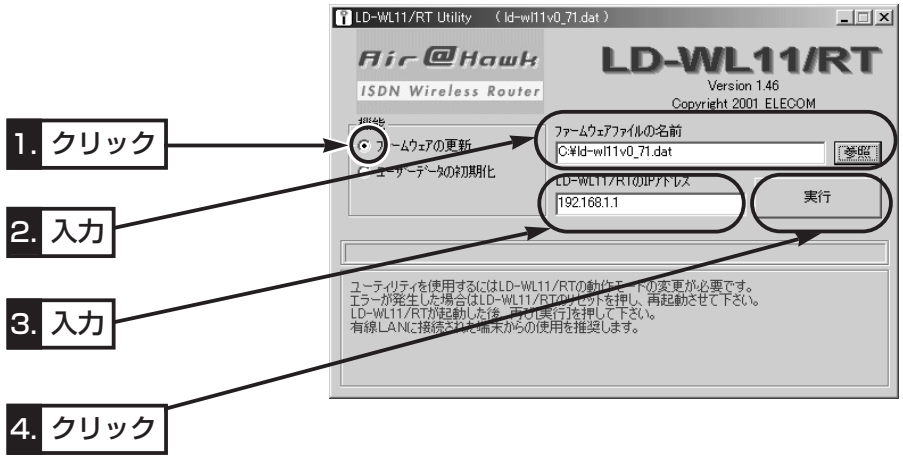
◆記載する操作の結果については、自己責任の範囲となりますので、次のことを守って作業を始めてください。

◎本製品のCD-ROM(Acrobat Readerを除く)は、本機専用ですので、本機以外の製品で使用しないでください。
◎本製品の設定ファイルや弊社ホームページより提供されるファームウェアアップデート用データファイルを、本製品以外の機器に組み込んだり、改変や分解したことによる障害、および本製品の故障、誤動作、不具合、破損、データの消失あるいは停電などの外部要因により通信、通話などの機会を失ったために生じる損害や逸失利益または第三者からのいかなる請求についても弊社は一切その責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

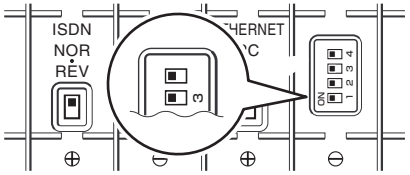
10-8 本製品をバージョンアップする(つづき)

〈バージョンアップのしかた〉

1.本製品が「Utility使用更新モード」で動作していることを確認したら、1台のパソコンを本製品に接続して、OSを起動します。
※本製品の[USB]ポートに接続するパソコンからはバージョンアップできません。
2.「LD-WL11/RT Utility」を起動します。
マウスを〈スタート〉→[プログラム(P)]→[LD-WL11/RT Utility]の順番に操作します。
3.[ファームウェアの更新]のラジオボタンをクリックします。
ダウンロードした本製品の新しい設定ファイル(拡張子：dat)へのリンク先を[ファームウェアファイルの名前]のテキストボックスに直接入力するか、〈参照〉をクリックして選択します。
[LD-WL11/RTのIPアドレス]のテキストボックスに本製品のIPアドレスを指定します。
〈実行〉をクリックします。 (画面参照)



4.「ファームウェアの更新が完了しました」というメッセージが「LD-WL11/RT Utility」の画面に表示されたら、本製品の電池ボックス内にある3番のディップスイッチを「ON」(出荷時の設定)に戻して、電源を入れなおすと完了です。



【更新にかかる時間について】
ファームウェアのデータファイルを本製品に転送して再起動にかかるまでの時間の目安です。
- 転　送＝30～60秒
- 再起動＝30秒

10-9　故障のときは

●保証書について

保証書は販売店で所定事項(お買い上げ日、販売店名)を記入のうえお渡しいたしますので、記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。

●修理を依頼されるとき

取扱説明書にしたがって、もう一度、本製品とパソコンの設定などを調べていただき、それでも具合の悪いときは、次の処置をしてください。

保証期間中は

お買い上げの販売店にご連絡ください。
保証規定にしたがって修理させていただきますので、保証書を添えてご依頼ください。

保証期間後は

お買い上げの販売店にご連絡ください。
修理することにより機能を維持できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。

●アフターサービスについてわからないときは

お買い上げの販売店または弊社各営業所サービス係にお問い合わせください。

Air@Hawk

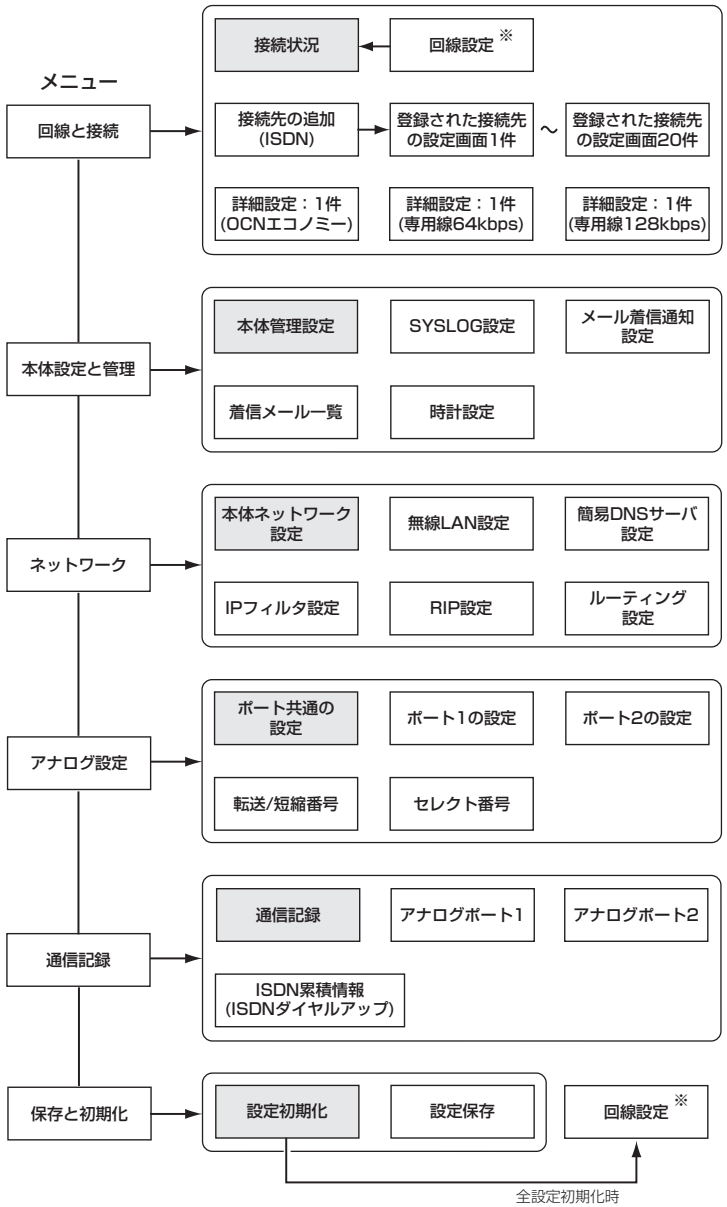
第11章 ご参考に

この章では、
本製品についての補足事項を説明します。

11-1.設定画面の構成について……120
11-2.設定項目の初期値一覧……121
11-3.機能一覧……123
11-4.定格……124
11-5.各種ポート仕様……126
11-6.用語解説……127

11-1　設定画面の構成について

WWWブラウザに表示される本製品の設定画面の構成について説明しています。
各画面の詳しい説明については、取扱説明書[応用編](PDF)をご覧ください。



□は、各メニューのトップ画面を示します。

11-2　設定項目の初期値一覧

本製品のWWWブラウザによる設定画面について、種設定項目の初期値を示します。

[回線と接続]メニュー

回線設定-回線設定
- 回線種別：ISDNダイヤルアップ

ISDN接続-接続設定
- 認証プロトコル：相手に合わせる
- デフォルトGWを構築：する
- コールバック要求：しない

フレッツISDN接続-接続設定
- 認証プロトコル：相手に合わせる
- デフォルトGWを構築：する

専用線(64kbps)の接続-接続設定
- デフォルトGWを構築：する

専用線(128kbps)の接続-接続設定
- デフォルトGWを構築：する

ISDN接続-スループットBOD
- BODを使用：しない
- 移行トラフィック量(BODを使用時)
  (1B→2B)：75%
  (2B→1B)：25%

自動接続-自動接続設定
- 自動接続：しない(ISDNダイヤルアップ)
  する(フレッツISDN)
- 通信速度：64k可変

自動接続-接続制限設定設定
- 料金による制限：0円/月
- 接続回数による制限：0回/日
- 通算接続時間による制限：0分
- 接続可能な時間帯：00：00～00：00
- 終了時刻で強制切断：しない

自動切断-自動切断設定
- 自動切断：する(ISDNダイヤルアップ)
  しない(フレッツISDN)
- タイマー1：150秒
- タイマー2：0秒
- タイマー2を使用する時間帯：00:00～00:00

着信-着信設定
- 着信：しない
- 電話番号チェック：する
- 通信チャネル：2Bまで許可
- PIAFSによる着信：しない
- コールバック：不許可
- 認証方法：PAPまたはCHAP
- 着信を許可する時間帯：00：00～00：00

WAN設定-WANインターフェース設定
- Numberedで使用：しない

アドレス変換-アドレス変換設定
- アドレス変換：する

[本体設定と管理]メニュー

本体管理設定-使用者ID設定(使用者ID使用時)
- 接続設定編集を許可：しない
- 通信記録表示･クリアを許可：しない

SYSLOG設定-SYSLOG設定
- DEBUGを使用：する
- INFOを使用：する
- NOTICEを使用：しない
- ファシリティ：1

メール着信通知設定-サーバ設定
(専用線、OCNエコノミーを除く)
- メール着信通知機能を使用：しない
- 確認時刻(時：分)/間隔(分)：00：00
- 接続先：01：PPP01(接続先未登録時)

メール着信通知設定-メール転送設定
(専用線、OCNエコノミーを除く)
- メール転送機能を使用：しない

時計設定-自動時計設定
- 自動時計設定を使用：する
- NTPサーバ1　IPアドレス：133.100.9.2

11-2 設定項目の初期値一覧(つづき)

[ネットワーク]メニュー

本体ネットワーク設定-本体名称/IPアドレス設定
- 本体名称：WL11RT
- IPアドレス：192.168.1.1
- サブネットマスク：255.255.255.0

本体ネットワーク設定-リモートアクセス用IP設定
- リモートアクセスサーバを使用：しない

本体ネットワーク設定-DHCPサーバ設定
- DHCPサーバ機能を使用：する
- 割り当て開始IPアドレス：192.168.1.10
- 割り当て個数：30個
- サブネットマスク：255.255.255.0
- リース期間：3日

無線LAN設定-無線LAN設定
- ESS ID：＊＊＊＊＊＊(半角英文字Laneed)
- ESS IDの確認入力：＊＊＊＊＊＊(半角英文字Laneed)

無線LAN設定-無線詳細設定
- チャンネル：6
- Rts/Ctsスレッシュホール：無し
- WEPキーを使用：しない
- WEPキー：1(選択) 00-00-00-00-00(文字列)

無線LAN設定-MACアドレスセキュリティー設定
- MACアドレスセキュリティーを使用：しない

簡易DNSサーバ設定-DNSサーバ設定
- DNSサーバの代理応答：する

IPフィルタ設定-IPフィルタ設定

ISDNダイヤルアップ
- 63、64番(Windowsが行う定期的な通信によって起こる「意図しない自動接続」を防止

フレッツISDN
- 55番(本体への不正パケット防止)
- 56～59番(プライベートIPアドレスへの不正パケット防止)
- 60～62番(プライベートIPアドレスへの不正パケットがWAN側に流れるのを防止)
- 63、64番(Windowsが行う定期的な通信によって起こる「意図しない自動接続」を防止)

専用線、OCNエコノミー
- 63番(WAN側からの不正なアクセスを防止)
- 64番(WAN側から本製品への不正なアクセスを防止)

RIP設定-RIP設定
- LAN側にRIPを使用：する
- WAN側にRIPを使用：しない

[アナログ設定]メニュー

ポート共通の設定-内線通話
- 内線通話の使用設定：内線転送を使用する

ポート共通の設定-フレックスホンの設定
- フレックスホン機能：疑似
- コールウェイティング：しない
- 通信中転送：しない
- 三者通話：しない
- 着信転送：しない

ポート共通の設定-有線着信
- 有線着信：すべてのポートに着信
- 時間差優先着信：02秒

ポート共通の設定-リソースBOD
- 発信割り込みを使用：しない
- 受信割り込みを使用：しない

ポート1の設定-ポート毎の設定
ポート2の設定-ポート毎の設定
- 接続機器の種類：標準設定
- ナンバーディスプレイ：対応しない
- 無鳴動着信：しない
- ポート使用設定：発着信で使用
- 受話音量：標準
- 送話音量：標準
- 外線呼出音：呼出音1
- 内線呼出音：呼出音1
- なりわけ着信機能：着信拒否する
- なりわけ呼出音：呼出音1

ポート1の設定-着信機能
ポート2の設定-着信機能
- グローバル着信：する
- セレクト着信：しない
- 通話中に着信があると音でお知らせ：する

ポート1の設定-送信機能
ポート2の設定-送信機能
- 発信者番号通知：する
- 高位レイヤ整合性をつけて発信：しない

ポート1の設定-ダイヤルタイミング
ポート2の設定-ダイヤルタイミング
- ダイヤル待ち時間：5秒
- フッキング判定時間：1秒

ポート1の設定-着信転送
ポート2の設定-着信転送
- 転送トーキ：あり
- 転送元トーキ：あり
- 起動タイミング：4回(呼出回数)　即、起動

11-3　機能一覧

■ 無線LAN機能
- アクセスポイント機能
- ローミング機能
- MACアドレスセキュリティ
- WEP(Wired Equivalent Privacy)
- ESS ID(Extended Service Set IDentifier)

■ アナログ機能(専用線、OCNエコノミーを除く)
- iナンバー
- ダイヤルイン
- INSボイスワープ
  INSボイスワープセレクト
- なりわけサービス
- 短縮ダイヤル
- 内線転送
- 音量調節(ポートごと)
- 発信者番号識別
- グローバル着信
- ナンバーディスプレイ
- 疑似フレックスホン
- フレックスホン
- 迷惑電話お断りサービス
- 内線通話
- 無鳴動着信
- 呼び出しベル音切り替え
- 時間差優先着信
- 発信番号設定

■ ルータ機能
- 自動接続/自動切断機能
- マルチダイヤル機能
- 各種接続制限機能
- INSネット64/フレッツISDN/OCNエコノミー/専用線対応
- 相手先識別着信
- ルーティングプロトコル
  TCP/IP(RIP　スタティック)
- WANプロトコル
  PPP、MP、BACP
- セレクトルーティング機能
  (OCNエコノミー/専用線を除く)
- スタティックルーティング機能
- IPフィルター機能
- RIP機能
- コールバック機能(無課金、CBCP)
- セキュリティー(PAP、CHAP)
- 静的IPマスカレード
- NAT/IPマスカレード
- DNS代理応答機能
- DHCPサーバ機能
- DHCPスタティック機能
- 簡易DNSサーバ機能
- リモートアクセスサーバ機能
- SYSLOG
- RADIUS
- メール着信通知機能
  (OCNエコノミー/専用線を除く)
- 内部時計自動設定

■ ISDN・TA機能
- PIAFS対応
  32kbps
  64kbps(Ver2.0=NTT DoCoMo方式のみ対応)
- HDLC手順による通信
- MP(Multilink PPP)対応
- リソースBOD機能
- スループットBOD/BACP機能
- 同期非同期PPP変換
- Hayse互換ATコマンド
- USBシリアル接続

■ その他
- WWWメンテナンス
- ファームウェアの更新
- TELNETメンテナンス

11-4 定格

■ 一般仕様

●入力電圧：DC12V標準(DC11～13V)
ACアダプター(付属品)は、AC100V±10%
単3型アルカリ乾電池6本(停電時：[TEL1]ポートが動作)
●消費電流：1.5A(最大)
●接地方式：マイナス接地
●使用環境：温度0～+40℃、湿度5～95%(結露状態を除く)
●外形寸法：52.0(W)×155.0(H)×144.4(D)mm
(突起物、スタンドを除く)
●重量：約0.5kg(付属品を除く)
●適合規格：クラスA情報技術装置(VCCI)　準拠
●電取認可番号：▽91-55960[ACアダプター(付属品)]

■ 有線部

●WANインターフェィス：ISDN U点ポート(RJ-11型)×1
※極性反転スイッチ有り
ISDN S/T点ポート(RJ-45型)×1
※終端抵抗スイッチ有り
●LANインターフェィス：[Ethernet]部：[Ethernet]ポート(RJ-45型)×1
※極性反転スイッチ有り
IEEE802.3/10BASE-T準拠
IEEE802.3u/100BASE-TX準拠
[USB]部　：[USB]ポート(アップストリーム型)×1
●アナログインターフェィス：2線式(RJ-11型)×2(−48V給電、ダイヤル方式：PB)
●適用回線：INSネット64、高速デジタル専用線
●適用サービス：ISDN回線交換(2B)※フレームリレー回線は含まない
デジタル専用線(高速符号Iインターフェィス)
●通信速度：[WAN]部　：64/128kbps(同期)
[Ethernet]部：10/100Mbps(自動切り替え)
※100Mbps時、半二重
[USB]部　：12Mbps(最大)

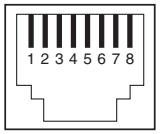
■ 無線部

●国際規格：IEEE802.11/IEEE802.11b
●国内規格：ARIB STD-33/ARIB STD-T66
●通信方式：単信方式
●電波方式：直接スペクトラム拡散
●変調方式：DPSK、DQPSK、(バーガー/CCK符号)
●使用周波数範囲：2400～2497MHz
●チャンネル数：1ch～14ch
●通信速度：11Mbps(最大)
●伝送距離：屋内約50m、屋外約200m(見通し)
11Mbps通信時
屋内約30m、屋外約70m(見通し)
●セキュリティー：WEP(Wired Equivalent Privacy)
ESS ID(Extended Service Set IDentifier)
●内蔵アンテナ：ダイバーシティー対応スロットアンテナ
●送信出力：10mW/MHz以下
●受信感度：−70dBm以下(フレームエラーレート=8%)[11Mbps]
−80dBm以下(フレームエラーレート=8%)[2Mbps]
●復調方式：デジタル復調(マッチドフィルター方式)
●対応機種：PC/AT互換機(DOS/V)
●対応OS：Windows 98、 Windows 98 Second Edition、
Windows Millennium Edition、Windows 2000

11-5 各種ポート仕様

■ [Ethernet]ポート

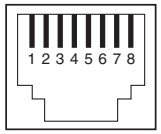
RJ-45型(8 pin)× 1



1.送信(+) 2.送信(−)
3.受信(+) 4.未使用
5.未使用 6.受信(−)
7.未使用 8.未使用

■ [ISDN S/T]ポート

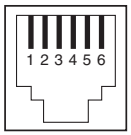
RJ-45型(8 pin)× 1



1.未使用 2.未使用
3.送信(TA) 4.受信(RA)
5.受信(RB) 6.送信(TB)
7.未使用 8.未使用

■ [ISDN U]ポート

RJ-11型(6 pin)× 1



1.未使用 2.未使用
3.L1(REV) L2(NOR)
4.L1(NOR) L2(REV)
5.未使用 6.未使用

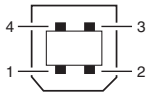
■ [TEL1]/[TEL2]ポート

RJ-11型(6 pin)× 1

1.未使用 2.未使用
3.L2 4.L1
5.未使用 6.未使用

■ [USB]ポート

B-TYPE



1.VCC 2.−Data
3.+Data 4.Ground

【[ISDN S/T]ポートに使うケーブルについて】
[ISDN S/T]ポートと[ETHERNET]ポートは、同一形状で未使用pinが異なりますが、本製品に付属するEthernetケーブルは、全pinストレート結線を使用していますので、ISDN S/Tケーブルとしても使用できます。

11-6 用語解説

ATコマンド
米国Hayes社が開発したモデムの制御コマンドです。コマンドがすべて「AT」で始まるのが特徴です。

Acrobat
アドビ·システムズ社が開発した、パソコン上で文書を電子的に取り扱えるソフトウェアです。
Acrobatが取り扱う文書データをPDFファイルと呼び、その文書を閲覧するだけのソフトウェアをAcrobat Readerと呼びます。
本製品のCD-ROMには、Acrobat Readerと、本製品の取扱説明書[応用編]などの文書データが収められています。

Bチャネル
INSネット64の情報チャネルです。
64Kbpsの通信速度を持ち、WANを介したネットワークの通信は、このチャネルを通じて行われます。INSネット64では、1回線の契約で2本のBチャネルを提供します。
2本のBチャネルを独立した接続回線として扱えるので、同時に異なる2つのネットワークと接続ができます。

CHAP (Challenge Handshake Authentication Protocol)
PPP通信における認証フェーズで使用されるプロトコルです。
サーバから送られた乱数をもとに、クライアントはユーザー名とパスワードを暗号化してからサーバに送信します。
暗号化しないでユーザー名とパスワードを送信するPAPより、セキュリティーで優れています。

DHCPサーバ
DHCP(Dynamic Host Configuration Protocol) は、TCP/IPというネットワーク上で、クライアントがサーバから必要な情報を自動的に取得するプロトコルです。
DHCPサーバは、ネットワーク情報として、"IPアドレス"、"デフォルトゲートウェイ"、"ドメイン名" などを管理しています。
DHCPサーバ機能を持つ本製品は、DHCPクライアント(パソコン)が起動すると、IPアドレスやデフォルトゲートウェイ、DNSアドレスなどを割り振ります。

DNS(Domain Name System)
TCP/IPネットワークにおける名前解決サービスのことです。
DNSにしたがって、ドメインネームサーバにコンピューター名やドメイン名を登録して、ドメインネームサービスを提供しています。
ドメインネームサービスを利用すると、IPアドレスなどの数字ではなく、分かりやすいドメイン名やホスト名で、目的のサイトを指定できます。

DSU(Digital Service Unit)
ISDN網に接続するための終端装置。
局からの配線をこのDSUに接続し、デジタル電話機やデジタルFAX、TA、ルータなどの通信用端末機器と接続して使用する装置

ESS-ID(Extended Service Set-IDentifier)
無線LANで、複数のネットワークグループを通信可能なエリア内に形成するときの識別用の名前です。本製品と通信する無線ネットワークグループは、無線端末を本製品と同じ識別名に設定します。

ETHERNET
ゼロックス社、DEC社、インテル社によって開発されたLANの通信方式です。使用するケーブルによって、10BASE-T，10BASE-5，10BASE-2などのタイプがあります。

FTP(File Transfer Protocol)
ネットワーク上のクライアントとホストコンピューターとの間で、ファイルの転送を行なうためのプロトコルです。

HSD(High Super Digital)
高速デジタル専用線を参照

HTML(Hyper Text Markup Language)
WWWサーバでのドキュメントを記述するための言語で、通常文書の中にタグを埋め込んでいく方式で作成されます。
WWWページを記述する言語として利用されています。

11-6 用語解説(つづき)

HTTP(Hyper Text Transfer Protocol)
HTMLの転送に使うプロトコルです。WWWブラウザでURLを入力すると、HTTPを使ってWWWサーバからパソコンのWWWブラウザへHTML文書が転送されます。転送された文書は、WWWブラウザによって解釈して画面に表示されます。

HUB
ハブを参照

Internet Explorer
WindowsやMac OSに標準で付属しているブラウザソフトのことです。

INSネット64
NTTのISDN回線サービスです。データ用のBチャネル(通信速度64Kbps)を2つと制御用のDチャネル(通信速度16Kbps)を持っています。

IP
インターネットで使われるプロトコルです。
IPを中心にして、その上位にはアプリケーション寄りのプロトコルがあり、下位には通信回線寄りのプロトコルが積層されることでインターネットを形成しています。

IP Masquerade
LAN側で使用しているプライベートIPアドレスをWAN側で使用しているグローバルIPアドレスに、[複数：1]で変換する機能です。

IP(Internet Protocol)アドレス
TCP/IPプロトコルを使用して、構築されたネットワークにおいて、接続しているすべての機器を区別するために付ける32ビットのアドレスです。
通常は、8ビットずつ4つに区切って、10進数の数字列で表されます。　(例：192.168.0.1)
また、プライベートIPアドレスは、ネットワークの管理者が独自に設定するIPアドレスです。
アドレス管理機関やプロバイダに、申請を行う必要はありませんが、以下の規則従って割り振らなければなりません。
外部のネットワークと接続する場合にはアドレス変換を行い、グローバルIPアドレスに変換する必要があります。
次のIPアドレスをプライベートIPアドレスとして、自由に使用できます。

クラスA：10.0.0.0～10.255.255.225
クラスB：172.16.0.0～172.31.255.225
クラスC：192.168.0.0～
192.168.255.225

IPCP(Internet Protocol Control Protocol)
PPPはLCP(Link Control Protocol)とNCP(Network Control Protocol)の二つの部分から構成されています。NCPはLCPに続くデータ通信の次段階(IPなど)の準備を行います。
IPのためのNCPがIPCPです。PPPのNCPフェーズにおいて、IP(Internet Protocol)のリンクを確立するためのプロトコルです。

ISDN(Integrated Services Digital Network)
電話やデータなど異なるサービスを、同じデジタル回線で行う総合回線網です。
NTTではINSネット64としてサービスしています。

LAN(Local Area Network)
同一フロアーや敷地内の比較的小さな規模のネットワークのことです。

i･ナンバー
契約電話番号のほかに、追加で電話番号を1つ持てるINSネット64の付加サービスです。通信機器にはどちらかの電話番号を登録するので、それぞれの通信機器を独立した電話回線で使うのと同じように使えます。

MACアドレス
(Media Access Control Address)
個々の有線または無線通信LANカードに設定されている物理アドレスです。
このアドレスは、LANカードの製造メーカーが世界中で重複しない独自の番号で管理しています。Ethernetや無線LANカードでは、このアドレスを元にしてフレームの送受信をしています。

MP(Multilink PPP)
PPPを拡張したもとで、2チャネルあるISDN回線通信において、対向するルータの通信にMPが使われていることを認識すると、相手のチャネルが空いていれば、2本のチャネルを束ねて通信を行う帯域幅調整プロトコルのひとつです。

NAT(Network Address Translator)
LAN側で使用しているプライベートIPアドレスをWAN側で使用しているグローバルIPアドレスに1対1で変換する機能です。

NTP(Network Time Protocol)
ネットワーク上でパソコンの時計を合わせるためのプロトコルです。多くのプロバイダーは、NTPサーバを動作させています。そのプロバイダーにアクセスするようにすると、パソコンの時計を正確な時刻に保つことができます。

Numbered接続
WAN(回線)側にLAN側とは異なるIPアドレスを設定する接続法です。

OCN(Open Computer Network)
NTTによるデータ通信回線のサービスです。
インターネットへの接続が可能で、常時接続環境を専用線感覚で実現する「OCN常時接続サービス」と、電話またはISDN回線で使用時のみ接続する「OCNダイヤルアクセスサービス」があります。

OCNエコノミーサービス
OCNの常時接続サービスの中でもっとも安価なサービスで、128kbpsの専用線を用いています。

PAP(Password Authentication Protocol)
PPP通信における認証フェーズで使用されるプロトコルです。
ユーザー名とパスワードを暗号化せずに送信します。

PHS(Personal Handy-phone System)
移動帯通信機器の一種で、簡易型携帯電話のことです。
屋内ではコードレス電話、屋外では携帯電話として使用できます。
64kbpsまでのデータ通信にも利用できます。

PIAFS
(PHS Iinernet Access Forum Standard)
PHSを利用した32/64kbpsのデータ通信サービスの標準規格です。
ご契約のプロバイダーがPIAFSに対応していない場合でも、本製品がプロバイダーのPIAFSアクセスポイントの代わりをします。

PPP(Point to Point Protocol)
WANにおいて端末が1対1で通信を行うためのプロトコルです。

PPPソフト
PPPを使用して、ネットワークに接続するときに使用するソフトウェアです。
Windows95/98やWindows NT用のダイヤルアップネットワーク、MacintoshのFreePPP、MacPPP、OpenTransport/PPPなどがあります。

RADIUS
(Remote Authentication Dial In User Service)
リモートアクセスで接続するユーザーを認証するための手続きを決めたプロトコルです。
RADIUSに対応していると、UNIXやWindowsNTなどのRADIUSサーバによって、ユーザーの認証を行うことができます。また、ユーザーのアカウンティング情報も管理できます。

RAS
リモートアクセスサーバを参照

RIP(Routing Information Protocol)
ルータ間で、経路情報を交換するTCP/IPネットワークで使用されるプロトコルです。
この情報をもとに、ルータはパケットを正しい相手に送出します。

SMTP(Simple Mail Transfer Protocol)
電子メールを送信するためのプロトコルです。

SYSLOG
システムメッセージをネットワーク上に出力する機能です。
この機能に対応していると、UNIXなどのSYSLOGサーバによって、ログ情報を管理できます。

S/Tポート
4線式のISDN回線ポートです。本製品に内蔵のDSUを使う場合、このポートにほかのISDN機器を接続して使えます。本製品のDSUを使わない場合は、このポートに外付けのDSUを接続します。

11-6 用語解説(つづき)

TA(Terminal Adapter)
ターミナルアダプターを参照

TCP/IP
Windows98、Windows2000など、主要なOSでサポートする現在最も普及したインターネットの基本プロトコルです。
SMTP、FTPなどは、このプロトコルを利用しています。
Open Transportを搭載したMacintoshには、TCP/IPコントロールパネルが標準で搭載されています。

TELNET
ほかのパソコンを遠隔操作するためのプロトコルです。本製品もTELNETにより遠隔操作が行えます。

URL(Uniform Resource Locator)
インターネット上のホームページなどにアクセスするために指定します。
弊社URLは、http://www.icom.co.jp/です。

Uポート
2線式のISDN回線ポートです。本製品内蔵のDSUを利用する場合は、ISDN回線のモジュラージャックとUポートを接続します。

Unnumbered接続
ルータ装置において、WANポートにIPアドレスを付加しないで、WANポートの対向装置と通信を行う機能です。
通常のルータでは、2つのインタフェースを持つ場合には、それぞれのインタフェースにネットワークが存在し、そのネットワークに属するIPアドレスを付加してネットワーク内の転送先端末を識別します。
しかし、WANで使用されるISDNまたはHSDのような1対1で接続されるインタフェースの場合には転送先はひとつしか存在しないため、必ずしもIPアドレスで転送先端末を識別する必要がありません。

WAN(Wide Area Network)
LANどうしを一般電話回線、ISDN、専用回線などで結ぶことでできる比較的大規模なネットワークです。

WEP(Wired Equivalent Privacy)
無線LANの通信を暗号化して送受信する機能です。
無線LAN通信の盗聴を防止できます。
本製品は、64ビット暗号化に対応しています。

WWWブラウザ
WWWホームページを閲覧したり、WWWサーバを検索に使うアプリケーションです。
アプリケーションには、「Internet Explorer」や「Netscape Navigator」があります。

10BASE-T
Ethernetの規格の1つで、ツイストペアケーブルを用いた、10Mbit/sの速度をもつものです。
本製品の[Ethernet]ポートは、この規格に対応しています。

100BASE-T
Ethernetの規格の1つで、ツイストペアケーブルを用いた、100Mbit/sの速度をもつものです。
本製品の[Ethernet]ポートは、この規格に対応しています。

アクセスポイント
プロバイダー経由でインターネットを利用するとき、その拠点の総称です。ダイヤルアップの場合は、該当するアクセスポイントに電話をかけることでインターネットに接続できます。

イーサネット
ETHERNETを参照

インターネット
世界中のパソコンをIPを使って接続したネットワークの総称です。

回線速度
LAN側とWAN側のISDN機器間の通信速度のことです。
ご契約の回線によって、サポートしている回線速度が異なります。

クライアント
ネットワークにおいて、サーバに対し情報の提供などのサービスを要求し、その返答を受ける端末またはアプリケーションの総称です。

グローバルIPアドレス
インターネット上のどの機器とも重複するもののない世界で唯一のアドレスです。

グローバル着信
INSネット64の契約(代表)電話番号で着信することです。

高速デジタル専用線
専用の回線を施設し、毎月一定の料金で電話やデータ伝送などに利用できる高速デジタル転送サービスのことです。本製品では64Kbpsと128Kbpsの伝送速度に対応しています。

サブアドレス
ISDNでは、1本の回線に複数のISDN端末を接続できます。そのため、電話番号のほかに相手を特定するためのサブアドレスを指定することができます。サブアドレスは、PHSからも利用できます。

サブネットマスク
1つのIPアドレスをネットワークアドレスとホストアドレスに区別するために使用します。
あるホストのIPアドレスが「192.168.0.1」、サブネットマスクが「255.255.255.0」とすると、IPアドレスとサブネットマスクを2進数にして掛け合わせると、ネットワークアドレス「192.168.0.0」となり、のこり「1」がホストアドレスになります。

終端抵抗
ISDNのS/Tポートに複数の機器を接続したときに、いちばん端の機器に接続します。これを適切に挿入しないと、ISDNが誤動作を起こすことがあります。

ターミナルアダプター(TA)
パソコンやモデム、アナログ電話、FAXなど、本来ISDN対応機能を持たない通信機器をISDNに接続できるようにするハードウェアです。

ダイヤルアップ
プロバイダーのアクセスポイントに電話をかけて、インターネットに接続することです。

ダイヤルイン
1回線に複数の通信機器が接続されている場合に、その中の特定の通信機器に、直接着信させることを可能にするINSネット64のサービスです。
一般の電話回線からの着信時にも利用できます。
ダイヤルインサービスを契約すると、本来の契約電話番号とは別に、複数の追加番号が利用できます。

ダイヤル(パルス)回線
アナログ電話機で、回したダイヤルが戻るごとに発信される電気信号(パルス)の回数で、電話番号を電話局の交換機に通知する電話機、またはその電話回線のことです。

ターミネータ
終端抵抗を参照

端末型ダイヤルアップ
1台のパソコンをインターネットに接続することを指します。本製品では、LANに接続されているすべてのパソコンからインターネット接続できます。

同期通信
データ通信を行うときに、送信側と受信側でタイミングを一致させながらデータを転送する転送効率の良い方法です。

ドメイン名
IPアドレスの状態では人間には理解しにくいので、IPアドレスの所属グループをドメインとしてドメイン名が割り当てられます。
例)icom@bbb.co.jpという電子メールアドレスの場合、bbb.co.jpがドメイン名です。

トラフィック
ネットワーク上のパケットの流れやネットワークの回線にかかる負荷(データ量)のことです。
トラフィックが大きくなると、データ転送の遅れやデータ欠落が起こる可能性があります。

ナンバーディスプレイ
着信したときに、どこから着信したかを通知してくれる機能です。INSネット64では、アナログの電話回線からの着信を通知させるには、NTTとINSナンバーディスプレイの契約が必要です。
アナログの電話回線以外(ISDN、携帯電話、PHSなど)からの着信では契約は不要です。

11-6 用語解説(つづき)

認証
インターネットなどを利用して、ネットワークにアクセスしてくるユーザーが、パスワードとユーザーIDを入力して、アクセスの権利があるかどうかを確認することです。

ネットワーク
データなどを転送するために、サーバ、ワークステーション、パソコンなどの機器が、ケーブルや電話回線を介して、通信網と接続された状態をいいます。

パケット
データが送受信されるときの単位です。
送受信に必要な情報を持つヘッダ部と、送りたいデータそのものであるデータ部から構成されています。

パスワード
ネットワークセキュリティー上、ユーザーがネットワークにアクセスするために入力する鍵となる文字列で、パスワードを設定すると、ユーザーがあらかじめ設定された文字列を正しく入力したとき、アクセスが可能になります。

ハブ(HUB)
本製品などを使用して、ネットワークを構築するときに必要になる装置です。
10BASE-Tまたは100BASE-TXケーブルを使って本製品と接続します。
100Mbpsで通信をするときは、カテゴリー5のツイストペアケーブルを使用すると同時に、HUBも100BASE-TXに対応している必要があります。

非同期通信(調歩同期)
データ通信を行うときに、データの開始部分にスタートビット、終了部分にストップビットを付けて、不定期に送り出す方式のことです。
スタートビットとストップビットを付加するため、転送効率は、同期通信に比べて悪くなります。

フラッシュメモリー
本製品が持つ書き込みが可能な記憶装置です。
ここに貯えられた情報は電源を切っても消えないで保存されます。

フッキング
受話器を置くところにあるスイッチを短く押す操作です。最近の電話機では、フックスイッチとは別にフッキングするためのボタンが用意されている機種があります。
フッキングはフレックスホンの操作を行うときなどに使います。

プッシュ(トーン)回線
アナログの電話回線で、2種類の音の組み合わせを電気信号にして、電話番号を電話局の交換機に通知するタイプ、またはその電話回線のこと。
押しボタン(PB)電話がこの方式を採用しています。

ブラウザ
WWWサーバからHTML文書を入手して、表示する機能を持ったアプリケーションです。
本製品では、代表的なInternet Explorerを使って説明しています。

フレックスホン
NTTが提供するサービスで、INSキャッチホン、三者通話、通話中転送、着信転送の4つの総称です。

フレックスホン
NTTが提供するサービスで、INSキャッチホン、三者通話、通話中転送、着信転送の4つの総称です。

プロトコル
通信で、データの送受信を行うときにしたがうべき手順を定義したもの。

ブロードキャスト
同一ネットワーク内のすべてのハードウェアへパケットを一斉に送信(同報通信)することです。

プロバイダー
インターネットサービスプロバイダー(ISP)の略で、インターネットへの接続サービスを提供する業者のことです。

ポート番号
TCPやUDPでアプリケーションを識別するための番号です。例えば、WWWは、TCPの80番、メールは、TCPの25番というように決められています。

リモートアクセスサーバ
出先の端末から、公衆電話回線を使用してダイヤルアップ接続することにより、出先の端末にIPアドレスを割り当て、既存のネットワークの端末とIPで通信させる機能をもった機器のことです。
リモートアクセスすると、LANに直接つながっているパソコンと同様に、データ共有、プリンター共有などLANの資源を使用することができます。

11Mbps ISDN無線ルータ
LD-WL11/RT
取扱説明書【基本編】
発行　エレコム株式会社
2001年4月9日　第1版

©2001 ELECOM Corporation. All rights reserved.

Laneed
ELECOM